

# 使いこなす本

パソコンの各部は  
こうなっている

基本的な機能を使おう

電源と節電機能を賢く使おう

オプション機器を活用しよう!

BIOSセットアップ

技術情報

索引

# ハード編

## FMV-BIBLO

### MF3/500X, MF3/45



# こんなことがやりたい

## アウトドアで使いたい！



屋外などのコンセントが使えない場所では、ACアダプタを取り外して、バッテリーでパソコンが使えます。

➡ P.66

## 携帯電話 / PHS でインターネットにアクセスしたい！



携帯電話 / PHS でインターネットに接続してメールを送ったり、ホームページを見ることができます。

➡ P.99

## デジタル写真を使いたい！



CCDカメラを使うと、デジタル写真を簡単に取り込めます。

➡ P.39

## 印刷したい！



企画書、年賀状、家計簿...パソコンで作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

➡ P.87

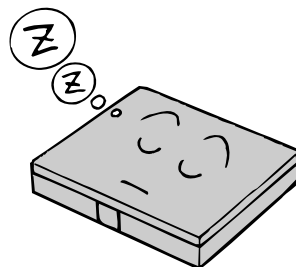
## もっと快適に作業したい！



たくさんのアプリケーションを開いたり、ゲームをしているとき「パソコンの処理が遅いなあ」と感じたことはありませんか？メモリを増設すると、より快適に作業ができます。

➡ P.90

## 休憩するときは、一時停止で節電！



液晶ディスプレイを閉じるか、SUS/RESスイッチを押すだけで、パソコンの作業を一時停止して、節電できます。

➡ P.73

## 家計簿もすばやく入力したい！



キーボードでは数字の位置がなかなか覚えられなくて...というときは、テンキーボードを使って数字を入力できます。

👉P.94

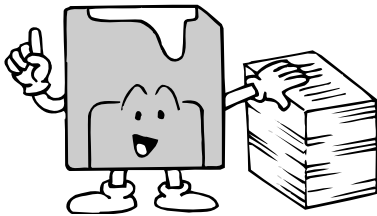
## 大画面でプレゼンテーション！！



CRT ディスプレイや液晶プロジェクタにBIBLOの画面を映すことができます。

👉P.106

## たくさんの容量のデータを保存したい！



スーパーディスクやCD-Rを使って、大容量のデータをコピーしたり、バックアップとして保存できます。

👉P.25

## BIBLOで映画も見たい！



DVD-ROMドライブを取り付けると、BIBLOで映画も楽しめます。

👉P.25

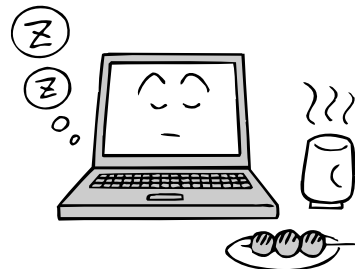
## 使い慣れたマウスで快適作業！



フラットポイントに慣れないときは、マウスを接続して作業しましょう。

👉P.94

## 節電設定で省エネしよう！



BIBLOを使っていないときも電源を入れたままにいませんか？自動的に電力をセーブして、電力の無駄使いを防ぎましょう。



👉P.79

## 本書の表記について




### 安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。


本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 <b>警告</b>	 <b>注意</b>
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があります。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。


また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次のような記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	ⓧで示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は一般的な禁止事項）が示されています。
	で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

### 画面例および入力例について

- 表記されている画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。また、お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上に  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。









`dir c:`

この場合は、「dir」と入力したあと、 を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

### イラストについて

MF3/500X を例にしています。他の機種では若干異なる場合があります。

## その他の記号について

 <b>重要</b>	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>アドバイス</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
 <b>コラム</b>	知っている则便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CDを表しています。
 <b>用語</b>	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

## 製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windowsまたは Windows98
Microsoft® Windows® 95 operating system	Windows95
Microsoft® WindowsNT® Workstation operating system Version4.0	WindowsNT4.0
Microsoft® Internet Explorer	Internet Explorer
Intellisync® for Notebooks	Intellisync
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan

## 機種名の表記について

次のように略して表記します。

機種名	本書での表記
FMV-BIBLO MF3/500X, MF3/45	本パソコン
FMV-BIBLO MF3/500X	MF3/500X
FMV-BIBLO MF3/45	MF3/45

こんなことがやりたい  
本書の表記について

## 第1章 パソコンの各部はこうなっている

1. 各部の名称と働き .....	2
本体前面 .....	2
本体右側面 .....	4
本体左側面 .....	6
本体背面 .....	7
本体下面 .....	8
コネクタボックス前面 .....	10
コネクタボックス背面 .....	10
状態表示 LCD .....	12
キーボード .....	14
ワンタッチボタン .....	17
FDD ユニット .....	17
CCD カメラ .....	18
2. 本パソコンの取り扱い上の注意 .....	19
取り扱い上の注意 .....	19
廃棄について .....	20

## 第2章 基本的な機能を使おう

1. コネクタボックスを使う .....	22
気をつけてください～コネクタボックスの取り付け / 取り外し .....	22
コネクタボックスを取り付ける .....	22
コネクタボックスを取り外す .....	23
2. ユニットを交換する .....	24
気をつけてください～ユニットを使うとき .....	24
モバイルマルチベイに取り付けられるユニット .....	25
モバイルマルチベイのユニットを交換する .....	26
3. フロッピーディスクを使う .....	27
FDD ユニットを取り付ける .....	27
FDD ユニットを取り外す .....	28
気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき .....	29
使えるフロッピーディスクは？ .....	29
フロッピーディスクをセットする / 取り出す .....	30
フロッピーディスクのデータを守るには .....	31
4. CD を使う .....	32
気をつけてください～CD を使うとき .....	32
使えるCD は？ .....	33
CD をセットする / 取り出す .....	33

5.	ワンタッチボタンを使う .....	37
	アプリケーションを起動する .....	37
	アプリケーションの割り当てを変更する .....	38
6.	CCD カメラを使う .....	39
	必要なものを用意する .....	39
	CCD カメラを取り付ける .....	39
	FM キャプチャについて .....	42
	<b>コラム</b> 「FJV 形式」と「MPEG1 形式」について .....	47
	CCD カメラを収納する .....	49
7.	音量を調節する .....	50
	音量ボリュームで調節する .....	50
	音量つまみで調節する .....	50
8.	画面の解像度や発色数を変える .....	52
	液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数 .....	52
	液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える .....	52
9.	液晶ディスプレイの明るさを変更する .....	55
	明るさを設定する .....	55
	設定した明るさを変更する .....	55
10.	お手入れのしかた .....	56
	パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ .....	56
	フロッピーディスクドライブのお手入れ .....	56

### 第 3 章 電源と節電機能を賢く使おう

1.	電源を入れる / 電源を切る .....	60
	電源を入れてパソコンを使おう .....	60
	今日はおしまい。電源を切るには? .....	62
2.	AC アダプタで使う .....	64
	AC アダプタを取り付ける .....	64
	AC アダプタを取り外す .....	65
3.	バッテリーで使う .....	66
	充電する .....	66
	充電時間 .....	67
	稼動時間 .....	68
	残量を確認する .....	69
	気をつけてください～バッテリーを使うとき .....	71
	内蔵バッテリーパックを交換する .....	71
4.	節電する .....	73
	サスペンド機能と Save To Disk 機能 .....	73
	サスペンド機能を使う .....	74
	Save To Disk 機能を使う .....	77
	<b>コラム</b> 節電機能について .....	78

5. 節電の設定を変更する .....	79
ご購入時の節電の設定 .....	79
「電源の管理」で設定を変更する .....	79
「PMSet98」で設定を変更する .....	80

## 第4章 オプション機器を活用しよう！

1. オプション機器について .....	84
オプション機器の紹介 .....	84
オプション機器の接続にあたって .....	86
2. プリンタを接続する .....	87
必要なものを用意する .....	87
プリンタを接続する .....	87
3. メモリを増やす .....	90
必要なものを用意する .....	90
メモリを交換する .....	90
4. マウス/テンキーボードを接続する .....	94
5. PCカードをセットする .....	95
気をつけてください～PCカードを使うとき .....	95
必要なものを用意する .....	95
PCカードをセットする .....	96
PCカードを取り出す .....	97
6. 携帯電話やPHSを接続する .....	99
USBコネクタに接続する .....	99
PCカードを使って接続する .....	101
USBコネクタに携帯電話やPHSを接続して通信する .....	102
7. 外部ディスプレイを接続する .....	106
必要なものを用意する .....	106
外部ディスプレイを接続する .....	106
ディスプレイの表示を切り替える .....	108
外部ディスプレイの解像度と発色数について .....	110
リフレッシュレートを変更する .....	111
マルチモニタ機能を使う .....	113
8. その他のオプション機器を使う .....	115
ハードディスクを使う .....	115
MO（光磁気ディスク）ドライブを使う .....	115



## 第 5 章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは ..... 118
2. BIOS セットアップの操作のしかた ..... 119
  - BIOS セットアップを起動する ..... 119
  - 設定を変更する ..... 120
  - 変更内容を取り消す ..... 120
  - BIOS セットアップを終了する ..... 121
3. ご購入時の設定に戻す ..... 122
4. BIOS セットアップのメニュー詳細 ..... 123
  - メインメニュー ..... 123
  - 詳細メニュー ..... 124
  - セキュリティメニュー ..... 126
  - 省電力メニュー ..... 128
  - 起動メニュー ..... 129
  - 情報メニュー ..... 130
  - 終了メニュー ..... 130
5. BIOS のパスワード機能を使う ..... 131
  - パスワード機能を設定する ..... 131
  - パスワードを入力する ..... 132
  - パスワードを変更 / 削除する ..... 133
6. BIOS が表示するメッセージ一覧 ..... 134
  - メッセージ一覧 ..... 134
  - メッセージが表示されたときは ..... 139

## 第 6 章 技術情報

1. 仕様一覧 ..... 142
  - 本体 ..... 142
  - モデム ..... 144
  - 携帯電話接続用 USB ケーブル ..... 145
  - リソース一覧 ..... 145
  - コネクタのピン配列と信号名 ..... 146
  - CRT ディスプレイの走査周波数 ..... 147
2. Save To Disk 領域 ..... 149
  - Save To Disk 領域について ..... 149
  - Save To Disk 領域の容量 ..... 149
  - Save To Disk 領域を変更する ..... 150
3. 赤外線通信について ..... 152
  - 赤外線通信の概要 ..... 152
  - Intellisync ..... 152
  - 制限事項 ..... 154

4. モデムについて .....	155
内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意 .....	155
電話回線の接続口の形状 .....	156
電話回線に電話機を取り付けているとき .....	157
認証番号の表示 .....	157
5. ドライバのインストール .....	158
インストールのときに気をつけること .....	158
ディスプレイドライバをインストールする .....	159
サウンドドライバをインストールする .....	164
6. その他の注意事項 .....	169
ACPIについて .....	169
フラットポイントについて .....	176
インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバについて (MF3/500Xのみ).....	177
索引 .....	178

# 第 1 章

## パソコンの各部はこうなっている

本書では、パソコン本体の各部の名称と働きや、取り扱い上の注意について説明しています。

- 1. 各部の名称と働き ..... 2
- 2. 本パソコンの取り扱い上の注意 ..... 19



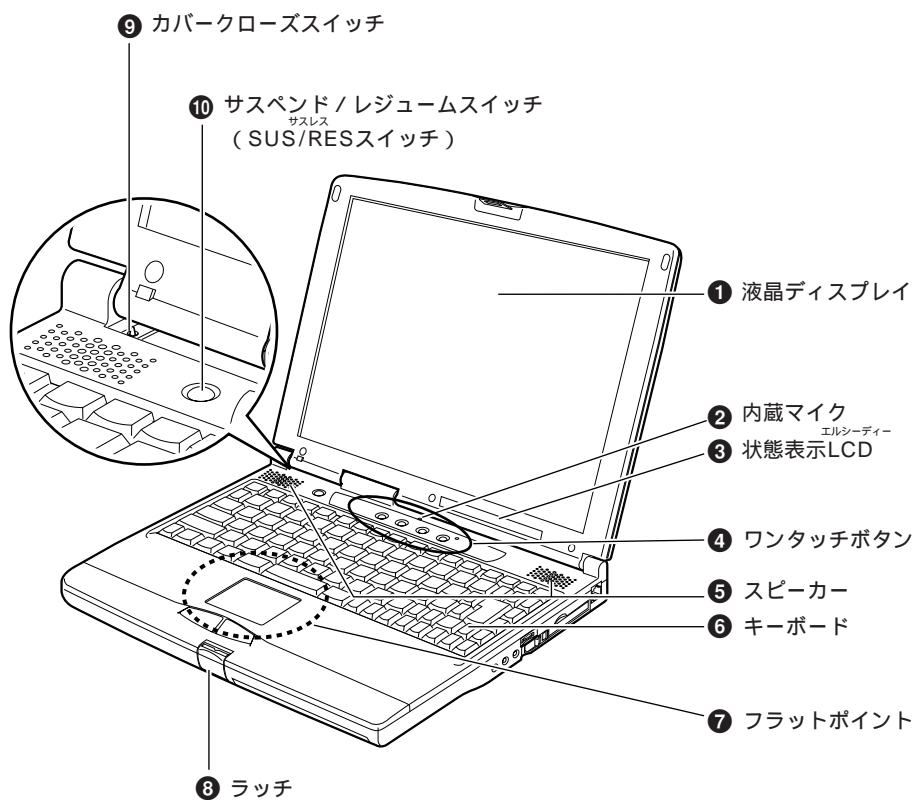
# 1

## 各部の名称と働き

パソコン本体各部の名称と働きを、以下の順番で説明します。

- ・ 本体前面 ← P.2
- ・ 本体左側面 ← P.6
- ・ 本体下面 ← P.8
- ・ コネクタボックス背面 ← P.10
- ・ キーボード ← P.14
- ・ FDDユニット ← P.17
- ・ 本体右側面 ← P.4
- ・ 本体背面 ← P.7
- ・ コネクタボックス前面 ← P.10
- ・ 状態表示LCD ← P.12
- ・ ワンタッチボタン ← P.17
- ・ CCDカメラ ← P.18

### 本体前面



## アドバイス

### 内蔵マイク

・カラオケソフトなどマイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリング(キーンと音がること)が起きることがあります。このようなときは、音量を調整するか市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。  
「音量を調節する」

(☞P.50)

また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」(消音)にしてください。

☞画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決! Q&A」

・内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

### フラットポイント

・設定は「コントロールパネル」の「マウス」で変更できます。

マウスポインタの速度や、左右ボタンの役割などが変更できます。

☞画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決! Q&A」

また、スクロール機能を使用しない場合は、「ジェスチャー」タブの「スクロール機能を使う」のをクリックしてにしてください。

・フラットポイントは表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合は、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

### ① 液晶ディスプレイ

パソコンの画面を表示します。

### ② 内蔵マイク

音声(モノラル)を録音するときなどに使います。

### ③ 状態表示 LCD

パソコンの状態を表示します。

「状態表示 LCD」(☞P.12)

### ④ ワンタッチボタン

アプリケーションを起動したり、新着Eメールを確認したりするボタンです。

「ワンタッチボタン」(☞P.17)

### ⑤ スピーカー

音声を出力します(ステレオ)。

### ⑥ キーボード

文字を入力したり、パソコンに命令を与えたりします。

「キーボード」(☞P.14)

### ⑦ フラットポイント

操作面を上下左右になぞることで、マウスポインタを操作できます。操作面の下側と右側をなぞると、スクロールできます。

手前のボタンは、マウスの左ボタン、右ボタンに相当します。また、操作面を指でたたくと左ボタンを押したときと同じ機能になります。

### ⑧ ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。

液晶ディスプレイを開くときは、ラッチを押してロックを外します。

### ⑨ カバークローズスイッチ

液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンド(一時停止)し、開けたときにレジューム(サスペンドする前の状態に戻す)するためのスイッチです。

「液晶ディスプレイを閉じる」(☞P.75)

### ⑩ サスペンド/レジュームスイッチ(SUS/RESスイッチ)

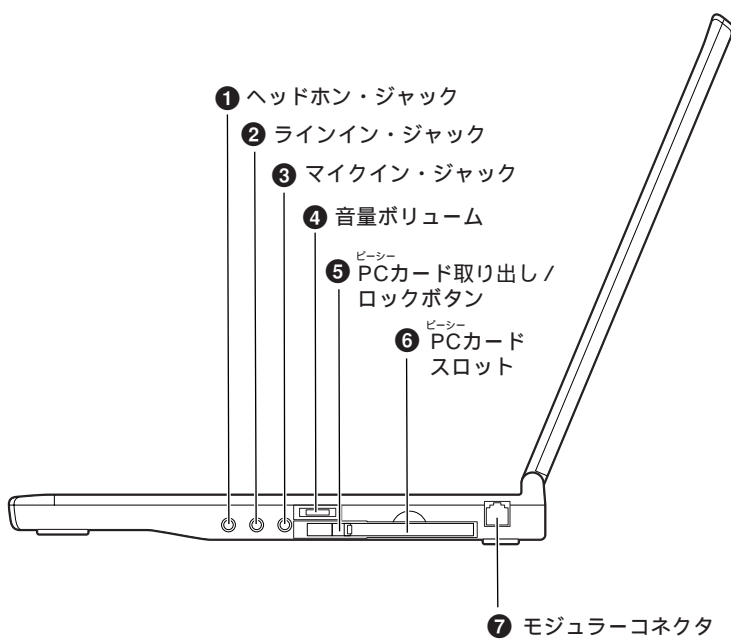
パソコンをサスペンド(一時停止)する、またはレジューム(サスペンドする前の状態に戻す)するためのスイッチです。

4秒以上押すと、強制的に電源が切れます。通常は4秒以上押さないでください。

本書ではSUS/RESスイッチと表記します。

「節電する」(☞P.73)


## 本体右側面




**① ヘッドホン・ジャック**

市販のヘッドホンを接続するための端子です(外径3.5mmのミニプラグに対応)。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。



**聴力障害**  ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

**聴力障害**  ヘッドホンをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。ヘッドホンの破損防止のため、パソコン本体の音量を最小にしておいてから、ヘッドホンを接続してください。

**② ラインイン・ジャック**

AV機器の出力端子と接続するための端子です(外径3.5mmのステレオミニプラグに対応)。

**音量ボリュームを下げてください**

ラインイン・ジャックにAV機器を接続する際は、いったん音量ボリュームを下げてから接続してください。不用意に大きな音声が入力されるとスピーカーが破損することがあります。

**③ マイクイン・ジャック**

市販のマイクを接続し、音声(モノラル)を録音するための端子です(外径3.5mmのミニプラグに対応)。

ただし、市販されているマイクの一部の機種(ダイナミックマイクなど)には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

**音量ボリュームを下げてください**

マイクイン・ジャックに市販のマイクを接続する際は、いったん音量ボリュームを下げてから接続してください。不用意に大きな音声が入力されるとスピーカーが破損することがあります。

**④ 音量ボリューム**

音量を調節します。

手前に回すと小さく、奥に回すと大きくなります。

「音量を調節する」(P.50)

ピーシー

**⑤ PCカード取り出し/ロックボタン**

PCカードを取り出すときに押します。PCカードをセットしているときは、PCカードが抜けないようにこのボタンを倒してロックします。

「PCカードをセットする」(P.95)

ピーシー

**⑥ PCカードスロット**

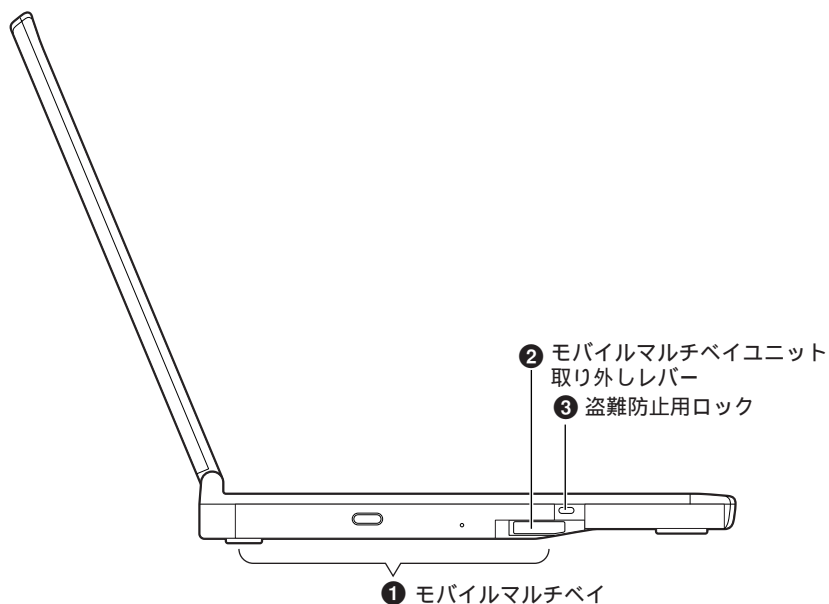
別売のPCカードをセットするためのスロットです。

「PCカードをセットする」(P.95)

**⑦ モジュラーコネクタ**

インターネットやパソコン通信をするとき、添付のモジュラーケーブルを使って電話回線と接続するためのコネクタです。

## 本体左側面



### ① モバイルマルチベイ

ご購入時は、内蔵 CD-ROM ドライブユニットが取り付けられています。

「CDを使う」(☞P.32)

また、別売の内蔵DVDドライブユニットや増設用内蔵バッテリーユニットなどのオプションユニットに交換することもできます。

「モバイルマルチベイに取り付けられるユニット」(☞P.25)

### ② モバイルマルチベイユニット取り外しレバー

モバイルマルチベイに取り付けられているユニットを取り外す場合にレバーを起こします。

### ③ 盗難防止用ロック

盗難防止用ケーブルを接続することができます。

Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

商品名 : マイクロセーバー (セキュリティワイヤー)

商品番号 : 0522010

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)



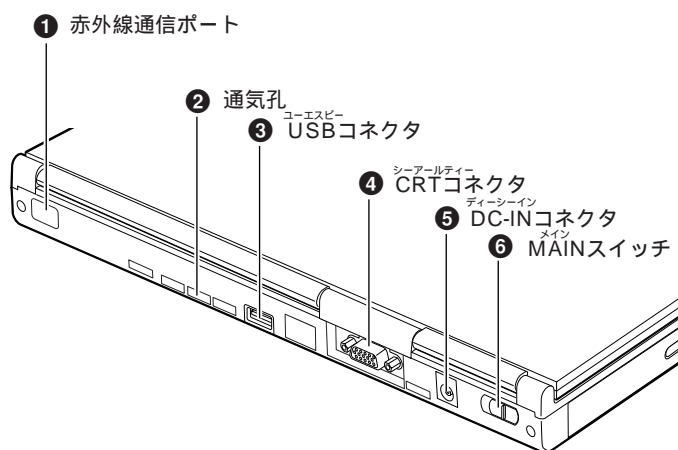
### アドバイス

盗難防止用ロックを使っているとき

盗難防止用ロック接続時は、モバイルマルチベイユニットの取り外しはできません。



## 本体背面



- 1 赤外線通信ポート**  
赤外線通信の送受光部です。  
赤外線通信ポートは、添付のアプリケーション「Intellisync」でお使いになれます。  
「赤外線通信について」(P.152)
- 2 通気孔**  
空冷用ファンを用いてパソコン本体内部の熱を外部に逃がします。  
なお、MF3/500Xには空冷用ファンは付いていないので、通気孔はふさいであります。

### 重要

通気孔をふさがしないでください (MF3/45のみ)

通気孔の前に物を置いたりして、通気孔をふさがしないでください。本パソコンの故障の原因となります。

### アドバイス

#### 空冷用ファン

空冷用ファンは、本パソコンの動作モードや使用環境温度により、回転/停止します。

#### USBコネクタとCRTコネクタ

パソコン本体のUSBコネクタとCRTコネクタは、コネクタボックス(P.10)のUSBコネクタとCRTコネクタとは向きが逆になっています。

#### オプション機器の接続

各コネクタにオプション機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

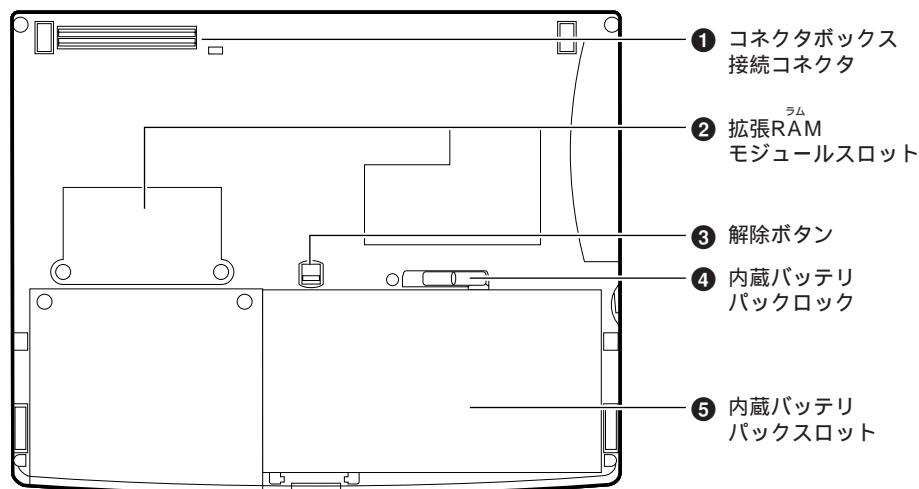
### 用語

#### ユーエスビー USB

機器の接続に関する規格です。USB規格に対応した機器には、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、スピーカーなどがあります。

- 3 ユーエスビー USBコネクタ**  
USB規格対応の機器を接続するためのコネクタです。  
「USBコネクタに接続する」(P.99)
- 4 シーアールティ ディーシーイン CRTコネクタ**  
別売のCRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。  
「外部ディスプレイを接続する」(P.106)
- 5 ディーシーイン DC-INコネクタ**  
添付のACアダプタ経由でコンセントに接続するためのコネクタです。  
「ACアダプタで使う」(P.64)
- 6 メイン MAINスイッチ**  
本パソコンの主電源スイッチです。  
| 側にスライドすると電源が入り、側にスライドすると電源が切れます。本パソコンを携帯するときや長期間使用しないときは、Windows 98を終了したあとMAINスイッチを側にスライドして電源を切ってください。  
「電源を入れる/電源を切る」(P.60)

## 本体下面



### ① コネクタボックス接続コネクタ

添付のコネクタボックスを接続するコネクタです。  
「コネクタボックスを取り付ける」(P.22)

### ② 拡張RAMモジュールスロット

本パソコンのメモリが取り付けられています。  
取り付けられているメモリを交換して、メモリを増やすこともできます。  
「メモリを増やす」(P.90)

### ③ 解除ボタン

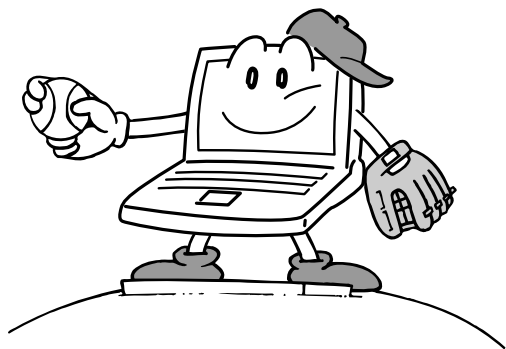
内蔵バッテリーパックスロットのロックを解除するときにスライドします。

### ④ 内蔵バッテリーパックロック

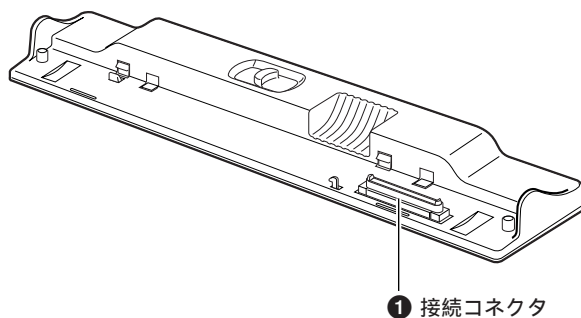
内蔵バッテリーパックを取り外すときにスライドします。

### ⑤ 内蔵バッテリーパックスロット

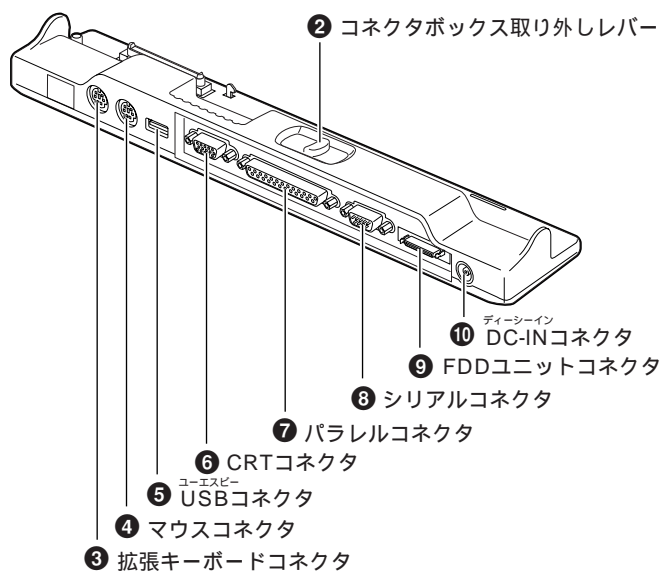
内蔵バッテリーパックが装着されているスロットです。  
「内蔵バッテリーパックを交換する」(P.71)



## コネクタボックス前面



## コネクタボックス背面



- ① 接続コネクタ  
パソコン本体のコネクタボックス接続コネクタに接続します。  
「コネクタボックスを取り付ける」(☞P.22)
- ② コネクタボックス取り外しレバー  
コネクタボックスをパソコン本体から取り外す場合にスライドさせます。  
「コネクタボックスを使う」(☞P.22)
- ③ 拡張キーボードコネクタ  
別売のテンキーボードなどを接続するためのコネクタです。  
「マウス/テンキーボードを接続する」(☞P.94)
- ④ マウスコネクタ  
別売のマウスを接続するためのコネクタです。  
「マウス/テンキーボードを接続する」(☞P.94)
- ⑤ ユーエスピー USB コネクタ  
USB 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。  
「USB コネクタに接続する」(☞P.99)
- ⑥ CRT コネクタ  
別売のCRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。  
「外部ディスプレイを接続する」(☞P.106)
- ⑦ パラレルコネクタ  
別売のプリンタなどを接続するためのコネクタです。  
「プリンタを接続する」(☞P.87)
- ⑧ シリアルコネクタ  
RS-232C 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。
- ⑨ FDD ユニットコネクタ  
FDD ユニットの接続するためのコネクタです。  
「FDD ユニットを取り付ける」(☞P.27)
- ⑩ ディーシーイン DC-IN コネクタ  
添付の AC アダプタ経由でコンセントに接続するためのコネクタです。  
「AC アダプタを取り付ける」(☞P.64)

## 💡 アドバイス

### USB コネクタと CRT コネクタ

コネクタボックスの USB コネクタと CRT コネクタは、パソコン本体の USB コネクタと CRT コネクタ(☞P.7)とは向きが逆になっています。

### オプション機器の接続

各コネクタにオプション機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。



## 用語



### ユーエスピー USB

機器の接続に関する規格です。USB 規格に対応した機器には、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、スピーカーなどがあります。

## 状態表示 LCD

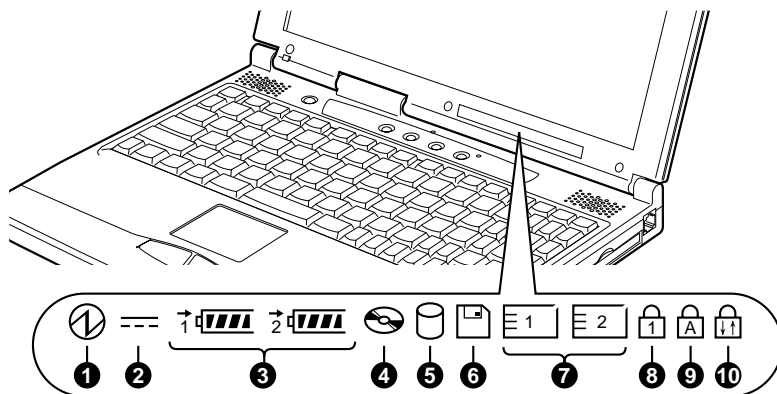
### アドバイス

電源を切っているとき

状態表示 LCD の全表示が消えます。ただし、充電中は  または  が表示され、充電が完了すると消えます。


電源を入れると状態表示 LCD にマークが表示されます。

これらのマークは、バッテリーの残量など、本パソコンのさまざまな状態を表しています。



### ① サスレス SUS/RES 表示 ( )


本パソコンで作業ができる状態のときに表示されます。サスペンド(一時停止)状態のときは点滅します。



「サスペンド機能を使う」(  P.74 )


### ② エーシー AC アダプタ表示 ( )

AC アダプタから電力が供給されているときに表示されます。


### ③ ・ バッテリー装着表示 ( 1 、2 )

- 1  は、本パソコンにあらかじめ内蔵されている、内蔵バッテリーパックを示しています。電源を入れると表示されます。

- 2  は、モバイルマルチベイに増設用内蔵バッテリーユニット(別売)が取り付けられているときに 1  とあわせて表示されます。


・ バッテリー充電表示 (  )

バッテリーの充電中に表示されます。

バッテリーが熱くなっていたり、冷えていたりするときは、バッテリーの保護機能が働き、適温になるまでバッテリーの充電を開始しないことがあります。この場合は  が点滅します。

・ バッテリー残量表示 (  )

バッテリーの残量が表示されます。

「残量を確認する」(  P.69 )

### ④ CD アクセス表示 ( )

CD などにアクセスしているときに表示されます。



### ⑤ ハードディスクアクセス表示 ( )



内蔵のハードディスクにアクセスしているときに表示されます。

### ⑥ フロッピーディスクアクセス表示 ( )


フロッピーディスクにアクセスしているときに表示されます。


### 重要



 や  が表示されているときの注意














状態表示 LCD に  や  が表示されているときは、MAIN スイッチを 側にスライドしたり、サスペンドしないでください。ハードディスクやフロッピーディスクなどのデータが壊れるおそれがあります。

### アドバイス


 が点滅するのは?



Windows98 は、本パソコンに CD がセットされているかどうかを定期的に調べています。そのため CD をセットしていないときでも、状態表示 LCD に  が表示されることがあります。

「 (CD アクセス表示) の点滅を止める」(  P.13 )

- 7 PC カードアクセス表示 (   )  
PC カードにアクセスしているときに表示されます。  
 は、本パソコンのPCカードスロットのPCカードにアクセスしているときに表示されます。  
 は、別売の「内蔵PCカードユニット」のPCカードにアクセスしているときに表示されます。
- 8 ニューメリカルロック Num Lock 表示 (  )  
テンキーモードになっているときに表示されます。 を押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。  
「テンキーモードについて」(  P.16 )
- 9 キャップスロック Caps Lock 表示 (  )  
英大文字固定モード( 英字を大文字で入力する状態 )になっているときに表示されます。  
 を押しながら  を押し、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。
- 10 スクロールロック Scroll Lock 表示 (  )  
 を押しながら  を押して、画面がスクロールしないように設定すると表示されます。もう一度押すと表示が消え、画面がスクロールするようになります。アプリケーションにより、機能が異なることがあります。

### (CD アクセス表示) の点滅を止める

この設定を行うと、自動で起動するCDをセットしても、自動起動の機能は働きません。また、CDをセットしていないときは、状態表示LCDに  が表示されなくなります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (システム) をクリックします。  
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。  
デバイスの一覧が表示されます。
- 4 「CD-ROM」の左の  をクリックします。  
CD-ROM デバイス名が表示されます。
- 5 CD-ROM デバイス名をクリックし、「プロパティ」をクリックします。  
「(CD-ROM デバイス名)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 6 「設定」タブをクリックし、「挿入の自動通知」をクリックし、 を  にします。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 「システムのプロパティ」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
- 9 表示されるメッセージに従って、再起動します。

### アドバイス

#### CD-ROM デバイス名

「TEAC CD-224E」と表示されます。

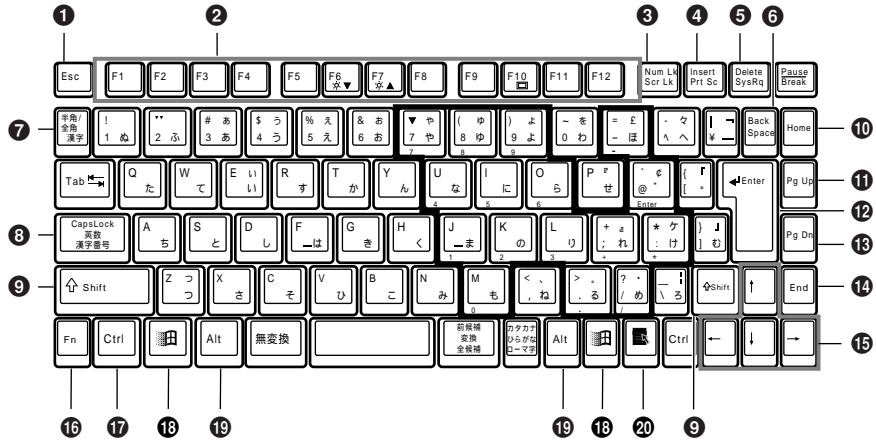
自動起動の機能を使うとき

手順6で「挿入の自動通知」をクリックし、 を  にします。

# キーボード

キーボードは、パソコンに対しての指示やデータを入力するために使います。各キーの機能は、使用するアプリケーションによって異なる場合があります。ここでは一般的なキーの機能を説明します。

## 主なキーの名称とはたらき



エスケープ  
① Esc キー

現在の作業を取り消して、1つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

② ファンクションキー

アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられます。

③ Num Lk (Num Lock) キー

**[Num Lk]**を押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。  
「テンキーモードについて」(P.16)

④ Insert キー

文字を入力するときに、既存の文字列に上書きするか、挿入するかを切り替えるときに使います。

④ Prt Sc (Print Screen) キー

表示されている画面を画像データにするときに使います。**[Fn]**を押しながら**[Prt Sc]**を押します。

**[Alt]**と**[Fn]**を押しながら**[Prt Sc]**を押すと、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。

キーを押したあとにペイントソフト(「ペイント」など)を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」を選ぶことなどで編集、保存、印刷ができます。



- ⑤ デリート Delete キー  
カーソルの右側にある 1 文字を削除するときに使います。また、選択されているファイルやアイコンを削除します。  
**[Ctrl]** と **[Alt]** を押しながら **[Delete]** を押すと、応答しなくなったアプリケーションを終了したり、本パソコンを強制的に再起動できます。
- ⑥ バック スペース Back Space キー  
カーソルの左側にある 1 文字を削除するときに使います。
- ⑦ 半角 / 全角キー  
文字を入力するときに、半角と全角を切り替えたりします。
- ⑧ キャプス ロック Caps Lock 英数キー  
**[Shift]** を押しながら **[CapsLock 英数]** を押すと、英大文字固定モードになります。もう 1 度押すと解除されます。
- ⑨ シフト Shift キー  
他のキーと組み合わせて使います。**[Shift]** を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。
- ⑩ ホーム Home キー  
カーソルを行の最初に移動します。  
**[Ctrl]** を押しながら **[Home]** を押すと、カーソルが文書の最初に移動します。
- ⑪ ページ アップ Pg Up (Page Up) キー  
前のページに切り替えるときに使います。
- ⑫ エンター Enter キー  
入力した文字を確定するときなどに使います。  
ワープロソフトなどでこのキーを押すと改行が入力されるため、リターン (改行) キーともいいます。
- ⑬ ページ ダウン Pg Dn (Page Down) キー  
次のページに切り替えるときに使います。
- ⑭ エンド End キー  
カーソルを行の最後に移動します。  
**[Ctrl]** を押しながら **[End]** を押すと、カーソルが文書の最後に移動します。
- ⑮ カーソルキー  
カーソルを上下左右に移動するときに使います。

エフエヌ  
⑩ Fn キー

本パソコン独自の機能で、他のキーと組み合わせて使います。たとえば次のような使いかたがあります。

- ・ **[Fn]** を押しながら **[F3]** を押すと、スピーカーの ON と OFF が切り替わります。
- ・ 800 × 600 ドット以下 (MF3/45 は 640 × 480 ドット) の解像度のときに **[Fn]** を押しながら **[F5]** を押すと、全画面表示と通常表示が切り替わります。
- ・ **[Fn]** を押しながら **[F6]** を押すごとに、8段階まで液晶ディスプレイを暗くすることができます。
- ・ **[Fn]** を押しながら **[F7]** を押すごとに、8段階まで液晶ディスプレイを明るくすることができます。  
「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(P.55)
- ・ CRT ディスプレイを接続したときに **[Fn]** を押しながら **[F10]** を押すと、液晶ディスプレイと CRT ディスプレイで表示先を切り替えます。

コントロール  
⑪ Ctrl キー

他のキーと組み合わせて使います。

ウィンドウズ  
⑫ Windows キー

「スタート」メニューを表示するときに使います。

オルト  
⑬ Alt キー

他のキーと組み合わせて使います。

アプリケーション  
⑭ Application キー

選択した項目のポップアップメニューを表示するときに使います。  
フラットポイントの右ボタンの代わりになります。

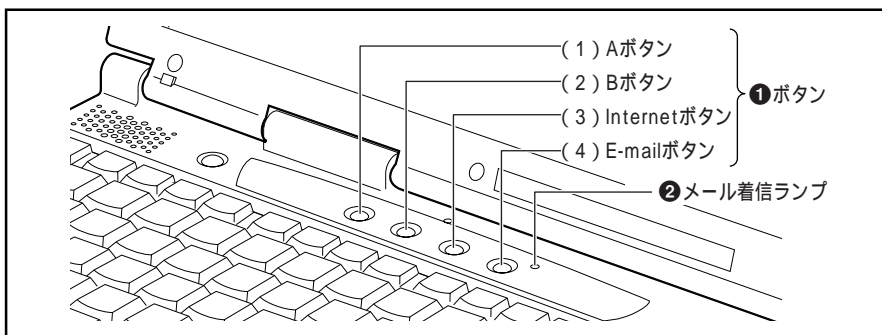
## テンキーモードについて

文字キーの一部をテンキー (数字の入力を容易にするキー配列) として使えるように切り替えた状態を「テンキーモード」といいます。**[Num Lk]** を押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示 LCD に **[1]** が表示されます。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

ただし、別売のテンキーボードを接続しているときは、パソコン本体のテンキーの部分は無効となります。

## ワンタッチボタン

ワンタッチボタンを押すだけでアプリケーションを起動したり、CCD カメラのシャッターを押したりできます。



### ① ボタン ((1) ~ (4))

ボタンを押すと、以下の機能が使えます。

- ・アプリケーションを起動します。
- ・新着Eメールをチェックして、受信します。
- ・CCDカメラのシャッターボタンとして操作できます。

「ワンタッチボタンを使う」(P.37)

### ② メール着信ランプ

E-mail ボタンを押したとき、新着Eメールがある場合は点滅します。

受信したEメールがサーバーに残っている場合は、新着Eメールがなくても点滅します。新着Eメールがないときにメール着信ランプが点滅しないようにするときは、Eメールをサーバーに残さないように、メールソフトで設定してください。

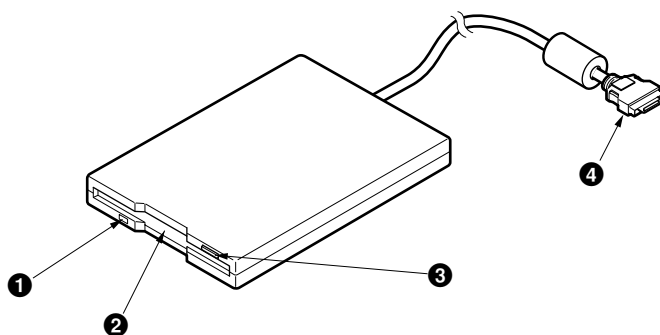
☞『使いこなす本 インターネット編』の「メールを受け取る」

## FDD ユニット

### アドバイス

#### FDDユニットの設置

本パソコンでは、FDDユニットはパソコン本体の左側のみ設置することができます。



### ① アクセスランプ

フロッピーディスクドライブの動作中に点灯します。

### ② フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりします。

### ③ フロッピーディスク取り出しボタン

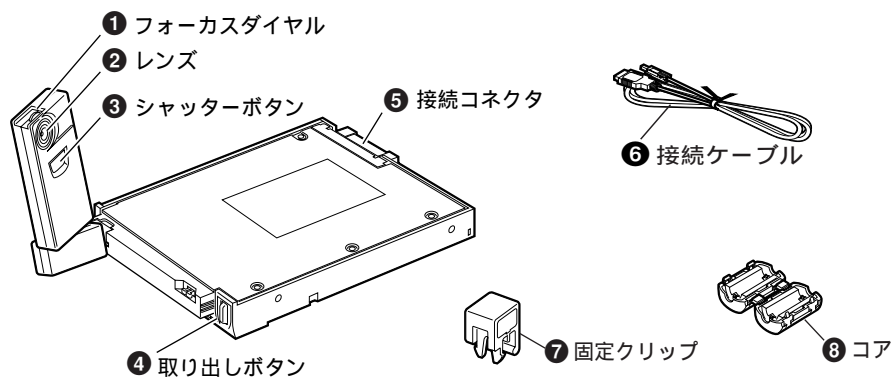
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.30)

### ④ 接続コネクタ

コネクタボックスのFDDユニットコネクタに接続します。

## CCD カメラ



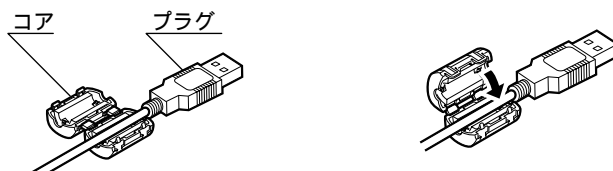
- ① フォーカスダイヤル  
ピントを合わせます。
- ② レンズ  
被写体を写します。
- ③ シャッターボタン  
写真やビデオを撮るときに押します。
- ④ 取り出しボタン  
ユニット部分からカメラ部分を引きだすときなどに押します。
- ⑤ 接続コネクタ  
パソコン本体に接続するコネクタです。
- ⑥ 接続ケーブル  
CCD カメラを外付けで使用する場合に使用します。
- ⑦ 固定クリップ  
CCD カメラを本パソコンの液晶ディスプレイに固定する場合に使用します。
- ⑧ コア  
接続ケーブルの本体側コネクタのすぐ後ろに取り付けます。

### 💡 アドバイス

#### コアの取り付け

本パソコンには大小2個のコアが添付されています。CCDカメラの接続ケーブルには小のコアを取り付けてください。

- 1 接続ケーブルのパソコン本体側のコネクタのすぐ後ろにコアを位置させます。
- 2 コアを閉じます。





# 2

パソコンの各部はこうなっている

## 本パソコンの取り扱い上の注意

1

パソコンの各部はこうなっている(本パソコンの取り扱い上の注意)

ここでは以下のことを説明します。

- ・ 取り扱い上の注意 ←P.19
- ・ 廃棄について ←P.20

### 取り扱い上の注意

#### 本パソコンの取り扱いについて

- ・ 衝撃や振動を与えないでください。
- ・ 分解しないでください。
- ・ 電源を入れたままの状態を持ち運ばないでください。
- ・ 長時間使用すると、本パソコン表面の温度が上昇して、温かく感じる場合があります。これは、本パソコン内部の温度が一定以上になると、装置全体から放熱するので、キーボードなどの表面も温くなるためです。故障ではありません。
- ・ 使用条件によっては、本パソコンの底面が高温になる場合があります。ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。
- ・ MF3/45をお使いの場合、通気孔(←P.7)の前に物を置いたりして通気孔をふさがないでください。  
本パソコンの故障の原因となります。

#### 次の場所での使用および保管は避けてください

- ・ 極端に温度変化が激しい場所
- ・ 直射日光のあたる場所や発熱器具に近い場所
- ・ 衝撃や振動の加わる場所
- ・ 湿気やほこりの多い場所
- ・ 磁石や強い磁界を発生する装置に近い場所

#### 放熱について

パソコン本体の電源が入っているときは、パソコン本体のキーボードの上に書類などのおおいかぶさる物は置かないでください。

パソコン本体の放熱がさえぎられ、故障の原因になります。

#### 電源を切るとき

電源を切るときは、いきなり MAIN スイッチを 側にスライドさせないでください。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.62)

#### 液晶ディスプレイの特性について

次の状態は故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・ TFT 液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上(解像度 1024 × 768 の場合) または 144 万個以上(解像度 800 × 600 の場合)の画素(ドット)より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・ 液晶ディスプレイはその特性上、温度変化で明るさや色合いに多少のむらが発生することがあります。

## 廃棄について

- ・液晶ディスプレイ内のバックライト（蛍光管）の中には、水銀が含まれています。本パソコンの廃棄については、地方自治体の条例、または規則に従ってください。
- ・バッテリーを廃棄するときは、バッテリーがショートしないよう、バッテリー端子をテープ等で絶縁してください。また、廃棄については地方自治体の条例、または規則に従ってください。

## 第 2 章

# 基本的な機能を使おう

本章では、本パソコンに添付の機器の基本的な操作方法について説明しています。

1. コネクタボックスを使う .....	22
2. ユニットを交換する .....	24
3. フロッピーディスクを使う .....	27
4. CD を使う .....	32
5. ワンタッチボタンを使う .....	37
6. CCD カメラを使う .....	39
7. 音量を調節する .....	50
8. 画面の解像度や発色数を変える .....	52
9. 液晶ディスプレイの明るさを変更する .....	55
10. お手入れのしかた .....	56

# 1

## コネクタボックスを使う

コネクタボックスをパソコン本体に取り付けると、プリンタなどのオプション機器を接続することができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・ 気をつけてください～コネクタボックスの取り付け / 取り外し ←P.22
- ・ コネクタボックスを取り付ける ←P.22
- ・ コネクタボックスを取り外す ←P.23

### 重要

コネクタボックスにオプション機器を取り付ける / 取り外すときの注意

コネクタボックスにオプション機器を取り付ける場合、および取り外す場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。

### 気をつけてください～コネクタボックスの取り付け / 取り外し

コネクタボックスは、パソコン本体の電源が入っているときでも、切れているときでも取り付け / 取り外しが行えます。ただし、FDDユニットをコネクタボックスに接続している場合は、パソコン本体の電源を切ってから取り付けしてください。


また、オプション機器の中には電源が入っている状態でコネクタボックスの取り付け / 取り外しを行うと、動作が不安定になるものもあります。この場合はパソコン本体の電源を切ってからコネクタボックスの取り付け / 取り外しを行ってください。

### コネクタボックスを取り付ける

パソコン本体背面にオプション機器を取り付けているときは、パソコン本体の電源を切り、オプション機器をすべて取り外してください。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.62)

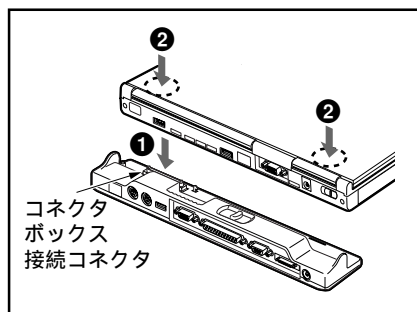


 け が パソコン本体にコネクタボックスを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。

けがの原因となることがあります。

#### 1 パソコン本体下面のコネクタボックス接続コネクタに、コネクタボックスを取り付けます。

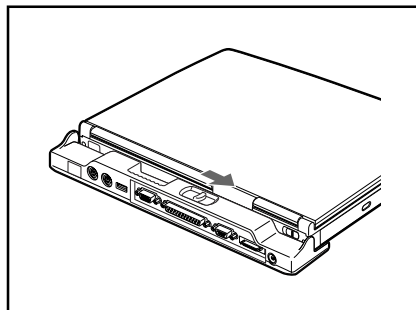
コネクタの位置を合わせてパソコン本体を水平に降ろし(①)、右図の部分轻轻一押し(②)、コネクタボックスにしっかりと取り付けます。



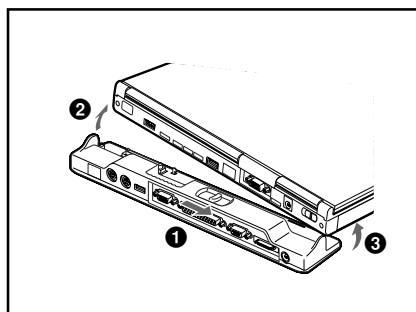


## コネクタボックスを取り外す

- 1 コネクタボックスにオプション機器を接続している場合は、オプション機器の電源を切ります。
- 2 コネクタボックスのロックを外します。  
コネクタボックスの取り外しレバーをスライドさせて、ロックを外します。



- 3 コネクタボックスを取り外します。  
取り外しレバーをスライドさせたまま(①)コネクタボックスの接続コネクタ側からパソコン本体を持ち上げ(②)、コネクタボックスを取り外します(③)。



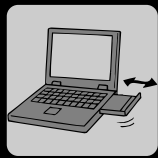
### 重要

コネクタボックスを取り外してください

本パソコンを持ち運ぶ場合は、コネクタボックスを必ず取り外してください。パソコン本体およびコネクタボックスのコネクタが破損します。

2

基本的な機能をお使い（コネクタボックスを使う）



# 2

## ユニットを交換する

本パソコンご購入時に、内蔵 CD-ROM ドライブユニットが取り付けられているところをモバイルマルチベイといいます。モバイルマルチベイには、CCDカメラや別売のオプション機器のユニットを取り付けられます。

ここでは以下のことを説明します。

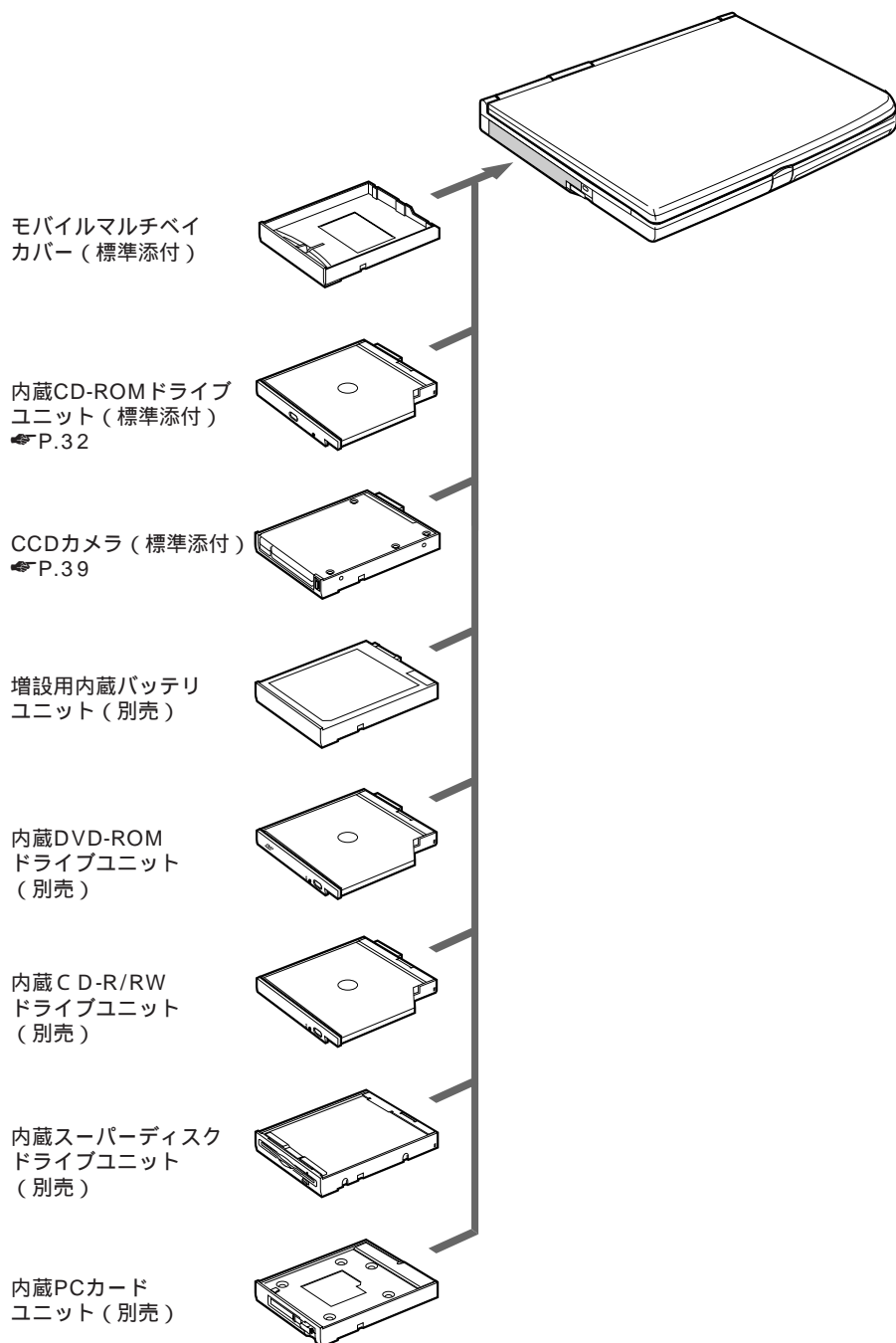
- ・ 気をつけてください～ユニットを使うとき ⇨P.24
- ・ モバイルマルチベイに取り付けられるユニット ⇨P.25
- ・ モバイルマルチベイのユニットを交換する ⇨P.26

### 気をつけてください～ユニットを使うとき

- ・ 内蔵 CD-ROM ドライブユニット(標準添付) 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット(別売) 内蔵 CD-R/RW ドライブユニット(別売) 内蔵スーパーディスクドライブユニット(別売) は、ディスクが高速に回転する非常にデリケートな装置です。ディスクにアクセスしている状態で、パソコン本体を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。ユニットが破損したりデータが壊れるおそれがあります。
- ・ FDD ユニット、内蔵スーパーディスクドライブユニット(別売) の取り扱いかたによっては、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。重要なデータは必ずバックアップをとってください。
- ・ 次のような場所でのご使用、保管は避けてください。
  - 極端に温度変化が激しい場所
  - 衝撃や振動の加わる場所
  - 湿気やほこりの多い場所
  - 磁石や強い磁界を発生する装置に近い場所
- ・ ユニット内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。何か異物が入ったときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- ・ 汚れは、柔らかい布でから拭きするか、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジンやシンナーなどの揮発性のもののご使用は避けてください。
- ・ 分解しないでください。

## モバイルマルチベイに取り付けられるユニット

本パソコンご購入時は、内蔵CD-ROMドライブユニットが取り付けられています。



2

基本的な機能をおこなう（ユニットを交換する）

## モバイルマルチベイのユニットを交換する

ここでは、モバイルマルチベイに内蔵されているユニットを取り外し、別のユニットを取り付ける方法を説明します。



バッテリーは、大変デリケートな製品です。交換などで取り付けや取り外しを行う場合は、誤って落下させるなど、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーは使用しないでください。感電や破裂の原因となります。

### 重要

電源を入れるときは、モバイルマルチベイにユニットを取り付けておいてください。本パソコンをお使いになるときは、必ずモバイルマルチベイにユニットを取り付けてください。何も取り付けしていない状態でお使いになると、故障の原因となります。

### アドバイス

#### Softex Bay Manager について

添付の Softex Bay Manager をインストールすると、パソコン本体の電源を切らずに、モバイルマルチベイのユニットを交換できます。詳しくは、Softex Bay Manager のマニュアルをご覧ください。

#### 1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには?」(←P.62) をご覧になり、MAIN スイッチを切って(側にスライドして)ください。

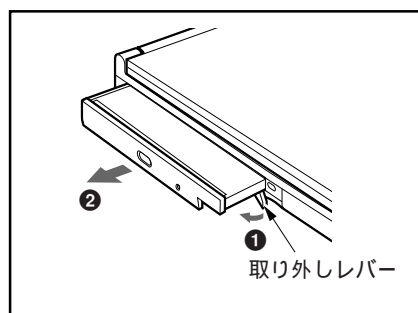
#### 2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

#### 3 AC アダプタを取り外します。

「AC アダプタを取り外す」(←P.65)

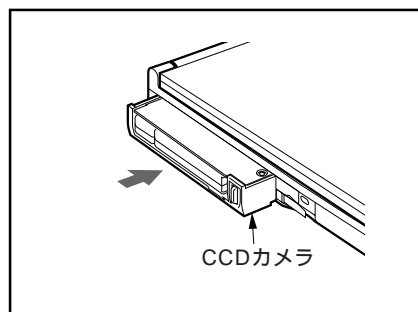
#### 4 ユニットを取り外します。

- 1 取り外しレバーを起こします。
- 2 取り付けられているユニットを取り外します。



#### 5 別のユニットを取り付けます。

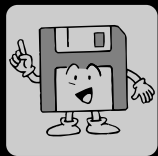
ユニットの向きを合わせてモバイルマルチベイに差し込み、止まるまで押し込みます。



### 重要

#### 取り外しレバーの注意

モバイルマルチベイの取り外しレバーは、モバイルマルチベイのユニットを取り外す場合のみ起こしてください。ロックが解除される場合があります。誤ってレバーを操作してしまった場合は、ユニットのロックを有効にするためにいったんパソコン本体の電源を切り(←P.62)、ユニットを取り外し、再度取り付けてください。



## 3

## フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクはプログラムやデータを保存するためのものです。FDDユニットは、本体に取り付けたコネクタボックスに接続して使います。ここでは以下のことを説明します。

- ・ FDDユニットを取り付ける ◀P.27
- ・ FDDユニットを取り外す ◀P.28
- ・ 気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき ◀P.29
- ・ 使えるフロッピーディスクは？ ◀P.29
- ・ フロッピーディスクをセットする / 取り出す ◀P.30
- ・ フロッピーディスクのデータを守るには ◀P.31

## FDD ユニットを取り付ける



**感電** FDDユニットを接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。



## FDD ユニット取り扱い上の注意

- ・ FDDユニットは、本パソコンで1台のみ使えます。
- ・ FDDユニットは、ACアダプタや外部ディスプレイなど、磁界を発生する機器から離して使用してください。

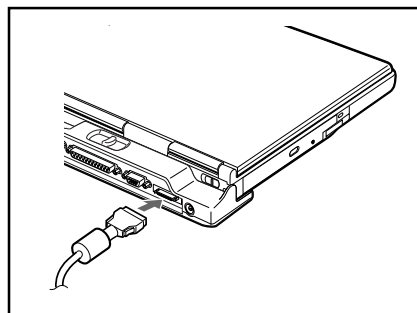
## FDD ユニットを接続する

## 💡 アドバイス

## FDDユニットの取り付け

FDDユニットはコネクタボックスに取り付けます。「コネクタボックスを取り付ける」(◀P.22)

- 1 パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(◀P.62)をご覧ください、MAINスイッチを切って(側にスライドして)ください。
- 2 オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3 ACアダプタを取り外します。  
「ACアダプタを取り外す」(◀P.65)
- 4 FDDユニットのケーブルを、コネクタボックスのFDDユニットコネクタに接続します。  
コネクタの上下の向きを確認し、奥までしっかり差し込みます。



## FDD ユニットを取り外す



**感電** FDDユニットを取り外す場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。

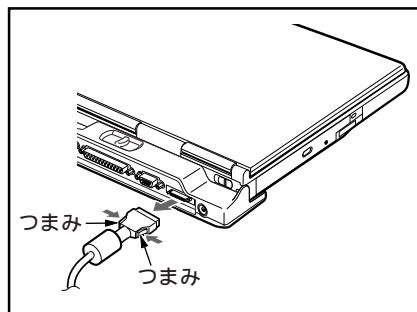
## FDD ユニットを取り外す



### フロッピーディスクを取り出してください

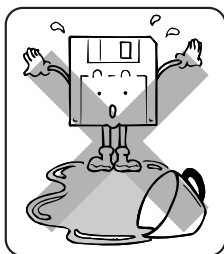
電源を切る前に、FDDユニットからフロッピーディスクを、必ず取り出しておいてください。セットしたまま取り外すと、フロッピーディスクのデータが壊れる場合があります。

- 1 **パソコン本体の電源を切ります。**  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(P.62)をご覧ください、MAINスイッチを切って(側にスライドして)ください。
- 2 **オプション機器の電源を切り、取り外します。**
- 3 **ACアダプタを取り外します。**  
「ACアダプタを取り外す」(P.65)
- 4 **FDDユニットを取り外します。**  
FDDユニットのケーブルのコネクタのつまみを押しながら、取り外します。

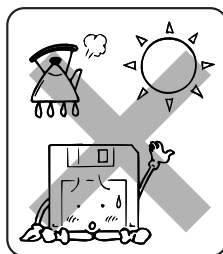


## 気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき

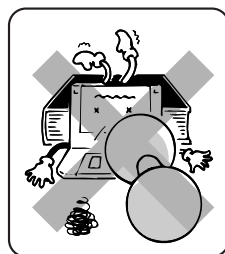
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。データが保存できなくなったり、読み出せなくなることがあります。



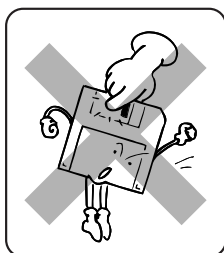
コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



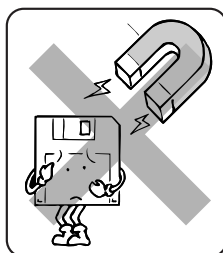
湿度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



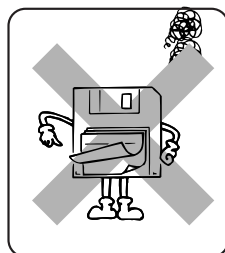
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開いて、中のディスク面に、絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。ドライブから取り出せなくなる原因になります。

### 用語

メガバイト  
MB

B(バイト)とは、パソコンで扱うデータの大きさの単位のことです。単位は、MBの他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1MBは約100万バイト、1GBは約10億バイトのデータの大きさを表します。

### アドバイス

#### フォーマットの注意

- ・フォーマットした機種やソフトウェアが違っていると、データを読み出せないことがあります。
- ・他社製のパソコンでフォーマットした場合は、お使いになれないことがあります。

フォーマット済みのフロッピーディスクをお買い求めになるとき

「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものを、お買い求めください。

## 使えるフロッピーディスクは？

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、次のような種類、記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。

### ・2HDフロッピーディスク

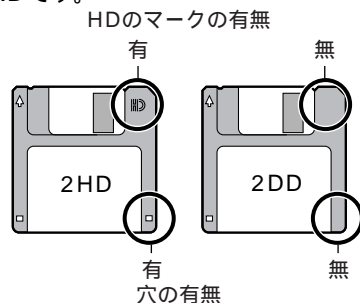
記憶容量は1.44MBまたは1.2MBです。フォーマットにより異なります。

なお、本パソコンでは、1.2MBにフォーマットすることはできません。1.2MBのフロッピーディスクは、データの読み出しや書き込みのみできます。

### ・2DDフロッピーディスク

記憶容量は、2HD(1.44MB)の半分の720KBです。

2種類のフロッピーディスクの外見上の違いは、右図のとおりです。



フロッピーディスクは、お使いになる前にフォーマットが必要です。

▶ 画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決! Q&A」

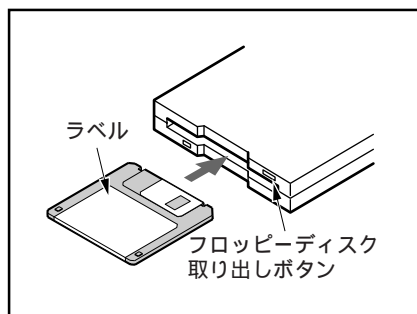
## フロッピーディスクをセットする / 取り出す




け が フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、FDDユニットの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

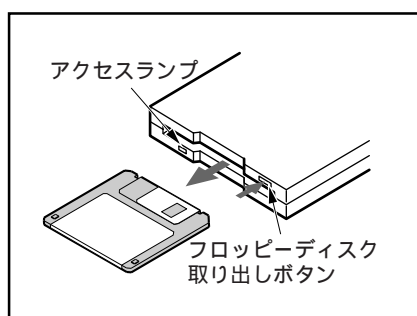
### セットする

- 1 FDD ユニットを取り付けます。  
「FDD ユニットを取り付ける」(P.27)
- 2 パソコン本体の電源を入れます。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(P.60)
- 3 フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに差し込みます。  
矢印のある面を上向きにして、フロッピーディスク取り出しボタンが「カシャ」と飛び出るまで押し込んでください。




### 取り出す

- 1 FDD ユニットのアクセスランプおよび状態表示 LCD に  が表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。  
フロッピーディスクが少し飛び出します。



### 重要

#### フロッピーディスクを取り出すときの注意

状態表示 LCD に  が表示されているときにフロッピーディスクを取り出すと、フロッピーディスク内のデータが壊れるおそれがあります。

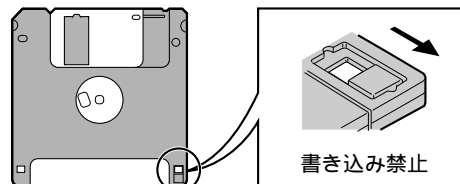


## フロッピーディスクのデータを守るには

ここでは保存してあるデータを守るために、フロッピーディスクを書き込み禁止にする方法と、書き込み禁止を解除する方法を説明します。

### 保存してあるデータの変更や削除をしたくないとき

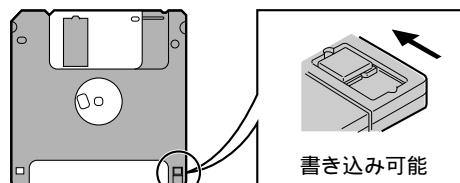
フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が開いた状態にします。書き込み禁止になります。データを読み出すことはできます。



書き込み禁止タブ

### データを書き込みたいとき

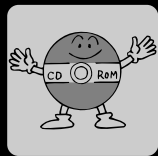
フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。書き込み可能になります。



書き込み禁止タブ

2

基本的な機能をおおう（フロッピーディスクを使う）



# 4

## CD を使う

CD(コンパクトディスク)には、音楽CDの他に、パソコンで扱えるデータやプログラムを保存したCD-ROMなどがあります。CD-ROMは、データの読み出しのみが可能で、書き込みはできません。

ここでは以下のことを説明します。

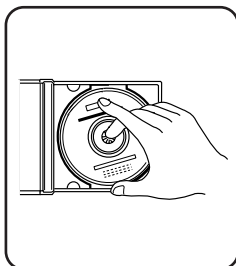
- ・ 気をつけてください～ CD を使うとき ➡P.32
- ・ 使える CD は? ➡P.33
- ・ CD をセットする / 取り出す ➡P.33

### 気をつけてください～ CD を使うとき

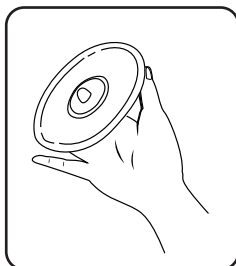
#### アドバイス

##### CD が結露したとき

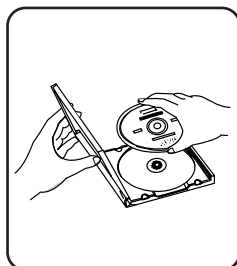
CDの表面に水滴がついて、データを読み出せないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側に向かってキズを付けないように水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。



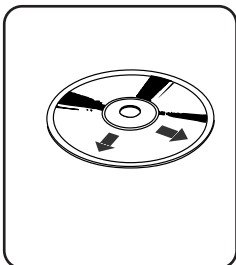
ケースからCDを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



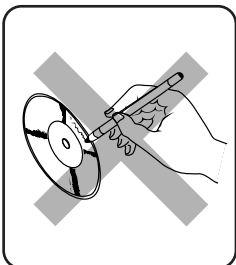
データ面(裏面)に触れないようにCDのふちを持つようにしてください。



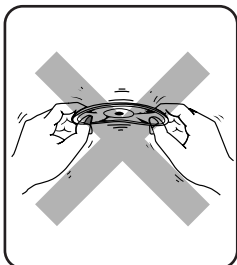
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



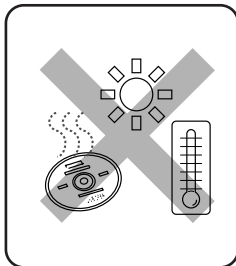
データ面が汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてください。



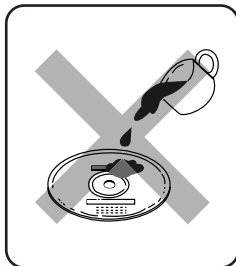
ラベルやシールを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけないでください。



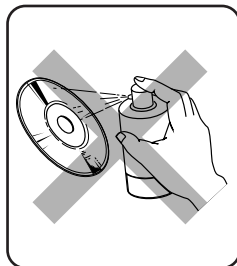
曲げたり、重いものをのせたりしないでください。



高温や低温になる場所を避けて保管してください。



水などの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどを使わないでください。

## 使える CD は？

### アドバイス

#### CD-ROM

CD-ROM を読み込むときは、対応機種が「Windows 98」または「Windows 95」と書かれていることを確認してください。「Macintosh 専用」と書かれている場合は使うことはできません。

本パソコンでは、以下の CD がご利用になれます。

- ・ CD-ROM  
プログラムなどパソコンで見るための情報が入った CD です。
- ・ 音楽 CD  
音楽が記録されている CD のことです。パソコンの世界では、CD-ROM と区別するために音楽 CD と呼んでいます。
- ・ ビデオ CD  
音声と動画が記録された CD です。
- ・ フォト CD  
写真を記録した CD です。市販のものだけでなく、自分で撮った写真のネガを写真屋さんなどでフォト CD にしてもらうこともできます。

## CD をセットする / 取り出す

CD のセットや取り出しは、本パソコンに電源が入っているときに行えます。



けが CD をセットおよび取り出すときには、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

### セットする

#### 重要

AC アダプタを取り付けてください

CD に頻繁にアクセスする場合は、AC アダプタを取り付けてください。

「AC アダプタを取り付ける」(P.64)

CD をセットするときの注意

トレイ中央の突起に CD の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとめ込んでください。

きちんとめ込まないと、CD が CD-ROM ドライブ内部で外れて、トレイやドライブ内部、および CD を破損する原因となることがあります。

セットすると自動で始まる CD を使用しているときは、パソコン本体をサスペンドさせないでください

セットすると自動で始まる CD を使用しているときにパソコン本体をサスペンド(一時停止)すると、レジューム時(サスペンドする前の状態に戻したとき)に CD が二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CD のアプリケーションを一度すべて終了し、CD をセットし直してください。

- 1 CD-ROM ドライブユニットを取り付けます。  
「ユニットを交換する」(P.24)
- 2 パソコン本体の電源を入れます。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(P.60)

### アドバイス

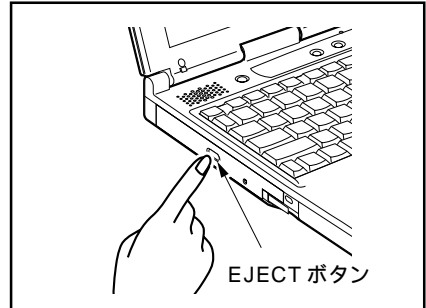
**トレーが出ないとき**  
パソコン本体の電源が切れているときは、パソコン本体の電源を入れてから EJECT ボタンを押してください。

**状態表示 LCD にアイコンが点滅しているとき**

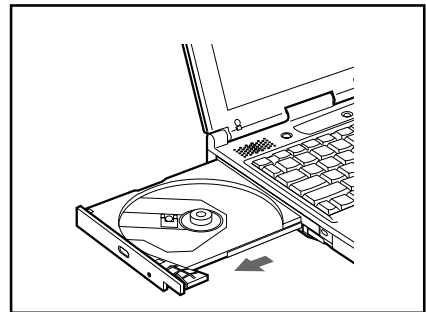
アイコンが点滅中に EJECT ボタンを押してもかまいません。点滅は止めることもできます。

「(CD アクセス表示)の点滅を止める」(P.13)

- 3 EJECT ボタンを押します。  
トレーが少し飛び出します。

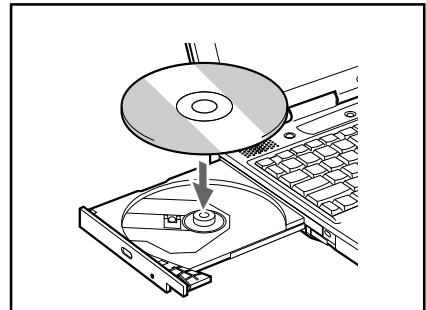


- 4 トレーを静かに引き出します。

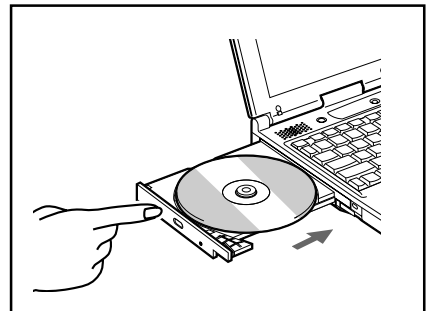


- 5 トレーを支えながら、CD をセットします。




CD のレーベル面を上にして、トレー中央の突起に CD の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、CD が取り出せなくなることがあります。



- 6 トレーを静かに押し込みます。  
CD をセットしてから、本パソコンで使えるようになるまで、約 10 秒かかります。

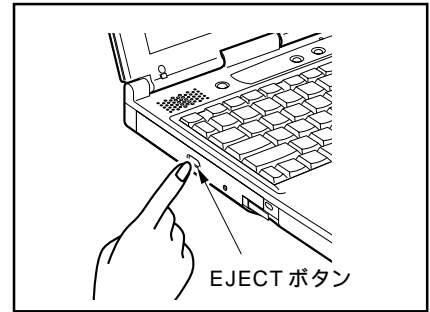


## アドバイス

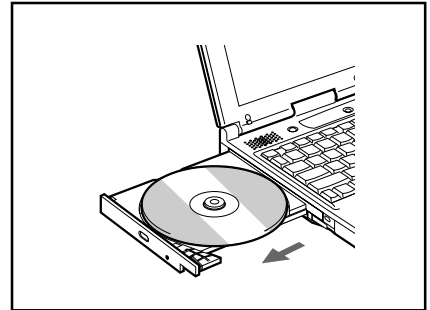
状態表示 LCD に  が点滅しているとき  
 が点滅中に EJECT ボタンを押してもかまいません。  
点滅は止めることもできます。  
「 (CD アクセス表示) の点滅を止める」  
(▶ P.13)

## 取り出す

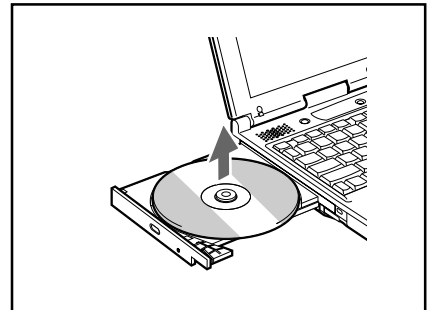
- 1 CD を利用しているアプリケーションがあれば終了します。
- 2 EJECT ボタンを押します。  
トレイが少し飛び出します。



- 3 トレーを静かに引き出します。



- 4 トレーを手で支えながら CD を取り出します。  
トレイ中央の突起を押さえながら、CD のふちを持ち上げてください。



2



基本的な機能を使う (CD を使う)

## 5 トレーを静かに押し込みます。




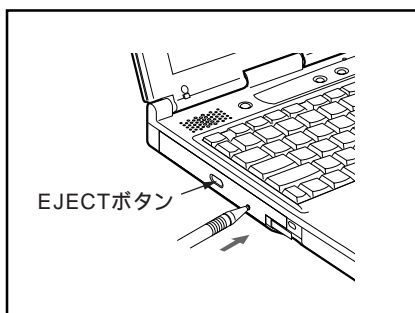
### アドバイス

#### CD が取り出せなくなったとき

- 1 デスクトップの  (マイコンピュータ) をクリックします。
- 2 「マイコンピュータ」ウィンドウの  (E:) にマウスポインタを合わせます。
- 3 フラットポイントの右ボタンを 1 回押します。
- 4 「取り出し」をクリックします。  
トレーが少し飛び出します。
- 5 トレーを静かに引き出し、CD を取り出します。

上記の方法で取り出せないときは、次の方法で取り出します。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(  P.62 )
- 2 EJECT ボタンの右側にある穴に、ボールペンの先などをまっすぐに差し込みます。  
トレーが少し飛び出します。



- 3 トレーを静かに引き出し、CD を取り出します。

## ワンタッチボタンを使う

ここでは以下のことを説明します。

- ・アプリケーションを起動する ← P.37
- ・アプリケーションの割り当てを変更する ← P.38

## 重要

次のときはワンタッチボタンが使えません

- ・ Windows98 が起動していて、FM 便利ツールを終了しているとき  
← 『総合案内』の「FM 便利ツール」
- ・ MAIN スイッチを切っている（側にスライドしている）とき

## アドバイス

Internet ボタン、E-mail ボタンを使うとき

あらかじめプロバイダと契約し、インターネットに接続できるように設定しておいてください。

← 『使いこなす本 インターネット編』

「FM キャプチャ」の場合

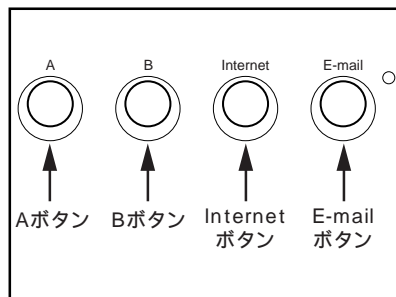
ボタンを一度押すと「FM キャプチャ」（キャプチャソフト）が起動します。二度目以降は CCD カメラのシャッターボタンになります。

## アプリケーションを起動する

## 1 起動するアプリケーションのボタンを押します。

本パソコンご購入時は、次のアプリケーションが設定されています。

- ・ A ボタン  
インターネット無料体験  
← 『取扱説明書』
- ・ B ボタン  
FMキャプチャ（キャプチャソフト）  
「CCD カメラを使う」← (P.39)
- ・ Internet ボタン  
Internet Explorer（ブラウザ）  
← 『使いこなす本 インターネット編』
- ・ E-mail ボタン  
らくらくメールBOX（メールソフト）  
← 『使いこなす本 インターネット編』



## Windows98 を終了またはサスペンドしているとき

- ・ Windows98 の終了時、またはサスペンド時にボタンを有効にすることができます。「FM 便利ツール」の「かんたんボタンの設定」で「スタンバイ状態のときでも、このボタンを有効にする」または「電源が切れているときでも、このボタンを有効にする」をクリックして  を  にしてください。
- ・ E-mail ボタンを Windows98 の終了時、またはサスペンド時に有効にした場合、E-mail ボタンを押すと、新着 E メールをチェックします。新着 E メールがあるときは、メールソフトが起動し、新着 E メールを受信します。新着 E メールがないときは、自動的に Windows98 を終了またはサスペンドし、元の状態に戻ります。

## アプリケーションの割り当てを変更する

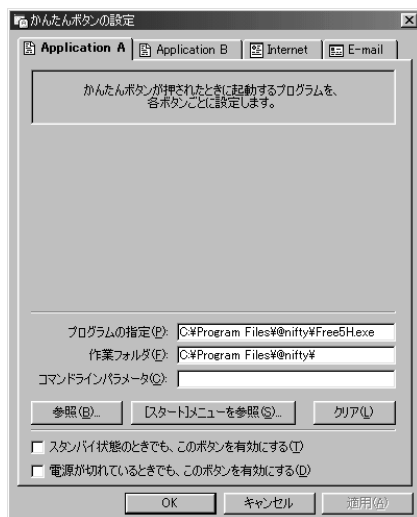
- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「FM 便利ツール」、「1. 便利ツール」の順にマウスポインタを合わせ、「2. かんたんボタン」をクリックします。

「かんたんボタンの設定」ウィンドウが表示されます。

- 2 変更するボタンのタブをクリックします。

各ボタンに割り当てられているアプリケーションは、変更することができます。各タブは次のボタンに対応しています。

- ・「Application A」タブ  
A ボタン
- ・「Application B」タブ  
B ボタン
- ・「Internet」タブ  
Internet ボタン
- ・「E-mail」タブ  
E-mail ボタン



- 3
  - ▶ A ボタンまたは B ボタンを変更するとき 手順 4
  - ▶ Internet ボタンを変更するとき  
「ボタンが押されたら、その他のプログラムを起動する」をクリックし、をにします。 手順 4
  - ▶ E-mail ボタンを変更するとき  
使うメールソフトをクリックし、をにします。 手順 7
- 4 「[スタート]メニューを参照」をクリックします。
- 5 表示される一覧で、割り当てるアプリケーション名をクリックします。
- 6 「OK」をクリックします。
- 7 他のボタンも変更する場合は、手順 2 ~ 6 を繰り返します。
- 8 「OK」をクリックします。

### アドバイス

#### E-mail ボタンを変更するとき

割り当てたいメールソフトがメールソフトの一覧にないときは、「ボタンが押されたら、メールソフトを起動する」の「その他」をクリックしてをにし、手順 4 へ進みます。

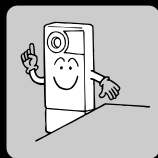
また、この場合、Eメールを自動的に受信するには、メールソフト側で「起動時に新着メールを自動的に取りこむ」設定をする必要があります。

設定のしかたについては、各メールソフトのヘルプをご覧ください。

#### CCD カメラのシャッターボタンを割り当てる場合

手順 5 で「FM キャプチャ」をクリックし、手順 6 のあとに「コマンドラインパラメータ」に「/S」と入力してください。





# 6

## CCD カメラを使う

CCDカメラを接続すると、デジタル写真やデジタルビデオ映像をパソコンで扱うことができます。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する ◀P.39
- ・ CCD カメラを取り付ける ◀P.39
- ・ FM キャプチャについて ◀P.42
- ・ CCD カメラを収納する ◀P.49

### 必要なものを用意する

CCD カメラ (添付)

CCD カメラが破損した場合などは、FMV-NCCD1 をお使いください。

#### アドバイス

「FM キャプチャ」起動中は、CCD カメラの取り付けや取り外しを行わないでください。

「FM キャプチャ」が正常に動作しないことがあります。必ず「FM キャプチャ」を終了させてから、CCD カメラの取り付けや取り外しを行ってください。

### CCD カメラを取り付ける



**故障** CCDカメラの接続は、マニュアルをよくお読みになり正しく行ってください。誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよびCCDカメラが故障する原因となることがあります。

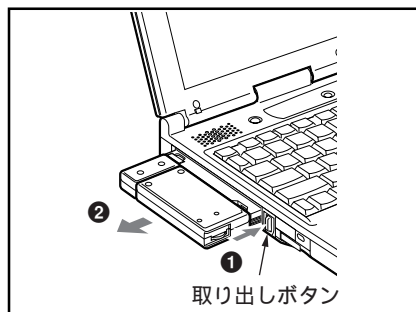
### パソコン本体に内蔵して使う場合

#### 1 パソコン本体に CCD カメラのユニットを取り付けます。

「モバイルマルチベイのユニットを交換する」(◀P.26)

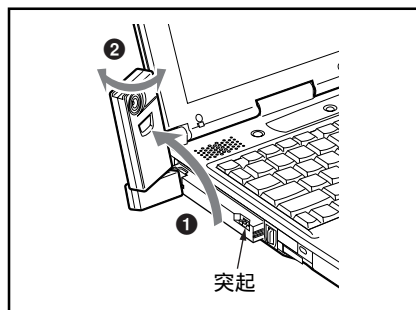
#### 2 CCD カメラを引き出します。

- ① ユニットの取り出しボタンを押すと CCD カメラが 1cm 程飛び出ます。
- ② CCD カメラをカチャッという音がするまで静かに引き出します。



#### 3 CCD カメラを起こします。

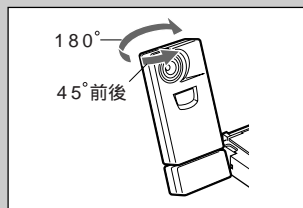
- ① CCD カメラをユニット部の突起から外して起こします。
- ② CCD カメラのアングルを調整します。



**重要**

**アングルの注意**

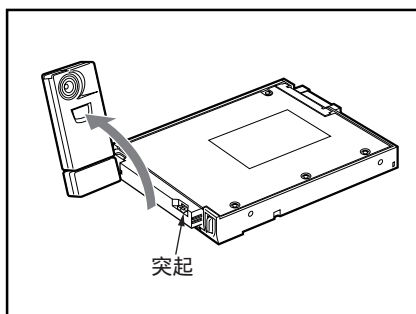
CCD カメラのアングルは、右に 45° 前後、左に 180° です。それ以上は、無理に回さないでください。



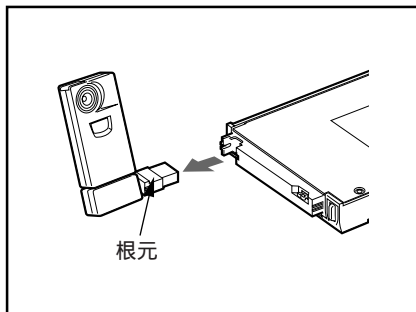
**パソコン本体に外付けで使う場合**

1 CCD カメラを引き出します。  
「パソコン本体に内蔵して使う場合」(P.39) の手順 2

2 CCD カメラをユニット部の突起から外して起こします。

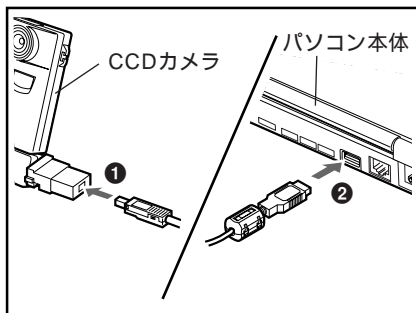


3 CCD カメラを引き抜きます。  
CCDカメラの根元を持って、静かにカメラを引き抜きます。



4 接続ケーブルで CCD カメラを接続します。

- ① 接続ケーブルの小さなほうのコネクタを CCD カメラに接続します。
- ② 接続ケーブルの大きなほうのコネクタをパソコン本体背面の USB コネクタに接続します。



**重要**

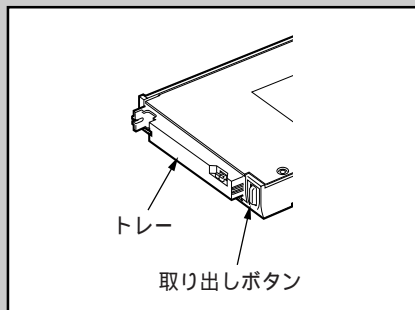
**接続ケーブルについて**

- ・ 接続ケーブルで CCD カメラと本パソコンを接続する場合は、必ず上記手順 ①、② の順に行ってください。CCD カメラが正常に動作しない場合があります。
- ・ パソコン本体側へのケーブルの接続は、接続ケーブルをパソコン本体にまっすぐ差し込んでください。

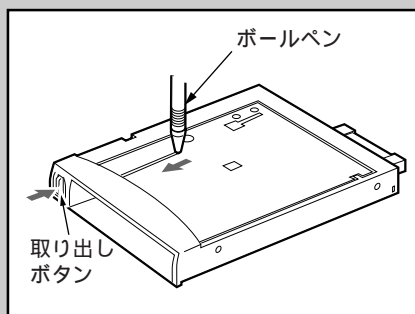
## 重要

### CCDカメラのトレーについて

- ・ CCDカメラを取り外した状態でユニット部の取り出しボタンを押すと、トレー部分がユニットに入ってしまうので、ご注意ください。



- ・ CCDカメラのトレーを誤まって収納してしまった場合は、ユニット裏面のスリットにボールペンの先などを差し込み、取り出しボタンを押しながら、カチャッという音がするまでトレーを引き出してください。

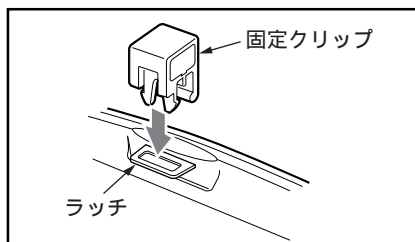


## アドバイス

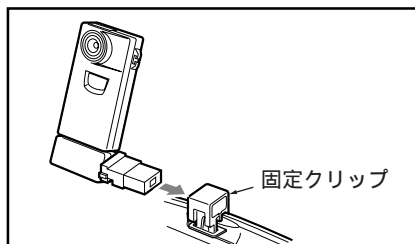
### パソコン本体のラッチに取り付けて使う場合

CCDカメラはパソコン本体のラッチ部分に取り付けて使うこともできます。

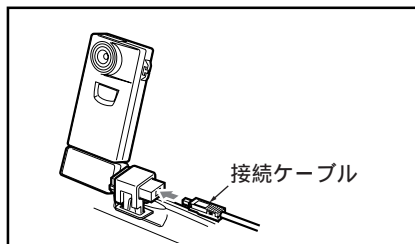
- 1 添付のCCDカメラ固定クリップをラッチに取り付けます。



- 2 クリップにカメラを取り付けます。



- 3 接続ケーブルでパソコン本体と接続します。



## アドバイス

### FM キャブチャが起動しないとき

他のアプリケーションで CCD カメラを使用していると、「FM キャブチャ」が起動しません。他のアプリケーションを終了してから、「FM キャブチャ」を起動してください。

## FM キャブチャについて

FM キャブチャは CCD カメラを使ってデジタル写真やデジタルビデオ映像を撮るためのアプリケーションです。

撮影した画像データは、連携するアプリケーションを使って、編集や加工をしたりメールに添付したりすることができます。

FM キャブチャには、次の 4 つの操作モードがあります。

- ・ 写真を撮るモード
- ・ 写真を見るモード
- ・ ビデオを撮るモード
- ・ ビデオを見るモード

各モードの切り替えは、メインパネルのボタンをクリックすることで変更できます。モードを切り替えると、メインパネルの下の操作パネルが変わり、各モードの操作を行うことができます。



## 重要

### FM キャブチャについて

- ・ 「FM キャブチャ」は弊社 CCD カメラ (FMV-NCCD1) に対応しています。
- ・ 「FM キャブチャ」を起動させた状態で、CCD カメラの接続および取り外しを行わないでください。
- ・ 「FM キャブチャ」を使用する際には、画面の発色数を「High Color (16 ビット)」に設定することをお勧めします。
- ・ 「FM キャブチャ」起動中には、本パソコンはサスペンドできません。

## 写真を撮って見る

CCD カメラを使って写真を撮ってみましょう。

「FM キャブチャ」では写真を最大で 100 枚まで撮ることができます。

### 1 CCD カメラを本パソコンに接続します。

「CCD カメラを取り付ける」(P.39)


- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「FMキャプチャ」の順にマウスポインタを合わせ、「1.FMキャプチャ」をクリックします。  
メッセージが表示され、しばらくすると「FMキャプチャ」が起動します。  
ワンタッチボタンのBボタンを押しても「FMキャプチャ」が起動します。  
「ワンタッチボタンを使う」(P.37)

- 3 メインパネルの (写真を撮るボタン) をクリックします。


写真を撮るモードになります。  
・写真を撮るモードの操作パネル



- 4 CCDカメラを被写体に向けます。  
フォーカスダイヤルで、ピントを合わせます。  
左に回すと近くに、右に回すと遠くにピントが合います。
- 5 写真を撮ります。



写真を撮る方法には以下の方法があります。  
・CCDカメラのシャッターボタンを押す  
・操作パネルの (シャッターボタン) をクリックする  
・ワンタッチボタンのBボタンを押す  
「ワンタッチボタンを使う」(P.37)

続いて撮った写真を見てみましょう。

- 6 メインパネルの (写真を見るボタン) をクリックします。  
写真を見るモードになり、撮った写真がファインダーに表示されます。

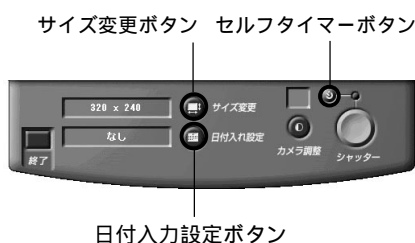
### アドバイス


FMキャプチャを終了するには


操作パネルの (終了ボタン) をクリックするか、メインパネル右上の をクリックして終了してください。


### アドバイス

写真を撮るモードのボタンについて



写真のサイズを変更するには  
 (サイズ変更ボタン) をクリックすると、写真のサイズを変更することができます。「640 × 480」「320 × 240」「160 × 120」の3種類があり、ボタンを押すごとに切り替わります。

写真に日付を入れるには  
 (日付入力設定ボタン) をクリックすると、写真に日付や時刻を入れることができます。「なし」「日付のみ」「日付と時刻」の3種類があり、ボタンを押すごとに切り替わります。日付と時刻は、コントロールパネルの「地域」で設定されているものが入ります。日付と時刻の設定について詳しくは、Windows98のヘルプをご覧ください。

セルフタイマーで写真を撮るには  
 (セルフタイマーボタン) をクリックすると、約10秒後にシャッターが自動的に押されて、写真を撮ることができます。セルフタイマーボタンの左側にカウントが表示されます。

## 写真の画質を設定する

写真を撮るモードの **6** (カメラ調整ボタン) をクリックすると、「カメラ調整」ウィンドウが表示され、以下のような設定を行うことができます。

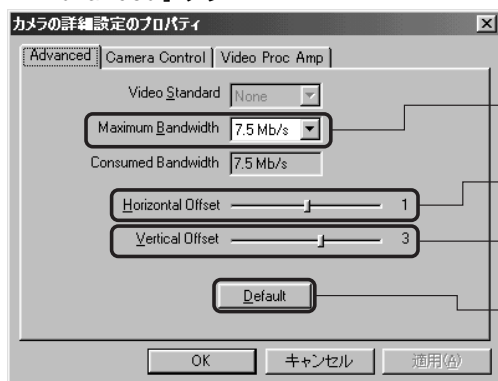
### ・写真の画質を設定する

「カメラ調整」ウィンドウで、「写真の画質」の「変更」ボタンをクリックすると、「最高画質 (100%)」「高画質 (75%)」「中画質 (60%)」「低画質 (50%)」の4段階に設定を変更できます。値を高くすると、画質は優れますがファイルサイズが大きくなります。

### ・カメラの詳細設定を行う

「カメラ調整」ウィンドウの「開く」をクリックして表示される「カメラの詳細設定のプロパティ」ウィンドウで次のような設定を行うことができます。

### ・「Advanced」タブ



データの最大転送速度を設定できます (0.5Mb/sec ~ 7.5Mb/sec)。

ファインダーの水平位置を設定できます (0 ~ 2段階)。

ファインダーの垂直位置を設定できます (0 ~ 6段階)。

「Horizontal Offset」と「Vertical Offset」を初期値に戻すことができます。

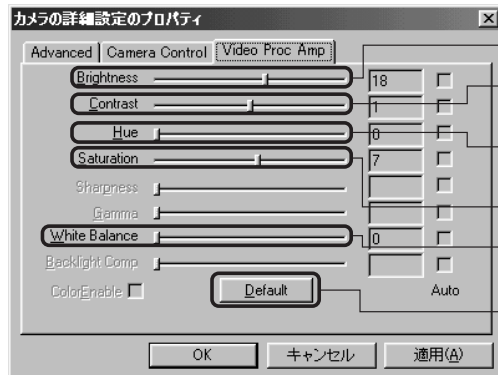
### ・「Camera Control」タブ



この項目は調整しないでください。

「Zoom」を変更してしまった場合には、初期値に戻すことができます。

### ・「Video Proc Amp」タブ



明るさを設定できます (0 ~ 31段階)。

コントラストを設定できます (0 ~ 2段階)。

赤と緑の色合いを設定できます (0 ~ 17段階)。

彩度を設定できます (0 ~ 13段階)。

ホワイトバランスを設定できます (0 ~ 3)。

「Video Proc Amp」タブのすべての設定を初期値に戻すことができます。

## アドバイス 「カメラ調整」ウィンドウの設定について

「カメラ調整」ウィンドウで設定を変更しないで使用するをお勧めします。

## アドバイス 「Maximum Bandwidth」について

「Maximum Bandwidth」を変更したあとで、値を元に戻したい場合には、希望の値に設定し、「OK」をクリックしてください。またアプリケーションを一度終了させ、再起動させる必要があります。

## 「Horizontal Offset」と「Vertical Offset」の値を変更したとき

設定値によっては画面上に黒い線が表示されることがあります。「Default」ボタンをクリックして、初期値に戻すと黒い線は表示されなくなります。

## アドバイス ホワイトバランスの設定について

0 に設定した場合は、カメラが自動的にホワイトバランスを設定します。

1 ~ 3 に設定した場合は、変更した設定が反映されます。

## 撮った写真を活用する

- 撮った写真を加工したり、編集したりするときは、写真を見るモードに切り替えます。
- 写真を見るモードの操作パネル



- ・ 写真を送る
  - ④ (メールボタン) をクリックすると、メールソフトが起動して、撮った写真をEメールに添付することができます。
  - ☞ 『使いこなす本 インターネット編』の「第5章 Eメールを使いこなそう」
- ・ 写真を加工する
  - ④ (編集ボタン) をクリックすると「はーときゃんばす」が起動し、撮った写真を加工することができます。
  - 詳しくは、「はーときゃんばす」のヘルプをご覧ください。
- ・ 写真を壁紙にする
  - ④ (壁紙ボタン) をクリックすると、撮った写真をデスクトップの壁紙にすることができます。壁紙の表示を変更する方法は、画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q&A」をご覧ください。
- ・ 写真を保存する
  - ④ (アルバムボタン) をクリックすると、「らくらく写真館」のPhotoManagerが起動し、撮った写真が「私の写真」フォルダに保存されます。
  - ☞ 『使いこなす本 ソフト編』の「楽しもう！デジタル写真」
- ・ 写真を削除する
  - ④ (削除ボタン) をクリックすると、ファインダーに表示されている写真を削除します。
- ・ 撮った写真すべてを削除する
  - ④ (全削除ボタン) をクリックすると、撮った写真をすべて削除します。

## ビデオを撮って見る

- CCDカメラを使ってビデオ撮影をしてみましょう。
- 「FMキャプチャ」ではビデオ映像を最大約60秒間撮影することができます。

- 1 FMキャプチャを起動します。  
「写真を撮って見る」の手順1～2 (☞P.42)

### アドバイス

#### ④ (編集ボタン) をクリックできないとき

「はーときゃんばす」が使用できない状態になっています。「はーときゃんばす」をインストールしてください。

☞ 『トラブル解決Q&A』の「アプリケーションのインストール/削除」

#### ④ (アルバムボタン) をクリックできないとき

「らくらく写真館」が使用できない状態になっています。「らくらく写真館」をインストールしてください。

☞ 『トラブル解決Q&A』の「アプリケーションのインストール/削除」

#### その他の活用方法

本パソコンにインストールされている「パーティグッズ:Facematch」では、CCDカメラで撮った写真を使った相性診断ができます。

詳しくはヘルプをご覧ください。

### アドバイス

ビデオ撮影を再開するとそれまでに録画した画像はなくなります

「FMキャプチャ」で撮影したビデオ映像は保存することができません。

ビデオを撮影した場合は、すでに録画した映像は消えてしまいます。

また、映像を継ぎ足して撮影することはできません。

## アドバイス

### 録音について

- ・ビデオ撮影時の録音音量の設定、および録音する項目については、「録音時の音量設定」(P.51)をご覧ください。
- ・内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

## アドバイス

### ご購入時はFJV形式が選択されています

MPEG1形式で送る場合にはメール添付形式の設定を変更してください。

### メールソフトについて

ワンタッチボタンのE-mailボタンの設定を変更すると、メールを送信できないことがあります。

「ワンタッチボタンを使う」(P.37)

## 2 メインパネルの(ビデオを撮るボタン)をクリックします。

- ビデオを撮るモードになります。
- ・ビデオを撮るモードの操作パネル



## 3 CCDカメラを撮りたいものに向けます。

左に回すと近くに、右に回すと遠くにピントが合います。

## 4 ビデオを撮ります。

ビデオを撮る方法には以下の方法があります。

- ・CCDカメラのシャッターボタンを押す
- ・操作パネルの(録画 / 停止ボタン)をクリックする
- ・ワンタッチボタンのBボタンを押す  
「ワンタッチボタンを使う」(P.37)

## 5 撮影を終了します。

ビデオの撮影を終了する方法は、手順4と同様です。

撮影時間が最大の約60秒を過ぎると、撮影は自動的に終了します。

続いて撮影したビデオを見てみましょう。

## 6 メインパネルの(ビデオを見るボタン)をクリックします。

ビデオを見るモードになります。

## 7 撮影したビデオの最初のシーンがファインダーに表示されます。

## 8 (再生ボタン)をクリックします。

撮影したビデオを見ることができます。

## ビデオをメールで送る

撮ったビデオをメールで送るときはビデオを見るモードに切り替えます。

- ・ビデオを見るモードの操作パネル



- ・メールで送る

(メールボタン)をクリックすると、撮影したビデオをEメールに添付できます。添付するビデオの形式には、「MPEG1形式」と「FJV形式」があります。形式の設定は(メール設定ボタン)をクリックして表示される「メール設定」ウィンドウで行います。「FJV形式」のビデオを再生する場合は、「FJV VideoPlayer」(ビデオ再生プレーヤ)が必要になります。

- ・添付するビデオの形式を設定する

(メール設定ボタン)をクリックすると、「メール設定」ウィンドウが表示されます。「メール設定」ウィンドウではEメールに添付するビデオ形式(MPEG1/FJV形式)の設定、および「FJV形式」専用のビデオ再生プレーヤ「FJV VideoPlayer」の添付を設定することができます。



・ビデオを削除する

✕ (削除ボタン) をクリックすると、撮影したビデオのすべてのシーンが削除されます。いったん削除すると元に戻せないので、気をつけてください。

・メール設定ウィンドウ



💡 アドバイス

FJV VideoPlayer を送る

FJV 形式のビデオを再生するためには「FJV VideoPlayer」(ビデオ再生プレーヤ)が必要です。初めてFJV形式のビデオを送信する相手には、ビデオを送信する前に、「FJV VideoPlayer」を送信してください。

- ・「メール設定」ウィンドウの「送る」ボタンをクリックすると、メールソフトが起動し、「FJV VideoPlayer」が添付されたメールが作成されます。
- ・添付ファイルで送られた「SetupVP.exe」をクリックして実行すると、「FJV VideoPlayer」がインストールされ、FJV 形式のビデオを再生できます。



「FJV 形式」と「MPEG1 形式」について

コラム

FJV 形式

富士通独自の形式です。ファイルサイズを MPEG1 形式の約 1/3 に圧縮できますが、画像が粗くなります。

MPEG1 形式

一般的なビデオCDで使用されている形式です。画質は鮮明ですが、ファイルサイズが大きくなります。

## FM キャプチャをご利用時の留意事項

### 写真やビデオの撮影について

- ・ハードディスクの空き容量がなくなると、写真やビデオが撮影できなくなります。  
☞『トラブル解決 Q&A』の「ハードディスクの空き領域を増やす」
- ・写真やビデオを撮影するときに、ファインダーの映像が実際より少し遅れて表示されることがあります。
- ・「FM キャプチャ」のファインダーには、常に 320 × 240 のサイズで表示されます。

### 操作パネルのボタンについて

写真を撮るモードおよびビデオを撮るモードで、操作パネルのボタンを続けて押すときは、2 秒以上待ってから次のボタンを押してください。続けて押すと、画面が乱れることがあります。

### 日付や時刻を入れる場合

- ・日付や時刻の書式は、「コントロールパネル」ウィンドウの「地域」タブで設定します。
- ・「カメラの調整」ウィンドウで、「写真の画質」を「最高画質」にすることをお勧めします。画質を低くすると、日付や時刻の文字が不鮮明になります。
- ・日付や時刻の文字の大きさや色は変更できません。

### 連携して起動するメールソフトについて

連携して起動するメールソフトは、「FM 便利ツール」が管理しています。「FM 便利ツール」をアンインストールしているときは、「らくらくメールBOX」が起動します。「らくらくメールBOX」をアンインストールしているときは、Outlook Express Ver.4 以上などの MAPI 対応のメールソフトが起動します（メールソフトで MAPI を使用できる状態にしているとき）。詳しくは各メールソフトのヘルプをご覧ください。

### 壁紙について

ファインダーの画像を壁紙に設定するだけです。中央に表示するかなど、表示位置は変更しません。

### ビデオをメールに添付する場合

- ・「FJV VideoPlayer」の動作環境に適合しないパソコンをお使いの人に送る場合は、MPEG1 形式で送ってください。ただし、送信先に、MPEG1 形式のビデオプレーヤーが必要です。詳しくはヘルプをご覧ください。
- ・送信先に DirectX6.1 以上がインストールされていない場合、「FJV VideoPlayer」は使用できません。

## 別売の CCD カメラを購入した場合

別売の CCD カメラ (FMV-NCCD1) をお使いになる際は、本パソコンにインストールされている「FM キャプチャ」を使用してください。別売の CCD カメラに添付の「FM キャプチャ」は、本パソコンにインストールされている「FM キャプチャ」と操作方法が異なります。

## 用語

### マビ MAPI

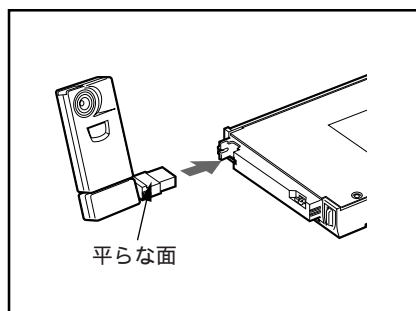
Messaging API の略。Microsoft が標準化した、メッセージ通信用の Windows 標準のシステムインターフェース。

## CCD カメラを収納する

### CCD カメラを外付けで使った場合

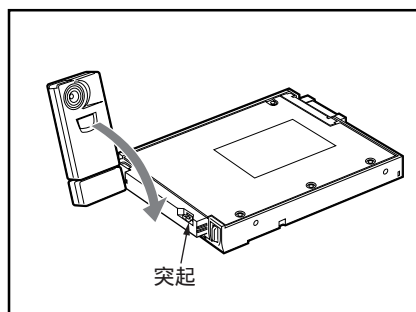
- 1 CCD カメラをユニットに取り付けます。

CCD カメラの接続コネクタの平らな面を上にして、ユニットに差し込みます。



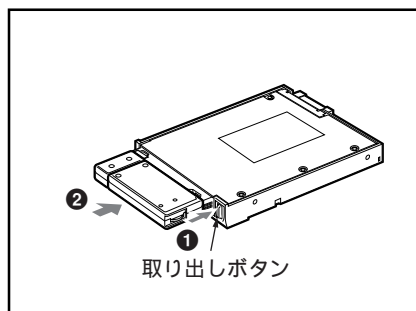
- 2 CCD カメラをロックします。

CCD カメラの上部と下部を水平にして倒し、ユニット部の突起にロックします。



- 3 CCD カメラを押し込みます。

ユニットの取り出しボタンを押しながら(①)、CCD カメラを静かに押し込みます(②)。



### CCD カメラを内蔵で使った場合

- 1 CCD カメラを収納します。

「CCD カメラを外付けで使った場合」(P.49) の手順 2 ~ 3

2

基本的な機能をお使いください (CCD カメラを使う)



# 7

## 音量を調節する

### アドバイス

ハウリング（キーンと音になること）が起きたとき

マイクをお使いのときに音量ボリュームを上げすぎると、スピーカーとマイクの間でハウリングが起きる場合があります。音量を小さくするか、ヘッドホンあるいは外付けマイクを使用してください。

また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」（消音）にしてください。

画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q&A」

### スピーカーの確認

音量ボリューム、または音量つまみで音量を調節しても音が出ない場合は、スピーカーの状態を確認してください。**[Fn]**を押しながら**[F3]**を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。ビーと音がした場合はスピーカーがON、音がしない場合はスピーカーがOFFになります。

（音量）を表示したいとき

タスクバーが表示されない場合は、**[国]**を押してください。タスクバーが表示されます。

音量を調節するには、パソコン本体の「音量ボリューム」で調節する方法と、画面に「音量つまみ」を表示させて調節する方法の2種類があります。

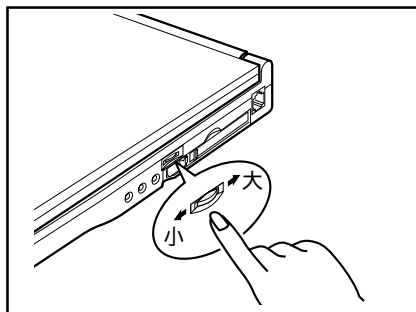
それぞれの音量調節は相互に関係しています。音量ボリュームでは、音量つまみで設定した音量を最大音量とし、その範囲で音を大きくしたり、小さくしたりできます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・音量ボリュームで調節する P.50
- ・音量つまみで調節する P.50

### 音量ボリュームで調節する

- 1 本体右側面の音量ボリュームを回して適当な音量に調節します。



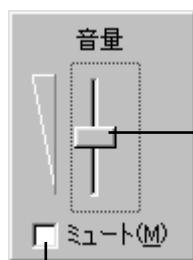
### 音量つまみで調節する

音量ボリュームで調節しても、音が大きすぎたり、小さすぎたりするときは、音量つまみで調節します。

- 1 タスクバーの（音量）をクリックします。



- 2 音量つまみをドラッグして、適当な音量に設定します。



音量つまみ

下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート

クリックしてにすると音が出ません。この場合、音量つまみや音量ボリュームで調節しても音は出ません。もう1度クリックしてにすると音が出ます。


- 3 デスクトップの何もなところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。



## さまざまな音量を設定したいとき

音声入出力時のバランスや音量などを設定したい場合は、「ボリュームコントロール」ウィンドウでそれぞれの音量を調節します。

### 「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示する



- 「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示するには、次の2つの方法があります。
- ・タスクバーの (音量) をダブルクリックします。
  - ・「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテインメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。

### 再生時の音量設定

「ボリュームコントロール」ウィンドウの「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックして表示されるウィンドウで「再生」をクリックしてにし、「OK」をクリックすると、再生時の音量を設定できます。なお、 が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。



項目	設定する音量
ボリュームコントロール	パソコン全体の音量
WAVE	Wave ファイルの音量
SW Synth	(Windows.WDM 標準の) ソフトウェア MIDI の音量
3D Depth	3D 効果の調整
ZV	I <sup>2</sup> S サウンドの音量
CD プレーヤー	音楽 CD の音量
ライン入力	ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
マイク	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
Phone	モデムの音量


### 録音時の音量設定

「ボリュームコントロール」ウィンドウの「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックして表示されるウィンドウで「録音」をクリックしてにし、「OK」をクリックすると、録音時の音量を設定できます。なお、 が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。

項目	設定する音量
モノラルミックス	録音全体 (モノラル) の録音音量
ステレオミックス	録音全体 (ステレオ) の録音音量
ZV	I <sup>2</sup> S の録音音量
CD プレーヤー	音楽 CD の録音音量
ライン入力	ラインイン・ジャックに接続した機器の録音音量
マイク	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
Phone	モデムの録音音量

### その他の音量設定

「ボリュームコントロール」ウィンドウで「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックして表示されるウィンドウで「その他」をクリックしてにし、「OK」をクリックすると、その他の音量を設定できます。なお、 が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。


項目	設定する音量
モノラルミックス	スピーカーやヘッドホンから出力される音声を電話回線へ出力するときの音量
マイク	マイクからの入力音声のみを電話回線へ出力するときの音量 本パソコンをスピーカフォンとして使う場合は「マイク」の「選択」をクリックして  にしてください。

## アドバイス

表示されていない項目を表示させるには

「ボリュームコントロール」ウィンドウで、次のように設定します。

1 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「表示するコントロール」で、項目をクリックしてを付けます。

項目が「ボリュームコントロール」ウィンドウに表示されるようになります。

「ボリュームコントロール」ウィンドウの一部を表示できないことがあります

解像度によっては、「ボリュームコントロール」ウィンドウの一部を表示できないことがあります。

## 8

## 画面の解像度や発色数を変える

ここでは以下のことを説明します。

- ・液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数 ←P.52
- ・液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える ←P.52

 **アドバイス**

## ご購入時の解像度

- ・MF3/500X  
1024 × 768 ドット
- ・MF3/45  
800 × 600 ドット

## ご購入時の発色数

High Color (16 ビット)

## High Color、True Colorの発色数

High Color(16ビット)は65536色、True Color(32ビット)は1677万色です。

## 別売の外部ディスプレイを接続したとき

別売の外部ディスプレイを接続した場合に表示できる解像度と発色数については、「外部ディスプレイの解像度と発色数について」(←P.110)をご覧ください。



## 解像度や発色数を変更するとき

- ・設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。
- ・アプリケーションによっては、発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリケーションの動作環境を確認し、発色数を変更してください。

## 液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。

解像度	発色数
640 × 480 ドット 1	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) 2 3
800 × 600 ドット 1	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) 2 3
1024 × 768 ドット 4	256 色 High Color (16 ビット)
1280 × 1024 ドット 4 5	256 色

- 1 MF3/500Xでは、640 × 480 ドットまたは800 × 600 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。  
MF3/45では、640 × 480 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。
- 2 デザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、1677万色で表示されます。
- 3  を押しながら  を押すことによる液晶ディスプレイの全画面表示、および「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細」をクリックし、「フラットパネル」タブの「ディスプレイストレッチ」を  することによる液晶ディスプレイの全画面表示は使用できません。
- 4 MF3/45では仮想スクリーンモードでの表示となります。1024 × 768 ドット以上に設定すると、液晶ディスプレイには800 × 600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。
- 5 MF3/500Xでは仮想スクリーンモードでの表示となります。1280 × 1024 ドットに設定すると、液晶ディスプレイには1024 × 768 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

## 液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える

 **重要**

## アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。


「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしてチェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows98の標準画面に切り替わります。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

## 解像度や発色数を変更するときの注意

一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2  (画面) をクリックします。

3 「設定」タブをクリックします。

4 MF3/500X をお使いの方

- ▶ 解像度を 1024 × 768 ドット以下に設定する場合 ← 手順 16 (P.54)
- ▶ 解像度を 1280 × 1024 ドットに設定する場合 ← 手順 5
- ▶ 発色数を変更する場合 ← 手順 16 (P.54)

MF3/45 をお使いの方


- ▶ 解像度を 800 × 600 ドット以下に設定する場合 ← 手順 16 (P.54)
- ▶ 解像度を 1024 × 768 ドット以上に設定する場合 ← 手順 5
- ▶ 発色数を変更する場合 ← 手順 16 (P.54)


5 「詳細」をクリックします。

6 「モニタ」タブをクリックします。

7 「変更」をクリックします。

8 「次へ」をクリックします。

9 「特定の場所にあるすべてのドライバの.....」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。

10 「すべてのハードウェアを表示」をクリックして  にします。

11 以下のように選びます。

製造元：「(標準モニタの種類)」  
モデル：「Super VGA 1280 × 1024」

12 「次へ」をクリックします。


「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。

13 「次へ」をクリックします。

「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。

14 「完了」をクリックします。

15 「閉じる」をクリックします。

 **アドバイス**

**解像度を設定する場合**

手順 5 ~ 15 の操作をして解像度を変更したことがある場合、2 回目以降は手順 16 へ進んでください。ただし、ディスプレイドライバをインストールし直したあとは、手順 5 へ進んでください。

 **アドバイス**

**「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき**

- 1 「OK」をクリックします。  
メッセージが表示されます。
- 2 「はい」をクリックします。
- 3 手順 16 へ進みます。

## 16 発色数や解像度を変更します。

- ① 発色数の変更  
▼ をクリックして発色数を選びます。
- ② 解像度の変更  
をドラッグします。



(この画面は、機種により若干異なります)

## 17 「OK」をクリックします。

ウィンドウが表示されます。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。

## 18 「OK」または「はい」をクリックします。

ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。画面の設定が変更されます。

### アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたとき

「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」をクリックして [O] にし、「OK」をクリックしてください。





# 9

基本的な機能を使おう

## 液晶ディスプレイの明るさを変更する

液晶ディスプレイの明るさは、「PMSet98」またはキーボード操作で8段階に調節できます。

なお、パソコンを使っている途中での明るさの変更は、キーボード操作のみ有効です。ここでは以下のことを説明します。

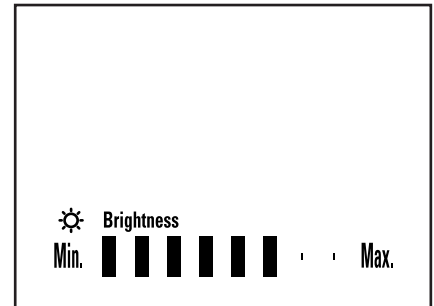
- ・ 明るさを設定する ◀P.55
- ・ 設定した明るさを変更する ◀P.55

### 明るさを設定する

「PMSet98」の「電源依存」タブの「LCDバックライト」(◀P.81)で設定できます。ACアダプタで使っているときと、バッテリーで使っているときの明るさを、それぞれ設定できます。

### 設定した明るさを変更する

キーボードを使用すれば、本パソコンを使用中でも上記の設定に関係なく、明るさを8段階に調節できます。**[Fn]**を押しながら**[F6]**で暗く、**[F7]**で明るくなります。調節中は、画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。



パソコンを再起動したり、サスペンドからレジュームしたり、ACアダプタの取り付けや取り外しを行ったときは、「PMSet98」で設定した明るさに戻ります。

#### 💡 アドバイス

##### キーボードで明るさを変更するときの注意

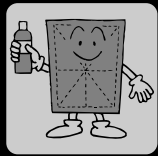
再起動したり、サスペンドからレジュームしたり、ACアダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。しばらくしてから、変更してください。

##### PMSet98を終了しているとき

明るさを示すインジケータが表示されません。

2

基本的な機能を使おう(液晶ディスプレイの明るさを変更する)



## 10

# お手入れのしかた

パソコンを快適にお使いいただくため、パソコンのお手入れのしかたを説明します。お手入れのしかたは、ディスプレイ、フロッピーディスクドライブなど、各部によって違います。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

ここでは以下のことを説明します。

- ・ パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ ◀P.56
- ・ フロッピーディスクドライブのお手入れ ◀P.56

## パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ

### 重要

#### お手入れ前の確認

感電やけがの原因になることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- ・ パソコン本体の MAIN スイッチを切って（側にスライドして）ください。
- ・ AC アダプタを取り付けている場合は、取り外してください。
- ・ プリンタなど、取り付けている機器の電源を切り、パソコンから取り外してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

汚れがひどいときは、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りのときには、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。

## フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは別売のクリーニングフロッピーを購入して、3ヵ月に1回はヘッド（データを読み書きする部分）のクリーニングを行ってください。長い期間使用していると、ヘッドは汚れてきます。ヘッドが汚れると、記憶したデータを正常に読み書きできなくなります。



注意



けが フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

### 用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ


商品番号 : 0212116

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)


## 重要

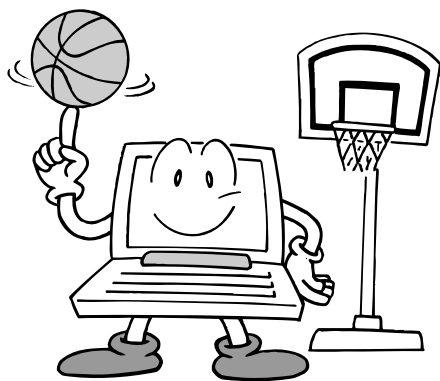
内蔵スーパーディスクドライブユニット（別売）では使えません

内蔵スーパーディスクドライブユニットのクリーニングには、必ずスーパーディスクドライブ専用品をお使いください。フロッピーディスクドライブ用のクリーニングフロッピーをお使いになると、ヘッドを破損させ、故障の原因となります。

 『内蔵スーパーディスクドライブユニット（FMVNSD21）取扱説明書』

### お手入れのしかた

- 1 FDD ユニットを取り付けます。  
「FDD ユニットを接続する」(P.27)
- 2 パソコン本体の電源を入れます。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(P.60)
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。  
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 4 「C:¥WINDOWS >」のあとに `c:¥fjuty¥clndsk 0` と入力し、**Enter** を押します。  
「clndsk」と「0」の間は、 を 1 回押してください。「0」は、数字のゼロです。
- 5 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブに差し込み、**Enter** を押します。  
「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示され、クリーニングが始まります。  
クリーニングが終了すると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 6 「C:¥WINDOWS >」のあとに `exit` と入力し、**Enter** を押します。  
Windows98 の画面に戻ります。
- 7 状態表示LCDにが表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押して、クリーニングフロッピーを取り出します。

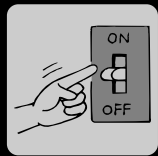


## 第 3 章

# 電源と節電機能を賢く使おう

本章では、電源の入れかたと切りかた、ACアダプタやバッテリーでの使いかた、節電のしかたについて説明しています。

1. 電源を入れる / 電源を切る .....	60
2. AC アダプタで使う .....	64
3. バッテリーで使う .....	66
4. 節電する .....	73
5. 節電の設定を変更する .....	79



## 1

## 電源を入れる / 電源を切る

ここでは、以下のことを説明します。

- ・電源を入れてパソコンを使おう (P.60)
- ・今日はおしまい。電源を切るには? (P.62)

## 電源を入れてパソコンを使おう

## 重要

## 電源を入れるときの注意

- ・フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされているときは、取り出しておいてください。  
「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.30)
- ・電源を切ったあと、すぐに電源を入れしないでください。再度電源を入れる場合は、10秒ほど待ってから電源を入れてください。
- ・電源が入っている状態で、持ち運んだり、衝撃を与えたりしないでください。
- ・長時間お使いになるときや通信をするときなど、大量の電力を消費する作業を行うときは、必ず AC アダプタを取り付けてください。

## バッテリーで使うときの注意

以下の場合、バッテリーが充電されていないことがあります。バッテリー残量を確認し、必要に応じてバッテリーを充電してください。

- ・本パソコンご購入のとき
- ・約 1 ヶ月以上充電していないとき

「充電する」(P.66)

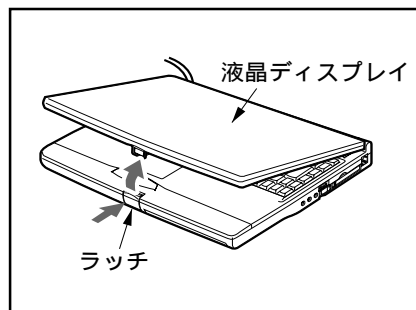
「残量を確認する」(P.69)

## 1 AC アダプタを取り付けます。

「AC アダプタを取り付ける」(P.64)

## 2 液晶ディスプレイを開きます。

前面のラッチを押してロックを外し、パソコン本体に手を添えて液晶ディスプレイを持ち上げます。



## 重要

## 液晶ディスプレイを閉じないでください

本パソコンを使用している際、BIOS セットアップの「省電力」メニューの「詳細設定」で、「カバークローズサスペンド」を「使用しない」に設定している場合は (P.129) 本パソコンの液晶ディスプレイを閉じないでください。

キーボードからの放熱効果が失われ、本パソコンが故障する原因となることがあります。

## 💡 アドバイス

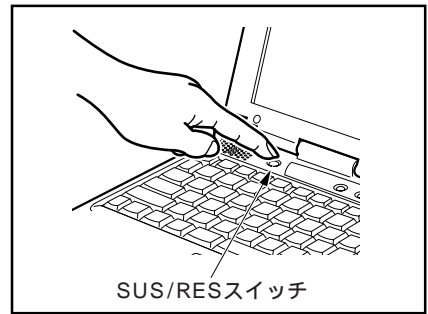
### Windows 98 が起動しないとき

電源を入れてもWindows 98 が起動しないときは、次の点を確認してください。

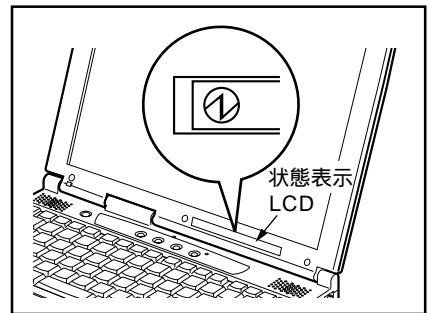
- ・ ACアダプタを取り付けているとき  
ACアダプタが正しく取り付けられているかを確認してください。  
「ACアダプタを取り付ける」(☞P.64)
  - ・ バッテリーで使うとき  
バッテリーの残量が十分にあるかを確認してください。  
「残量を確認する」(☞P.69)
  - ・ 画面にメッセージが表示されているとき  
「BIOSが表示するメッセージ一覧」(☞P.134)
- 以上の点を確認してもWindows 98 が起動しない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

☞『トラブル解決Q&A』の「第8章 それでも解決できないときは」

## 3 SUS/RES スイッチを押します。



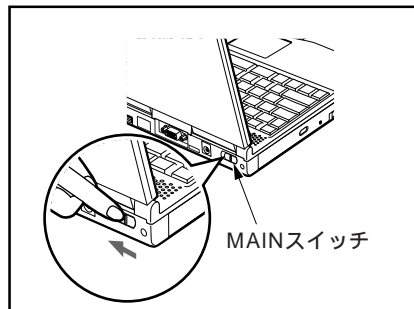
状態表示LCDに①が表示されます。しばらくすると、Windows 98 が起動します。



## 💡 アドバイス

### MAIN スイッチを切っているとき

MAIN スイッチを切っている(側にスライドしている)ときは、MAIN スイッチを|側にスライドして電源を入れてください。

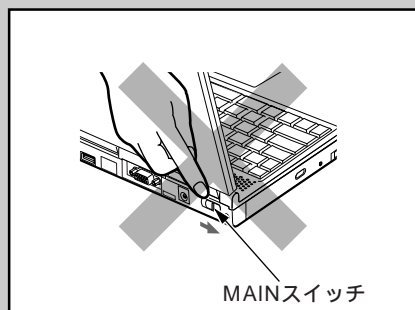


## 今日はおしまい。電源を切るには？



### 重要

#### 電源を切るときの注意

- ・ 状態表示 LCD に①(SUS/RES 表示) が点灯または点滅しているときは、MAINスイッチを側にスライドしないでください。
- ・ 必ず、以下の手順で Windows の終了処理を行ってください。  
Windows の終了処理を行うと、自動的に電源が切れます。



- ・ 電源を切る前に、フロッピーディスクや CD を取り出してください。  
「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(☞P.30)  
「CD をセットする / 取り出す」(☞P.33)

- 1 それまで行っていた作業を終了します。  
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。





## アドバイス

フロッピーディスクがセットされているとき

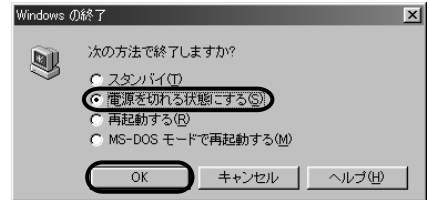
フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされていると、「フロッピーディスクが入っています。Windows の終了を中止します。」というメッセージが表示されます。

その場合は、「閉じる」をクリックし、フロッピーディスクを取り出して、手順3から操作し直してください。

続けてバッテリーを充電するとき

電源を切ったあとにACアダプタを取り外す必要はありません。

## 4 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。

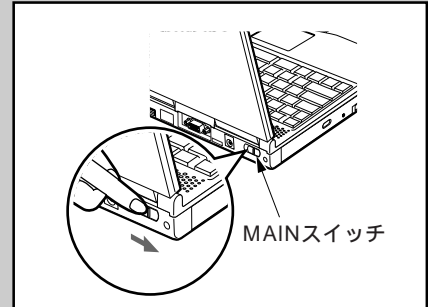


しばらくすると、状態表示 LCD の①が消え、電源が自動的に切れます。

## 重要

次のときは MAIN スイッチを切って（側にスライドして）ください

- ・ 携帯するとき
- ・ オプション機器の取り付けや取り外しをするとき
- ・ バッテリー残量が気になるときや節電したいとき
- ・ 本パソコンを長い間使わないとき



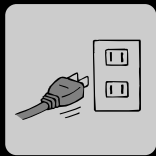
MAIN スイッチを切っているときは、ワンタッチボタンが使いません。

## 5 AC アダプタを取り外します。

「AC アダプタを取り外す」(P.65)

## 3

電源と節電機能を賢く使おう（電源を入れる／電源を切る）



# 2

## ACアダプタで使う

本パソコンを長時間使うとき、またはバッテリーを充電するときは、ACアダプタを取り付け、コンセントに接続します。パソコン本体を持ち運ぶときや、長期間本パソコンを使わないときは、ACアダプタを取り外します。

ここでは、以下のことを説明します。

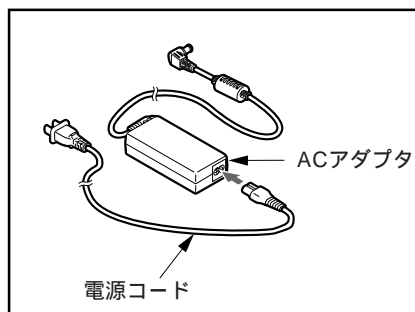
- ・ ACアダプタを取り付ける ◀ P.64
- ・ ACアダプタを取り外す ◀ P.65

### ACアダプタを取り付ける

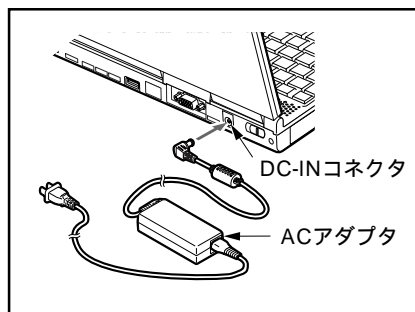


近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

#### 1 電源コードを接続します。



#### 2 ACアダプタを、DC-INコネクタに接続します。



#### 3 ACアダプタをコンセントに接続します。

## AC アダプタを取り外す

### 重要

バッテリーは充電されていますか

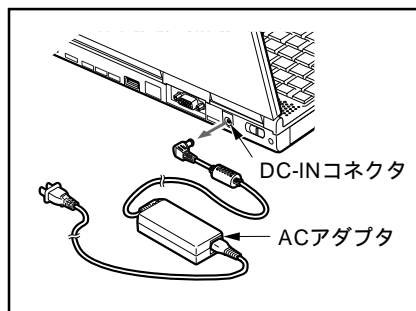
本パソコンを使っている途中でACアダプタを取り外すときは、バッテリーが充電されているか確認してください。

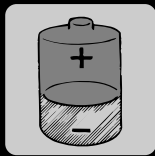
「残量を確認する」(P.69)

次の場合は必ず AC アダプタを取り外してください

- ・ オプション機器の取り付けや取り外しを行うとき
- ・ 本パソコンを長期間使わないとき

- 1 AC アダプタをコンセントから抜きます。
- 2 AC アダプタを、DC-IN コネクタから取り外します。





# 3

## バッテリーで使う

外出先でパソコンを使う場合など、コンセントがないときには、バッテリーで使うことができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・ 充電する ←P.66
- ・ 充電時間 ←P.67
- ・ 稼動時間 ←P.68
- ・ 残量を確認する ←P.69
- ・ 気をつけてください～バッテリーを使うとき ←P.71
- ・ 内蔵バッテリーパックを交換する ←P.71

### 重要

#### 充電してください

本パソコンご購入時、または1ヵ月以上充電していないときは、充電してからお使いください。

#### 次の場合は必ず AC アダプタを取り付けてください







- ・ ハードディスクやCDを頻繁に使用するとき
  - ・ LANカードを使用するとき
  - ・ 『トラブル解決Q&A』の「第3章 パソコンをふりだしにもどす」の作業を行うとき
- パソコン通信やインターネットを利用するとき

パソコン通信やインターネットでは、大量の電力を消費します。バッテリーの残量にご注意ください。長時間使用するときは、ACアダプタを取り付けてください。

## 充電する

### 重要

#### バッテリーを充電するときの注意

- ・ バッテリーを満充電にするときは、バッテリー充電表示(状態表示LCDの「」の「」)が消えるまで、ACアダプタを外さないでください。満充電になると「」が消えます。バッテリー残量表示が「」になっていても、左端が点滅()していたり、「」が表示されているあいだは、満充電ではありません。
- ・ バッテリーが約90%以上残っているときは、充電を開始しないことがあります。「残量を確認する」(←P.69)
- ・ 充電は、周囲の温度が5～35の範囲で行ってください。周囲の温度が高すぎたり低すぎたりする場合は、得られる電池容量が低くなります。また、周囲の温度が高いとき(35以上)は、バッテリーの劣化の原因にもなります。
- ・ 本パソコンを使った直後は、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働き、適温になるまで充電を開始しないことがあります。

## アドバイス

MAINスイッチを側にスライドしているとき

充電が完了してしばらくすると、状態表示LCDの表示が消えます。その場合は、本パソコンの電源を入れて、バッテリー充電表示を確認してください。

充電中もパソコンを使えます

バッテリーの充電中もパソコンを使うことができます。ただし、充電にかかる時間は、パソコンを使っていないときよりも長くなります。


作業の途中で画面が真っ暗になったとき

フラットポイント(☛P.3)に触れてください。ただし、状態表示LCDに④が点滅しているときは、SUS/RESスイッチ(☛P.3)を押してください。



本パソコンは、バッテリーで使うときに節電するように、あらかじめ設定されています。一定時間パソコンの操作をしないと、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。

### 1 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」(☛P.64)

ACアダプタを取り付けると充電が始まり、バッテリー充電表示(状態表示LCDの「」)が表示されます。

バッテリー充電表示は、充電が完了すると消えます。

バッテリー残量表示は、充電が完了すると点滅()から点灯()に変わります。

「残量を確認する」(☛P.69)

「充電時間」(☛P.67)

状態表示LCDに何も表示されなかったり、バッテリー充電表示が表示されないときは、充電が完了しています。

### 2 バッテリー充電表示(状態表示LCDの「」)が消えたことを確認します。

### 3 ACアダプタを取り外します。

「ACアダプタを取り外す」(☛P.65)

## 充電時間

充電時間は、電源の状態によって異なります。

新品で充電残量0%のバッテリーパックを満充電(100%充電されている状態)にする場合は、以下のとおりです。

電源の状態	状態表示LCD	パソコンの状態	充電に必要な時間
電源入	④が点灯	動作中	約10時間 (約16時間)
	④が点滅	サスペンド	約4時間
電源切	④が消灯	終了	(約6時間)

( )は別売の増設用内蔵バッテリーユニットを取り付けている場合です。

サスペンドについては「サスペンド機能を使う」(☛P.74)をご覧ください。

## 稼働時間

新品のバッテリーを満充電にした場合、本パソコンの稼働時間の目安は以下のとおりです。

内蔵バッテリー（添付）のみ	約 2.7 時間
内蔵バッテリー（添付）+ 増設バッテリー（別売）	約 6 時間

使用条件： オプション機器を取り外している状態で、Windows98の「電源の管理」やBIOSセットアップで節電の設定を有効にしているとき（ご購入時は有効）

本パソコンをバッテリーで使える時間（稼働時間）は、バッテリーの状態や作業内容によって異なります。パソコン通信など、大量の電力を消費する作業を行うと、バッテリーの稼働時間は短くなります。

### 重要

#### バッテリーの稼働時間について

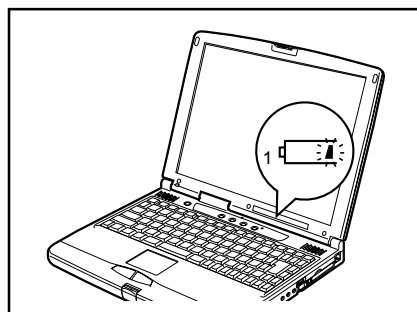
- ・ 周囲の温度が低いときは、周囲の温度が高いときに比べて充電と放電の能力が低くなるため、バッテリーの稼働時間が短くなります。
- ・ バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリーの稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。「内蔵バッテリーパックを交換する」(P.71)

## 残量を確認する

バッテリーの残量がなくなると、作業中のデータが保存できなくなることがあります。本パソコンをバッテリーで使っているときは、状態表示LCDでバッテリー残量を確認してください。

### バッテリー残量表示

バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示LCDで確認できます。バッテリー残量表示は、充電をするタイミングの目安になります。



3

電源と節電機能を賢く使おう（バッテリーで使う）

### アドバイス

バッテリー装着表示の左の数字について

バッテリー装着表示（）の「1」は、パソコン本体の内蔵バッテリーパックを示しています。

バッテリー充電表示（状態表示LCDのの<sup>\*</sup>）について

バッテリーが充電中であることを示しています。充電が完了すると矢印は消えます。


### 重要

#### バッテリー残量表示について

状態表示LCDに表示されるバッテリー残量表示は、バッテリー（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充電回数など）により、実際のバッテリー残量と異なる表示をする場合があります。

- |   |                    |
|---|--------------------|
|   | 約 100 ~ 76%        |
| ↓ |                    |
|   | 約 75 ~ 51%         |
| ↓ |                    |
|   | 約 50 ~ 26%         |
| ↓ |                    |
|   | 約 25 ~ 13%         |
| ↓ |                    |
|   | 約 12%以下            |
| ↓ |                    |
|   | バッテリー切れ状態（充電残量 0%） |
- すぐに充電してください。  
「充電する」(P.66)
- バッテリー残量表示が点滅し、警告音が鳴ります。しばらくするとバッテリーの残量がなくなります。  
この状態になったときは、すぐにサスペンド（一時停止）してください。  
「LOW バッテリー状態」(P.70)

## バッテリーの異常表示


バッテリーが正しく充電されないときは、 (バッテリー残量表示) が点滅します。バッテリーを取り付け直してください。

取り付け直しても表示される場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーに交換してください。

「内蔵バッテリーパックを交換する」( ←P.71 )

ロウ

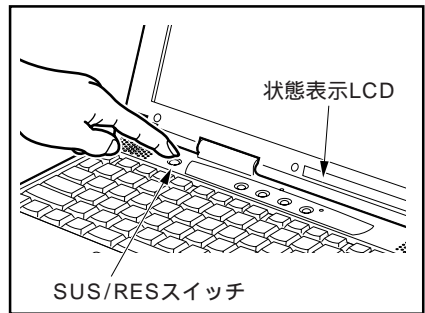
## LOW バッテリー状態

バッテリーの残量が約12%以下の状態を「LOW バッテリー状態」といいます。この状態になると、状態表示LCDのバッテリー残量表示が点滅()し、警告音が鳴ります。このままにしておくと、バッテリーが切れて、作業中のデータが保存できなくなることがあります。LOW バッテリー状態になったときは、必ず以下の操作をしてください。

### 1 SUS/RES スイッチを押します。

しばらくすると状態表示LCDに①が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消え、サスペンドします。

「サスペンド機能を使う」( ←P.74 )



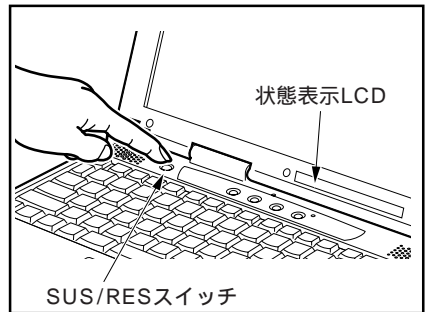
### 2 AC アダプタを取り付けます。

「AC アダプタを取り付ける」( ←P.64 )

AC アダプタを取り付けると、充電が始まります。

### 3 SUS/RES スイッチを押します。

状態表示LCDの①が点滅から点灯になり、しばらくすると画面が表示され、パソコンがレジュームし(サスペンドする前の状態に戻り)ます。



## 重要

### LOW バッテリー状態になったときの注意

- ・ LOW バッテリー状態のまま放置すると、自動的にサスペンドします。ただし、ハードディスクなどヘデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでサスペンドしません。バッテリーの残量にご注意ください。
- ・ LOW バッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを取り付けてください。

「AC アダプタを取り付ける」( ←P.64 )

## アドバイス

次の場合は警告音が聞こえません

- ・ スピーカーをOFFにしているとき
- ・ **[Fn]** を押しながら **[E3]** を押し、スピーカーのONとOFFが切り替わります。ピーと音がした場合はスピーカーがON、音がしない場合はスピーカーがOFFになります。
- ・ 音量ボリュームを小さくしているとき



## 気をつけてください~バッテリーを使うとき

### 自然放電します

- ・ 長期間（約1ヵ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
- ・ バッテリーは、本パソコンに取り付けたままご使用にならなくても少しずつ自然放電していきます。バッテリーは使う直前に充電することをお勧めします。

### 消耗品です

バッテリーは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下します。バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。

また、パソコンを長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度は、パソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。

## 内蔵バッテリーパックを交換する

バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。新しいバッテリーは、内蔵バッテリーパック（FMVNBP104）をお買い求めください。

型名 : FMVNBP104

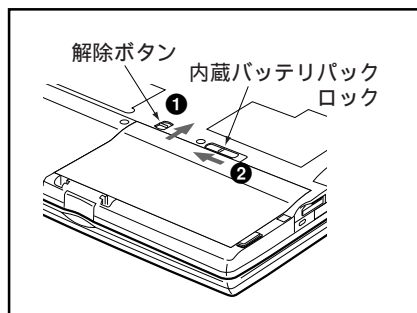
（ご購入元にお問い合わせください）



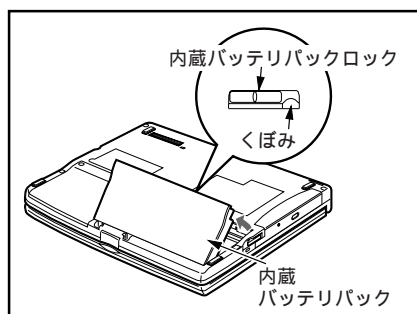
- ・ 内蔵バッテリーパックの取り付けや取り外しを行う場合は、本体の端子に触れないでください。感電、故障の原因となります。
- ・ 内蔵バッテリーパックの取り付けや取り外しを行うときは、誤って落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーパックはお使いにならないでください。感電や火災、破裂の原因となります。

- 1 **パソコン本体の電源を切ります。**  
「今日はおしまい。電源を切るには？」（☞P.62）
- 2 **オプション機器の電源を切り、取り外します。**
- 3 **ACアダプタを取り外します。**  
「ACアダプタを取り外す」（☞P.65）
- 4 **液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。**

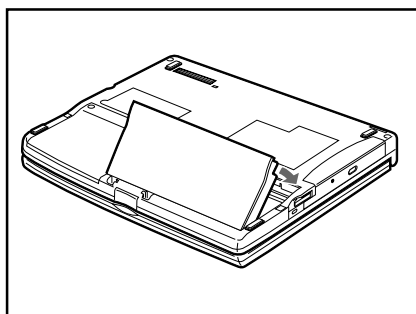
- 5 解除ボタンをスライドさせたまま  
(①)、内蔵バッテリーバック  
ロックをスライドします(②)。



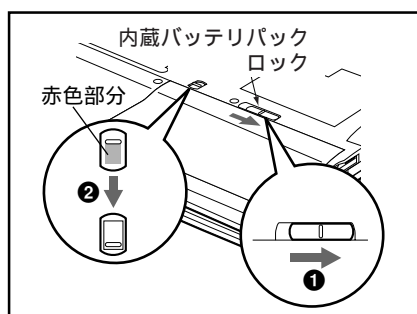
- 6 内蔵バッテリーパックを取り外しま  
す。  
内蔵バッテリーバックロックをスライド  
してできたくぼみに指をかけて手前に  
持ち上げてください。



- 7 新しい内蔵バッテリーパックを取り  
付けます。  
斜め上から差し込み、しっかりと押し  
込んでください。



- 8 内蔵バッテリーバックロックをカ  
チッと音がするまでスライドしま  
す。  
① 内蔵バッテリーバックロックを右端ま  
でスライドさせます。  
② 解除ボタンの赤色部分が見えなくな  
ったことを確認します。



## 4

## 節電する

パソコンを使っている途中でひと休みするときは、パソコンも休ませて節電しましょう。本パソコンには、パソコンの動作を停止させて節電するための、「サスペンド機能」と「Save To Disk 機能」があります。

ここでは以下のことを説明します。

- ・ サスペンド機能と Save To Disk 機能 ➡P.73
- ・ サスペンド機能を使う ➡P.74
- ・ Save To Disk 機能を使う ➡P.77

### セーブ トゥ ディスク サスペンド機能と Save To Disk 機能

サスペンド機能とは、作業している状態をメモリに保存し、パソコンの動作を一時停止させる機能です。

Save To Disk 機能とは、自動的に作業状態をハードディスクに保存したあと、パソコン本体の電源を切る機能です。

これらの機能を利用すると、アプリケーション使用中でも、本パソコンを一時停止したり電源を切ったりして節電することができます。

サスペンド機能と Save To Disk 機能の違いは以下のとおりです。

	サスペンド機能	Save To Disk機能
作業状態の保存場所	メモリ	ハードディスク
電源の状態	節電状態 (メモリの内容を維持するためだけの電力を消費する)	電源を切っている状態 (電力を消費しない)

#### 重要

LANカードなどのPCカードをお使いのときや、モデムで通信をしているときの注意

LANカードを使ってネットワークに接続しているときなど、PCカードをセットしているときおよび、モデムで通信をしているときは、サスペンド機能や Save To Disk 機能が使えないことがあります。PCカードをお使いのときに作業を中断する場合は、PCカードのマニュアルをご覧ください。

## サスペンド機能を使う

サスペンド機能を使うと、パソコンの動作を一時停止し、作業を中断できます。中断した作業を再開すると、サスペンド機能を使う前の状態に戻ります。

### 重要

#### サスペンドが可能な時間

新品のバッテリーを満充電にした状態で、約 1 日サスペンドできます。

#### サスペンドが可能な時間が短くなる時

「PMSet98」で、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」を  に設定している場合（ご購入時は  ）は、サスペンドが可能な時間が短くなることがあります。

「節電の設定を変更する」（☛ P.79）

#### サスペンドについての注意

- ・ ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PCカード利用中は、それらの作業を完了または中断してからサスペンドしてください。
- ・ サスペンド中は、MAINスイッチを 側へスライドしないでください。作業中のデータがすべて失われてしまいます。
- ・ サスペンドしているときにバッテリーが切れると、作業中のデータはすべて失われてしまいます。バッテリーでパソコンを使っているときにサスペンドする場合は、バッテリー残量に十分注意してください。長い時間サスペンドするときは、ACアダプタを取り付けることをお勧めします。
- ・ Windows98 が起動するまでの間は、サスペンドしない場合があります。

セットすると自動で始まる CD を使用しているときは、サスペンドしないでください

セットすると自動で始まる CD を使用しているときにサスペンドすると、レジューム時に CD が二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CD のアプリケーションを一度すべて終了し、CD をセットし直してください。



#### オプション機器を接続しているとき

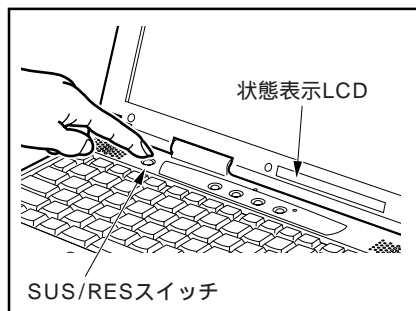
ドライバのインストールが必要なオプション機器を接続しているときは、ドライバのインストールが終了するまでサスペンド機能を使わないでください。

## 作業を中断する（サスペンド機能）

サスペンドするには、SUS/RESスイッチ（←P.3）を使う方法や、液晶ディスプレイを閉じる方法などがあります。

### SUS/RESスイッチを使う

- 1 状態表示LCDにやが表示されていないことを確認し、SUS/RESスイッチを押します。  
しばらくすると状態表示LCDに①が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消えます。



### 重要

SUS/RESスイッチは4秒以上押さないでください

SUS/RESスイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

### アドバイス

液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンドしないようにするには

BIOSセットアップの「省電力」メニューの「詳細設定」で、「カバークローズサスペンド」を「使用しない」に設定してください（ご購入時は「使用する」）。

「BIOSセットアップの操作のしかた」（←P.119）

サスペンドの別の操作方法



「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックして表示される「Windowsの終了」ウィンドウで、「スタンバイ」をクリックしても、サスペンドすることができます。

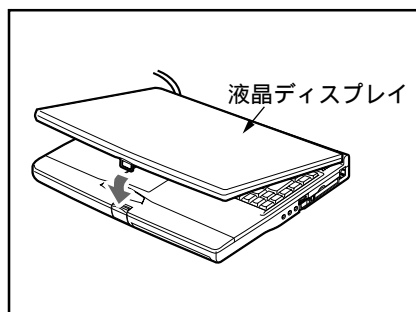
### 液晶ディスプレイを閉じる

### 重要

液晶ディスプレイを閉じてサスペンドするときの注意

Windows98の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

- 1 状態表示LCDにやが表示されていないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。



## 中断した作業を再開する

一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。レジュームするには、SUS/RESスイッチ(☞P.3)を使う方法や液晶ディスプレイを開く方法などがあります。

### 重要

#### レジュームするときの注意

サスペンドした直後にレジュームしないでください。レジュームするときは、10秒ほど待ってください。

### 液晶ディスプレイを開いているとき

1 状態表示LCDに①が点滅していることを確認します。

2 SUS/RESスイッチを押します。  
状態表示LCDの①が点滅から点灯に変わり、しばらくすると中断する前の画面が表示されます。



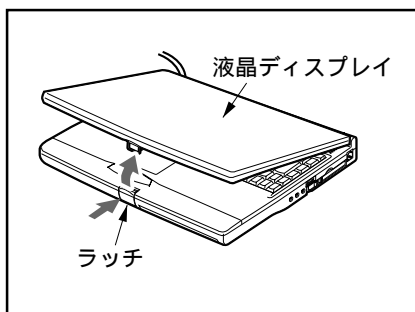
### 重要

#### SUS/RESスイッチは4秒以上押さないでください

SUS/RESスイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

### 液晶ディスプレイを閉じているとき

1 液晶ディスプレイを開きます。  
状態表示LCDの①が点滅から点灯に変わり、しばらくすると中断する前の画面が表示されます。



### アドバイス

#### レジューム時の画面の乱れについて

レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。あらかじめご了承ください。

#### レジューム後にキーボードが使用できないとき

BIOSセットアップの「セキュリティ」メニュー(☞P.126)で、「起動時のパスワード」と「レジューム時のパスワード」を「使用する」に設定していると、レジューム後はフラットポイント(マウス)と、パスワードを入力する以外のキーボード操作ができません(状態表示LCDの②、③が一定時間交互に表示されます)。

この場合は、起動時のパスワードを入力してください。キーボードとフラットポイント(マウス)が使用できるようになります。

#### レジュームしないとき

SUS/RESスイッチを押してもレジュームしないときは、MAINスイッチが側にスライドされていないかを確認してください。

## Save To Disk 機能を使う




Save To Disk 機能を使うと、作業中の状態をハードディスクに保存して、作業を中断できます。中断しているあいだは、電源が切れているので、電力を消費しません。中断した作業を再開すると、中断する前の作業状態に戻ります。

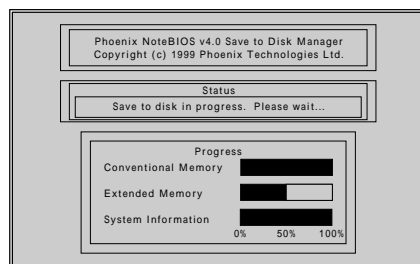
### 重要

オプション機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うとき

PC カードやプリンタなどの機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うと、作業を再開するときに機器に対する初期化が行われます。そのため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

### 作業を中断する (Save To Disk 機能)

- 1 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。
- 2  を押しながら、SUS/RES スイッチを押します。



ハードディスクへの保存状態が画面に表示され、しばらくすると、電源が切れます。このあと、MAIN スイッチを 側にスライドできます。

### 中断した作業を再開する

一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。

### 重要

レジュームするときの注意

Save To Disk 機能で作業を中断した直後にレジュームしないでください。レジュームするときは 10 秒ほど待ってください。

### アドバイス

SUS/RES スイッチを押すだけで Save To Disk 機能を使いたいとき

BIOS セットアップの「省電力」メニューで、「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定してください。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(P.119)

Save To Disk 機能が働かないとき

Save To Disk 領域が削除されている可能性があります。Save To Disk 領域を作成し直してください。

「Save To Disk 領域」(P.149)

本パソコンご購入時は、Save To Disk 領域が作成されています。



## アドバイス

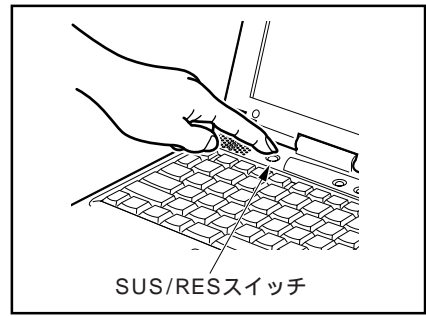
MAINスイッチを側面にスライドしていたとき

Save To Disk機能を使って作業を中断したあと、MAINスイッチを側面へスライドしていた場合は、|側にスライドするとレジュームします。

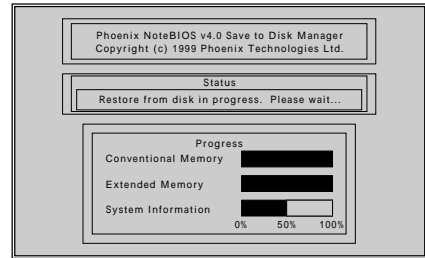
レジューム時の画面表示の乱れについて

レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。あらかじめご了承ください。

## 1 SUS/RESスイッチを押します。



保存された作業状態をハードディスクから呼び出している様子が、画面に表示されます。しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。



## 節電機能について

コラム

### 節電の設定

フラットポイント(マウス)や、キーボードの操作をしないまま一定時間が過ぎると、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。本パソコンご購入時は、バッテリーで使っているときに節電機能が働くように設定されています。

Windows98の「電源の管理」で、節電の設定を変更できます。ACアダプタで使うときに節電したり、節電機能を使わないようにすることもできます。

なお、通常お使いになるうえで、節電の設定を変更する必要はありません。「節電の設定を変更する」(P.79)

### 本パソコンの動作状態がわからないとき

パソコンを使おうとしたときに、パソコンが一時停止状態なのか、終了している状態なのか迷ったときは、次の順番で確認してください。画面が表示されたら、それ以降は、操作する必要はありません。




- 1 フラットポイントに触れる。
- 2 スペースキーを押す。
- 3 SUS/RESスイッチを押す。
- 4 MAINスイッチが側面にスライドされているときは、|側へスライドする。間違えてMAINスイッチをスライドして、前回の作業状態が消えてしまった...などということがないように、気をつけてください。



## 節電の設定を変更する

本パソコンは、電源やパソコンの状況に合わせて適切に節電されるように設定されています。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・ご購入時の節電の設定  P.79
- ・「電源の管理」で設定を変更する  P.79
- ・「PMSet98」で設定を変更する  P.80


 **アドバイス**

サスペンドするまでの時間を変更するには


「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で、時間を変更してください。


BIOS セットアップの「省電力」メニューとの関係

節電方法をさらに細かく設定したいときは、BIOS セットアップの「省電力」メニューの項目も設定してください。

「省電力メニュー」  
( P.128)

バッテリーの残量が12%以下になったとき

バッテリーの残量が約12%以下の状態を、「LOWバッテリー状態」といいます。この状態になると、「アラーム」タブでの設定に関わりなく、バッテリー残量表示(状態表示LCDの)が点滅し、警告音が鳴ります。

「LOWバッテリー状態」  
( P.70)

Windows98のヘルプで関連する項目を探するには

「スタート」ボタンをクリックし、「ヘルプ」をクリックすると、「Windowsのヘルプ」ウィンドウが表示されます。「電源」などのキーワードを入力して検索してください。


### ご購入時の節電の設定

本パソコンご購入時には、バッテリーで使うときに節電されるように設定されています。節電の設定は、通常お使いになる上では、変更する必要はありません。変更する場合は、Windows98の「電源の管理」または「PMSet98」を使います。

### 「電源の管理」で設定を変更する

節電機能が働くまでの時間を変更するときは、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで設定します。

#### 「電源の管理のプロパティ」ウィンドウを表示する

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (電源の管理) をクリックします。  
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

#### 設定を変更する

節電機能が働くまでの時間設定は、「電源設定」タブで変更します。

バッテリーの残量が少なくなったときにWindows98が出す警告の設定は、「アラーム」タブで変更します。

変更のしかたや設定項目について詳しくは、Windows98のヘルプをご覧ください。

## 「PMSet98」で設定を変更する







「PMSet98」には、現在の設定内容が表示される「PMSet98のプロパティ」ウィンドウと、電源の状態が表示される「インジケータ」があります。

### 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示する

#### 1 タスクバーのまたはをダブルクリックします。

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウが表示されます。



- ・タスクバーにまたはが表示されていないとき  
「PMSet98」が起動していません。「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」, 「PMSet98」の順にマウスポインタを合わせ、「1.PMSet98」をクリックします。
- ・が点滅しているとき  
バッテリーの充電中は、タスクバーのが点滅しています。
- ・「PMSet98」を終了するには  
「PMSet98」は、Windows 98 を起動するたびに自動的に起動します。  
「PMSet98」を使用しないときは、タスクバーのまたはを右クリックし、「終了」をクリックします。

## アドバイス

### 表示位置について

- ・インジケータと他のウィンドウが重なったときは、インジケータが常に前面に表示されます。
- ・インジケータの位置を固定していると、他のウィンドウの操作ができないことがあります。
- ・「自由位置 [ドラッグして位置決め]」にすると、好きな位置に表示できます。
- ・「種類」の右の▼をクリックすると、インジケータの種類を選べます。

### 電源の状態が表示されないとき

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウの「インジケータ」タブで、「電源の状態を表示する」をクリックしてをにします。

### インジケータを表示する

インジケータには、バッテリー残量や電源の状態が表示されます。

- 1 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示します。
- 2 「インジケータ」タブをクリックします。
- 3 「インジケータを表示する」をクリックしてをにします。
- 4 「表示位置」の右の▼をクリックし、一覧から表示する位置をクリックします。
- 5 「OK」をクリックします。  
インジケータが表示されます。

電源の状態によって、表示されるインジケータは異なります。

: ACアダプタ接続時

: バッテリーで使用時

## アドバイス

キーボードでも設定  
できます

**[Fn]** を押しながら **[F6]** およ  
び **[F7]** を押しても、LCD  
バックライトの明るさを  
変更できます。

「液晶ディスプレイの明る  
さを変更する」(☛P.55)

「CPUクロック」に  
ついて

本パソコンでは、この項目  
は設定できません。

## アドバイス

BIOS セットアップ  
の「省電力」メニュー  
との関係

BIOS セットアップの「省  
電力」メニューの「モデム  
着信によるレジューム」  
(☛P.129)でも設定を  
変更できます。

「PMSet98」で設定を  
変更すると、BIOS セット  
アップの設定も変更され  
ます。

レジュームするよう  
に設定しているとき

- ・ **[Fn]** を押しながら、  
SUS/RESスイッチを押し  
てSave To Disk機能  
を使っているときは、電  
話がかかってきてもレ  
ジュームしません。  
「Save To Disk 機能を使  
う」(☛P.77)
- ・ BIOS セットアップの  
「省電力」メニューで、  
「サスペンド動作」  
(☛P.128)などを「Save  
To Disk」に設定してい  
ても、サスペンドにな  
りません。
- ・ サスペンド中でもモデ  
ムを動作させておくた  
め、サスペンド中の電  
力消費が大きくなりま  
す。ACアダプタを接  
続してお使いになる  
ことをお勧めしま  
す。

## 設定を変更する

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウで設定できる項目について説明します。

### LCD バックライト

液晶ディスプレイのバックライトを省電力モードにして、節電するかどうかを設定しま  
す。

「電源依存」タブの「LCDバックライト」で、ACアダプタで使っているときとバッテリ  
で使っているときを、別々に設定できます。明るさは8段階に設定でき、「暗」に近づけ  
るほど節電できます。

設定を変更したときは、「適用」または「OK」をクリックしてください。

### 電話がかかってきたらレジュームする

「その他」タブの「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」をクリックして  を  
 にし、「適用」または「OK」をクリックします。

サスペンド中に電話回線からモデムに着信したとき、レジュームする(サスペンドする  
前に戻す)ようになります。ただし、USBコネクタに接続した携帯電話やPHSからの  
着信ではレジュームしません。



## 第 4 章

# オプション機器を活用しよう！

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、取り付けられるオプション機器の例を紹介し、取り付け方法や設定作業などについて説明しています。

1. オプション機器について .....	84
2. プリンタを接続する .....	87
3. メモリを増やす .....	90
4. マウス/テンキーボードを接続する .....	94
5. PC カードをセットする .....	95
6. 携帯電話や PHS を接続する .....	99
7. 外部ディスプレイを接続する .....	106
8. その他のオプション機器を使う .....	115



# 1

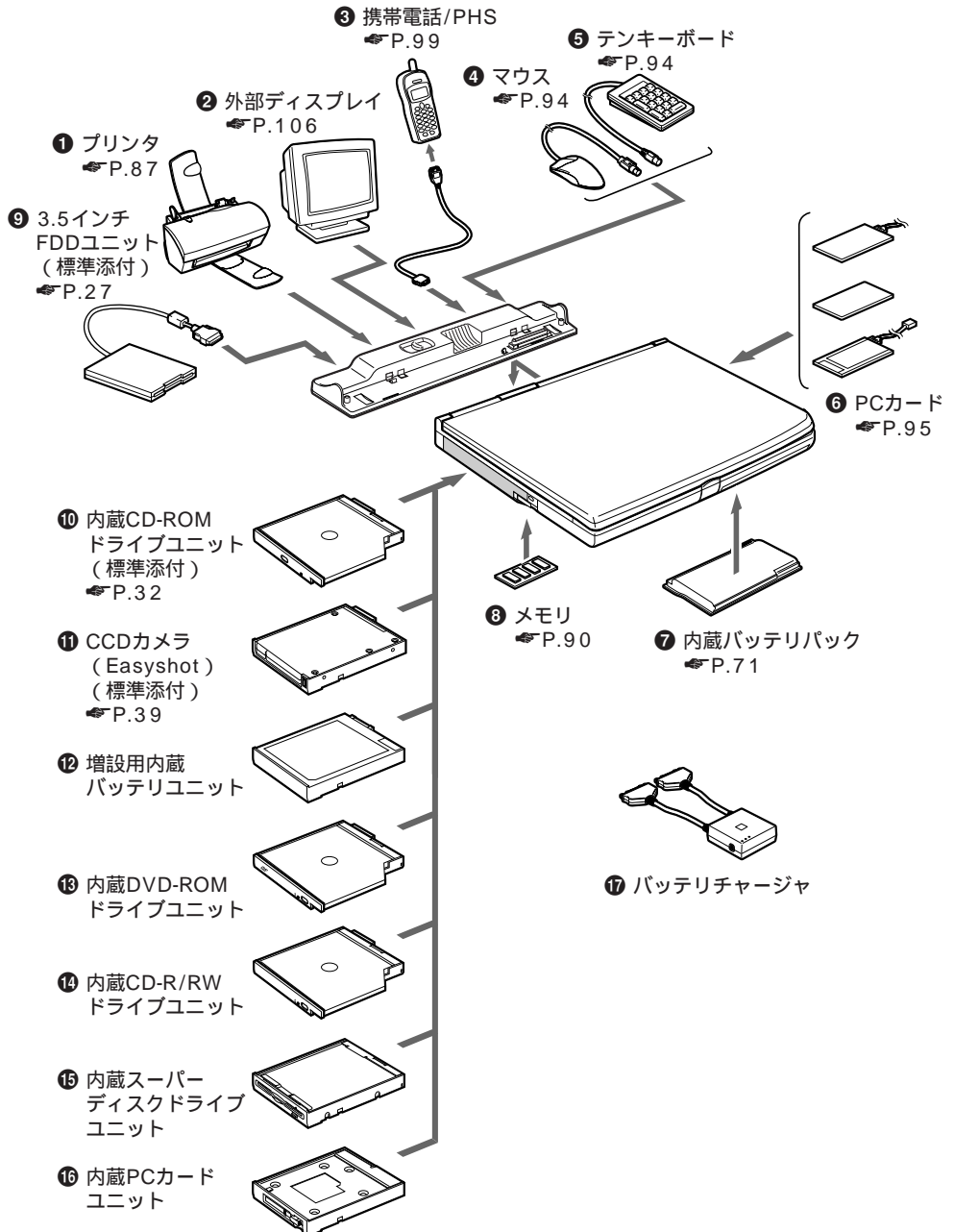
## オプション機器について

ここでは以下のことを説明します。

- ・オプション機器の紹介 ←P.84
- ・オプション機器の接続にあたって ←P.86

### オプション機器の紹介

本パソコンのオプション機器には、次のようなものがあります。接続のしかたなどについて詳しくは、各機器の参照先および各機器のマニュアルをご覧ください。





## アドバイス

### 取り付けられるその他のオプション機器

- ・ 外径 3.5mm のミニプラグをもつオーディオ機器  
マイクやアンプ内蔵スピーカー、ヘッドホンなどを、本体右側面のジャックに接続できます。
- ・ SCSI 規格対応の機器  
PC カードスロットに SCSI カードをセットすることで、SCSI 規格に対応した外付けハードディスクや MO (光磁気ディスク) ドライブなどを、接続できます。
- ・ RS-232C 規格対応の機器  
RS-232C 規格に対応した機器 (デジタルカメラなど) を、コネクタボックスのシリアルコネクタに接続できます。
- ・ USB 規格対応の機器  
USB 規格に対応した機器 (マウスやキーボードなど) を、パソコン本体背面またはコネクタボックスの USB コネクタに接続できます。

- 1 プリンタ  
パソコンで作った文書や画像などを印刷できます。
- 2 外部ディスプレイ  
液晶ディスプレイよりも高解像度で表示できます。
- 3 携帯電話 / PHS ピーエイチエス  
携帯電話または PHS を利用して、インターネットやパソコン通信ができます。  
本パソコンには携帯電話接続用 USB ケーブルが標準添付です。
- 4 マウス  
マウスポインタの操作をマウスで行うことができます。
- 5 テンキーボード  
数字を効率良く入力できます。
- 6 PC カード ピーシー  
パソコンにさまざまな機能を追加できます。
- 7 内蔵バッテリーパック  
本パソコンの内蔵バッテリーパックと交換して使うことができます。
- 8 メモリ  
より大きなデータを扱えるようになり、パソコンの処理が快適になります。
- 9 3.5 インチ FDD ユニット (標準添付)  
プログラムやデータをフロッピーディスクに保存することができます。
- 10 内蔵 CD-ROM ドライブユニット (標準添付)  
音楽 CD やビデオ CD を再生したり、CD-ROM を使用することができます。
- 11 CCD カメラ (Easysshot) (標準添付)  
デジタル写真やデジタルビデオ映像を撮ることができます。
- 12 増設用内蔵バッテリーユニット  
バッテリーでの稼働時間を延ばすことができます。
- 13 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット ディーブイディーロム  
DVD-ROM や CD-ROM の映像や音声を再生できます。
- 14 内蔵 CD-R/RW ドライブユニット シーディーアールアールダブリュ  
オリジナル CD の作成ができます。また、書き換え可能な CD-RW が使用できます。
- 15 内蔵スーパーディスクドライブユニット  
フロッピーディスクと、より多くのデータを保存できるスーパーディスクを使えます。
- 16 内蔵 PC カードユニット  
PC カードスロットを 1 つ追加することができます。
- 17 バッテリーチャージャ  
パソコン本体を使わずに、添付の内蔵バッテリーや増設用内蔵バッテリーユニットを充電することができます。

## オプション機器の接続にあたって

### 用語

#### ドライバ

パソコンに取り付ける機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、パソコンとオプション機器との間を仲介します。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、機器が理解できるように翻訳するのがドライバの役目です。

ドライバは、それぞれの機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどの機器には、ドライバがフロッピーディスクなどで添付されています。

#### インストール

ソフトウェアをパソコンのハードディスクにコピーして、使える状態にすることです。

ここでは別売のオプション機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

### 本パソコンは「PC/AT 互換機」です

パソコンにはさまざまな種類のものがあります。本パソコンは、「PC/AT 互換機」です。また、通称で「DOS/V<sup>ドス ヴィ</sup>パソコン」と呼ばれることもあります。本書では、オプション機器の接続について、PC/AT 互換機の特徴に沿って説明しています。

### オプション機器によっては設定作業が必要です

パソコンのオプション機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらぬ機器もあります。オプション機器の接続は、本書をよくご覧になり、正しく行ってください。

### オプション機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明しているオプション機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせてオプション機器のマニュアルも必ずご覧ください。

### ケーブルは専用です

オプション機器を接続するケーブルは、プリンタには「プリンタケーブル」というように、オプション機器によって専用のケーブルが用意されています。また、パソコンの規格によっても、使えるケーブルの種類が決まっています。本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」などと表示されたものです。形状が同じでつながるように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合もあります。よく確かめてご用意ください。

### 純正品をお使いください

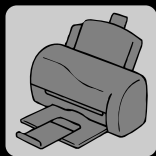
オプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。オプション機器については、販売店にお問い合わせになるか、FAX 情報サービスをご利用ください。他社製品につきましても、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいようお願いいたします。

### 取り付け / 取り外し時の注意

オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、次の点に注意してください。

- 作業を行う前に、パソコン本体および取り付けられている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- PS/2 規格のマウス以外のオプション機器の取り付けは、Windows 98 のセットアップ終了後に行ってください。Windows 98 のセットアップを行う前に取り付けたと、セットアップが正常に行われぬおそれがあります。
- 電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。内蔵機器の取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。





# 2

オプション機器を活用しよう！

## プリンタを接続する

プリンタを接続すると、パソコンで作った文書や画像などを、印刷することができます。ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する ←P.87
- ・プリンタを接続する ←P.87

### 必要なものを用意する

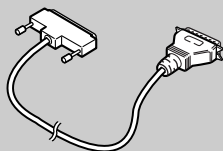


**感電** プリンタは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

プリンタによって、用意するものが異なります。プリンタのマニュアルもご覧ください。

プリンタ	Windows98で動作可能なプリンタを用意してください。
プリンタのドライバ	プリンタによっては、CDやフロッピーディスクで添付されています。フロッピーディスクが数種類あるときは、「Windows98用」、「PC/AT互換機用」、「DOS/V用」などと表示されたものをお使いください。
プリンタケーブル	プリンタとパソコンを接続するケーブルです。添付されていない場合は、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」などと表示されているもので、パソコン側のコネクタをネジで固定する形のケーブルを用意してください。
プリンタのマニュアル	プリンタにより接続方法や設定方法が異なります。必ずプリンタのマニュアルもご覧ください。CDで見るマニュアルもあります。

### アドバイス プリンタケーブル



4

オプション機器を活用しよう！（プリンタを接続する）

### プリンタを接続する

プリンタは、コネクタボックスに接続します。



**感電** プリンタの接続や取り外しを行うときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電、火災または故障の原因となります。



**故障** ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

**重要**

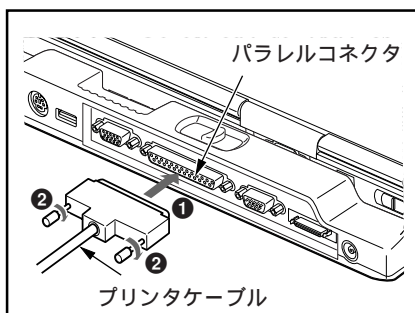
プリンタの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われな  
いおそれがあります。

プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご  
覧ください。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。**  
「今日はおしまい。電源を切るには?」(P.62)をご覧ください、MAINスイッチを  
切って(側にスライドして)ください。
- 2 オプション機器の電源を切り、取り外します。**
- 3 ACアダプタを取り外します。**  
「ACアダプタを取り外す」(P.65)
- 4 コネクタボックスを取り付けます。**  
「コネクタボックスを取り付ける」(P.22)
- 5 コネクタボックスの平行コネクタに、プリンタケーブルを接続  
します。**  
コネクタは、正面から見ると台形に  
なっています。
  - コネクタの形を互いに合わせ、しっ  
かりと差し込んでください。
  - プリンタケーブルの左右のネジをし  
めて固定してください。
- 6 プリンタに、プリンタケーブルを接続します。**  
接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 7 プリンタに電源ケーブルを接続します。**  
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。プリンタのマニュアルを  
ご覧ください。
- 8 プリンタの電源ケーブルのプラグを、コンセントに差し込みます。**
- 9 初めて接続したプリンタを使うには、ドライバのインストールという設定作  
業を行います。**  
プリンタのマニュアルをご覧ください、必ずドライバのインストールを行ってください。  
ドライバのインストールでフロッピーディスクやCDを使うことがあります。  
「フロッピーディスクをセットする/取り出す」(P.30)  
「CDをセットする/取り出す」(P.33)





## アドバイス

メッセージが表示されたとき

「Windows98 Second Edition CD-ROM ラベルの付いたディスクを挿入して「OK」をクリックしてください」というメッセージが表示されることがあります。その場合は、「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで

「c:\windows\options\cabs」と入力して「OK」をクリックしてください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

プリンタを取り外すとき

- ・パソコンとプリンタの電源を切り、ケーブルを取り外してください。
- ・もう一度同じプリンタを取り付けるときは、ドライバのインストールを行う必要はありません。

## 印刷方法

各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

ご購入時のCD-ROMドライブはEです

CDからプリンタのドライバをインストールする場合、CD-ROMドライブ名を指定するときは、「e:」と入力してください。

## プリンタドライバをインストールするときの注意

プリンタのマニュアルに、「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されている場合、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは次のように操作してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「プリンタ」ウィンドウで「プリンタの追加」をクリックします。  
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従ってドライバをインストールします。



## アドバイス

弊社製 FMLBP シリーズのプリンタを接続したとき

FMLBP シリーズのプリンタを接続したときに、プリンタ側とパソコン側のモードが合っていないために、印刷が正常に行われないことがあります。その場合は以下の手順でモードを変更してください。

- 1 プリンタの操作パネルなどで、現在のプリンタのモードを調べます。  
操作パネルについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。  
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 接続したプリンタのアイコンをクリックします。
- 4 「プリンタ」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 5 「現在のモード」をクリックします。
- 6 プリンタ側のモードと同じモードを選びます。  
プリンタ側のモードがESC/P モードの場合は、「ESC/P モード」をクリックします。  
プリンタ側のモードがFM モードの場合は、「FM モード」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

弊社製プリンタ「XJ-350 / XJ-550」をお使いのとき

・本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。  
そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。

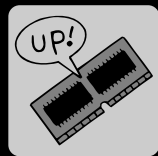
XJ-350 : V1.0L10    XJ-550 : V1.0L10 (2000年1月現在)

・プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。

- @nifty 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」  
(GO FMINFO でアクセスできます)
- インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」  
(<http://www.fmworld.ne.jp>)

・最新版のドライバのインストールは、次の手順で行ってください。

- 1 プリンタの電源を切ります。
- 2 古いバージョンのドライバを削除します。  
削除のしかたは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 3 本パソコンを再起動します。
- 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。
- 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。  
本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。  
インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



# 3

## メモリを増やす

### 用語

#### メモリ

記憶装置の総称です。ここでいうメモリは、CPUが処理するデータを一時的にためておく記憶装置です。

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになります。また、複数のアプリケーションを同時に起動するときパソコンの処理が快適になります。

本パソコンのご購入時に取り付けられているメモリの容量は64MBです。メモリを交換することで、最大256MBまで増やすことができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する ← P.90
- ・メモリを交換する ← P.90

### 必要なものを用意する



**感電** メモリは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電・火災または故障の原因となります。

メモリ<sup>ラム</sup>  
(拡張RAMモジュール)

FMVNM12SD (128MB)、FMVNM25SD (256MB)のメモリのうち、1枚取り付けられます。  
(FMVNM25SDは本パソコン専用のメモリです)

プラスのドライバー  
(ドライバーサイズ：1番)

本パソコンのネジを取り外すときに使います。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったものをお使いください。

### メモリを交換する



**感電** メモリを交換するときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



**誤飲** 取り外したカバー、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



**けが** メモリを交換するときは、指定された場所以外のネジは取り外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また故障の原因となることがあります。



**故障** メモリを交換するときは、端子やICなどには触れないよう、ふちを持ってください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

## 重要

### メモリを増やす

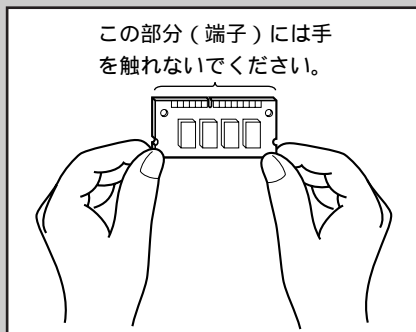
お買い求めのときに本パソコンに取り付けられているメモリは、64MBの拡張RAMモジュールです。メモリを交換するときは、取り付けられている64MBの拡張RAMモジュールを取り外し、128MBまたは256MBの拡張RAMモジュールを取り付けてください。

メモリの交換は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に交換すると、セットアップが正常に行われずにおそれがあります。

### 交換するときの注意

- ・メモリは静電気に対して非常に弱い部品でできています。そのため人間の体内にたまった静電気によって壊れる場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。
- ・メモリを取り扱うときは、右図のようにふちを持ってください。また、メモリを交換するときは、メモリの端子やパソコン本体内部の端子には絶対に触れないでください。
- ・メモリを交換するときに外したネジは、パソコン本体内部には絶対に落とさないでください。



### Save To Disk 機能で電源を切らないでください

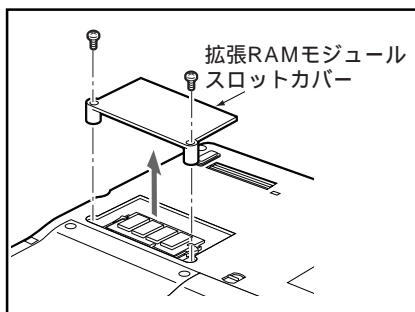
メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ず「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順で電源を切ってください。Save To Disk 機能で電源を切ると、作業中のデータが失われるおそれがあります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.62)

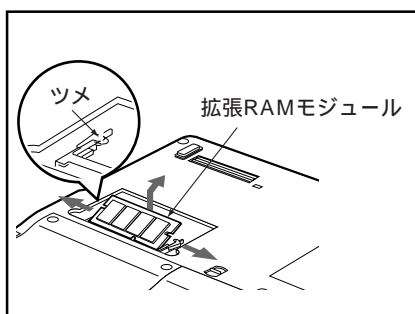
「Save To Disk 機能を使う」(☞P.77)

- 1 **パソコン本体の電源を切ります。**  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.62)をご覧ください、MAINスイッチを切って（側にスライドして）ください。
- 2 **オプション機器の電源を切り、取り外します。**
- 3 **ACアダプタを取り外します。**  
「ACアダプタを取り外す」(☞P.65)
- 4 **液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。**

- 5 ネジ(2カ所)を取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。

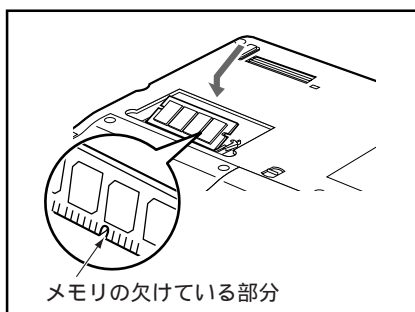


- 6 メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、メモリを取り外します。



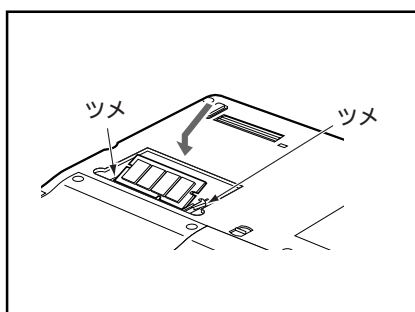
- 7 取り付けるメモリを斜めに差し込みます。

メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込んでください。

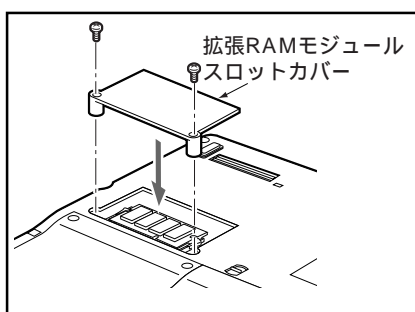


- 8 メモリをはめ込みます。

メモリが、両側のツメにはさみこまれてパチンと音がするまで下に倒してください。



- 9 手順5で取り外したネジで、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り付けます。



取り付けたメモリがパソコンで使える状態になっているかどうかを確認してください。  
「取り付けたメモリが使える状態が確認する」(P.93)


## 重要

### Windows98 が起動しないとき

メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、何も表示されないことがあります。その場合は、MAIN スイッチで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

## 取り付けたメモリが使える状態か確認する

メモリを交換後、取り付けたメモリが本パソコンで使える状態になっているかどうか確認してください。

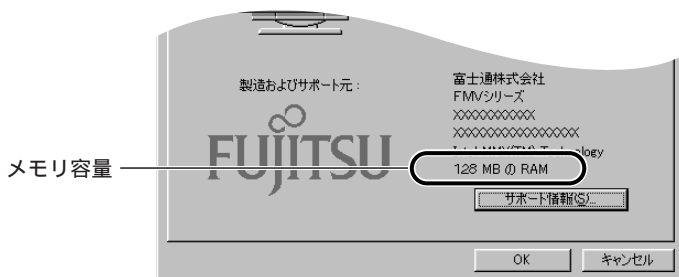
- 1 パソコン本体の電源を入れます。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(P.60)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3  (システム) をクリックします。  
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 で囲んだ部分の数値が、取り付けたメモリの容量になっているかどうかを確認します。

## アドバイス

数値が正しくないとき

メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。

「メモリを交換する」(P.90)



画面は、128MBのメモリを取り付けた例です。

お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。



# 4

オプション機器を活用しよう!

## マウス/テンキーボードを接続する

### アドバイス

#### マウスの練習

『わかるがるパソコン入門』で、実際の画面を使って、マウスの練習ができます。






#### 接続できるキーボード

拡張キーボードコネクタには、101キーボード、OADGキーボード、JISキーボード、親指シフトキーボードも接続できます。ただし、親指シフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムのOAK V5.0以降が必要です。

#### テンキーボードの傾きを調節できます

テンキーボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。

#### テンキーボードで数字を入力できるとき

状態表示LCDにが表示されているときにテンキーボードで数字を入力できます(パソコン本体のテンキーは無効になります)。状態表示LCDにが表示されていないときは、を押すか、テンキーボードのを押してください。状態表示LCDにが表示され、テンキーボードで数字を入力できるようになります。

マウスやテンキーボードは、パソコン本体背面またはコネクタボックスに接続できます。マウスを接続すると、より快適にマウスポインタの操作をすることができます。テンキーボードを接続して使うと、数字を効率よく入力できます。ここではPS/2規格のマウスやテンキーボードの接続方法を説明します。



**警告** 感電  
マウス、テンキーボードは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

### 重要

接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

ただし、PS/2規格のマウスは、セットアップ前に接続することができます。

#### マウスの接続についての注意

PS/2規格のマウスを接続すると、自動的にフラットポインタは使えなくなります。

マウスとフラットポインタを併用したいときはBIOSセットアップの「詳細」メニューの「キーボード/マウス設定」で、「内蔵ポインティングデバイス」(P.125)を「常に使用する」に設定してください。

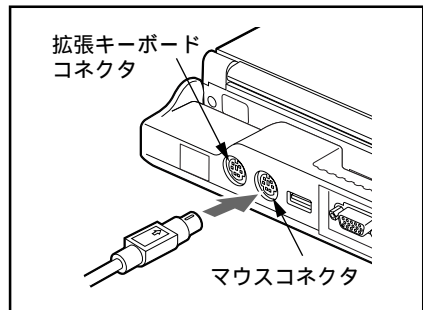
### 1 パソコン本体の電源を切ります。またはサスペンドします。

「今日はおしまい。電源を切るには?」(P.62)

「作業を中断する(サスペンド機能)」(P.75)

### 2 マウスまたはテンキーボードを、コネクタボックスのマウスコネクタまたは拡張キーボードコネクタに接続します。

マウスまたはテンキーボードのコネクタに示されている矢印を上向きにし、各コネクタの奥までしっかり差し込んでください。

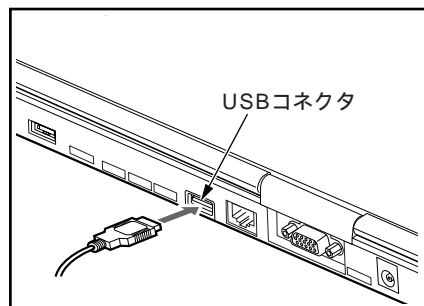


### アドバイス

#### USB マウス

本パソコンは、別売のUSBマウス(FMV-MO202L)を使用することができます。USBマウスの使用にあたっては以下の点に留意してください。

- ・パソコン本体の電源が入った状態で取り付け/取り外しを行えます。なお、取り付け時はコネクタをまっすぐ接続してください。
- ・ホットプラグ(P.124)が機能しないので、USBマウスを接続してもフラットポインタは無効になりません。
- ・MS-DOSモードではUSBマウスはお使いになれません。







# 5

オプション機器を活用しよう！

## ピーシー PCカードをセットする

### アドバイス

#### PCカードの種類

代表的なPCカードには、以下のようなものがあります。

- ・ スキャ SCSIカード  
SCSI規格対応のハードディスクやMO（光磁気ディスク）ドライブなどの機器を接続するときに必要なPCカードです。
- ・ ラン LANカード  
複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要なPCカードです。
- ・ デジタル携帯電話接続カード、PHS接続カード  
デジタル携帯電話やPHSを使って、インターネットやパソコン通信をするときに必要なPCカードです。

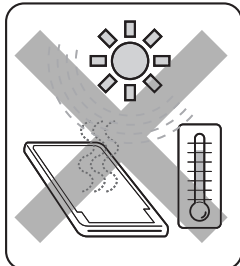
PCカードをセットすると、パソコンにさまざまな機能を追加できます。

ここでは以下のことを説明します。

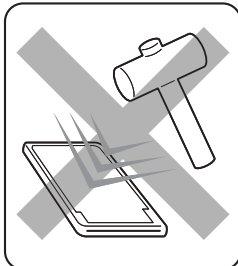
- ・ 気をつけてください～PCカードを使うとき ←P.95
- ・ 必要なものを用意する ←P.95
- ・ PCカードをセットする ←P.96
- ・ PCカードを取り出す ←P.97

### 気をつけてください～PCカードを使うとき

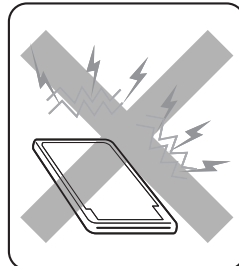
故障をふせぐため、PCカードを取り扱うときは、次の点に注意してください。



温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



強い衝撃を与えないでください。



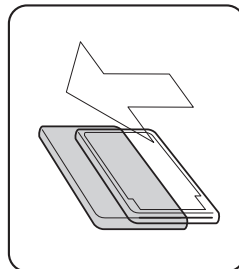
カードをこすったりして静電気を起こさないでください。



重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

### 必要なものを用意する



警告



感電

PCカードは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

### アドバイス

#### PCカードの厚さ

TYPE : 3mm  
TYPE : 5mm

#### PCカード

PC Card Standard に対応した TYPE と TYPE の PC カードが使えます。ただし、12V を使用する PC カードはサポートしていません。

#### PCカードのドライバ

PC カードによっては、CD や フロッピー ディスクで添付されています。

#### PCカードのマニュアル

PC カードにより設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。

# 4

オプション機器を活用しよう！(PCカードをセットする)

## PC カードをセットする



PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れしないでください。けがの原因となることがあります。

### 重要

PCカードのセットは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前にセットすると、セットアップが正常に行われな  
いおそれがあります。

#### PCカードをセットするときの注意

PCカードによっては、セットするときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあ  
ります。PCカードのマニュアルをご覧ください。

#### 初めてセットするPCカードの場合

PCカードに、フロッピーディスクやCDなどでドライバが添付されている場合は、ドラ  
イバのインストールが必要です。PCカードをセットする前に、FDDユニットや内蔵CD-  
ROMドライブユニットを接続してください。

「ユニットを交換する」(☞P.24)

「FDDユニットを取り付ける」(☞P.27)

### 1 PCカードスロットから、ダミーカードを取り出します。

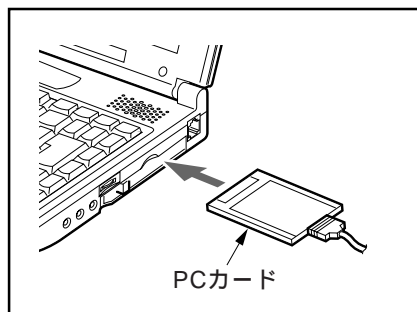
「PCカードを取り出す」の手順4～5(☞P.98)

取り出したダミーカードは、なくさないように保管してください。

### 2 PCカードをPCカードスロット にセットします。

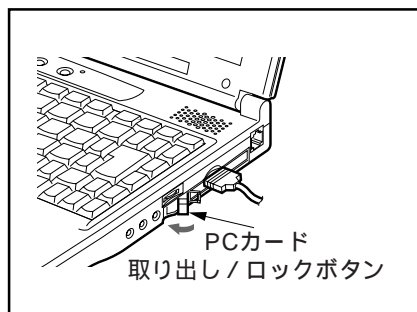
製品名のある面を上にして、PCカー  
ドスロットへ差し込みます。しっかり  
奥まで差し込んでください。

PCカード取り出し/ロックボタンが  
飛び出します。



### 3 PCカード取り出し/ロックボタ ンを手前に倒してロックします。

PCカード取り出し/ロックボタンを  
倒すと金具が飛び出し、ロックされま  
す。



**重要**

**PCカードのコネクタ部分についての注意**

PCカードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

**4 ドライバをインストールします。**

初めてセットするPCカードの場合は、ドライバのインストールという設定作業を行う必要のあるものもあります。PCカードのマニュアルをご覧ください。画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。



PCカードによっては、上記の画面は表示されず、自動的にドライバがインストールされることがあります。


**PCカードを取り出す**


**重要**


**PCカード取り出し時の注意**


- 必ず手順どおりにPCカードを取り出してください。手順どおりに行わないと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。
- タスクバーのPCカードアイコン(PCカード)をダブルクリックしたり、コントロールパネルでPCカード(PCカード)をクリックして表示される「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」ウィンドウで、「停止」をクリックして取り出さないでください。システムが不安定になる場合があります。
- PCカードによっては、取り出すときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルをご覧ください。


**注意**

 **けが** PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れしないでください。

 **けが** の原因となることがあります。

 **高温** 使用した直後のPCカードは、高温になっているときがあります。PCカードを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。

 **火傷** の原因となることがあります。

- 1 タスクバーの  (PCカード) をクリックします。
- 2 「XXXXXX の中止」をクリックします。  
XXXXXX には、お使いの PC カードの名称が入ります。

 **重要**

必ず「XXXXXX の中止」をクリックしてください

「XXXXXX の中止」をクリックせずに、PC カードを取り出すと、PC カードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。

 **アドバイス**

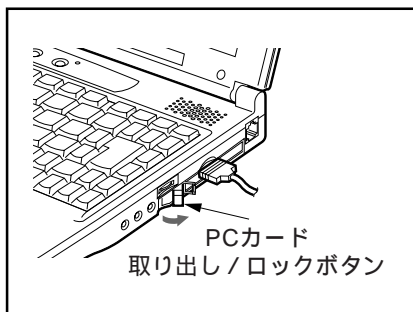
「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されたとき

「OK」をクリックして、パソコン本体の電源を切ってから手順 4 へ進んでください。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.62)

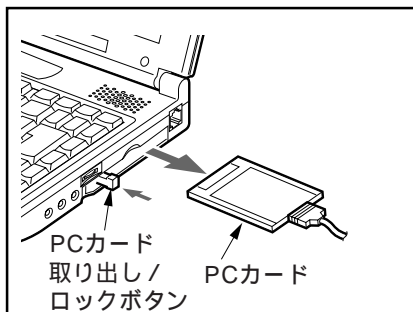
- 3 「OK」をクリックします。



- 4 PC カード取り出し/ロックボタンを起こしてロックを外します。



- 5 PC カードを取り出します。  
PC カード取り出しボタンを押し、飛び出した PC カードを引き抜きます。



 **重要**

コードやケーブルを引っ張らないでください

コード付きの PC カードや、ケーブルを接続している PC カードを取り出すときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。

- 6 PC カードスロットに、ダミーカードをセットします。  
「PC カードをセットする」の手順 2、3 (←P.96)



## 6

# ビーエイチエス 携帯電話やPHSを接続する

携帯電話やPHSを接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

携帯電話やPHSは、対応の接続ケーブルをパソコン本体背面またはコネクタボックスのUSBコネクタに接続します。

接続ケーブルに対応していない携帯電話やPHSはPCカードを利用して接続します。ここでは、以下のことを説明します。

- ・USBコネクタに接続する ◀P.99
- ・PCカードを使って接続する ◀P.101
- ・USBコネクタに携帯電話やPHSを接続して通信する ◀P.102

ユーエスピー

## USBコネクタに接続する

### 必要なものを用意する

デジタル携帯電話またはPIAFS  
対応のPHS

ビアフ

お使いになれる機種については、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp/support/hikken/index.html>)にてご案内します。

「2000年春モデル必見情報」にある「FMV-BIBLO」をご覧ください。

携帯電話接続用USBケーブル  
(添付)

本パソコンに添付のFMV-CBL101をお使いください。

PHS接続用USBケーブル  
(別売)

FMV-CBL102をお使いください。  
詳しくは、ケーブルに添付のCDのreadme.txtをご覧ください。

### 携帯電話やPHSを接続する



注意

**故障** ケーブルは本書をよくお読みになり、正しく接続してください。  
誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび携帯電話やPHSが故障する原因となることがあります。

### 用語

PIAFS  
PHS Internet Access Forum Standardの略で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格です。PHSのデジタル通信回線(32/64Kbps)を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末もPIAFSに対応している必要があります。

## 重要

ケーブルを接続する前に、通信アプリケーションを終了してください

通信アプリケーションが起動している場合は、アプリケーションを終了してからケーブルを接続してください。

PHS を接続するときは

PHS をケーブルに接続する場合は、Windows が起動した状態で接続してください。

USB コネクタ経由で通信するときの注意

- ・ 本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- ・ 通信中または通信アプリケーションを起動中には、サスペンド機能や Save To Disk 機能は使えません。
- ・ 移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- ・ USB コネクタに接続した携帯電話や PHS どうしでの対向接続はできません。
- ・ AT コマンドは、電話回線で通信するためのドライバと仕様が異なります。
- ・ 「接続ケーブル」は、WindowsNT4.0 ではサポートしていません。

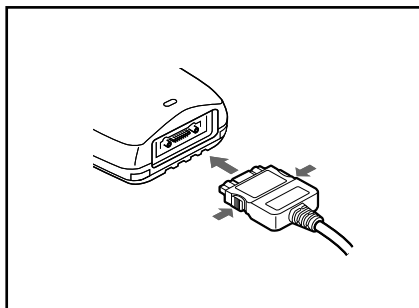
## アドバイス

携帯電話やPHSを取り外すとき

携帯電話接続用 USB ケーブル(添付品)の場合は、コネクタの両側にあるボタンを、PHS 接続用 USB ケーブル(FMV-CBL102)の場合は、コネクタの上側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。

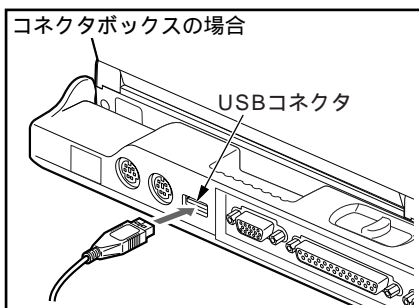
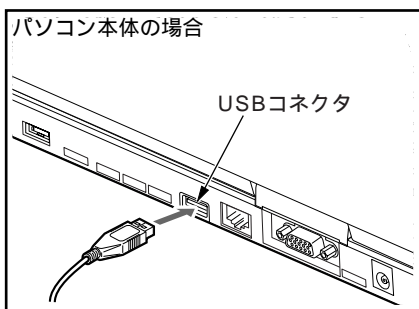
### 1 接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話やPHSに接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



### 2 接続ケーブルのもう一方のコネクタを、本パソコン背面またはコネクタボックスの USB コネクタに接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



このあと、接続した携帯電話や PHS で通信するための設定を行ってください。  
「USB コネクタに携帯電話や PHS を接続して通信する」(P.102)

## PCカードを使って接続する

### 必要なものを用意する



PCカードは、弊社純正品をお使いください。  
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

### 用語

PIAFS  
PIAFS Internet Access Forum Standardの略で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格です。PHSのデジタル通信回線(32/64Kbps)を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末もPIAFSに対応している必要があります。

### アドバイス

PIAFSに対応していないPHSを接続するとき

接続カードの代わりに、「モデムカード-2400」と「無線電話接続ケーブル」をお使いください。

### デジタル携帯電話またはPIAFS対応のPHS

#### 接続カード

本パソコンとデジタル携帯電話またはPHSを接続するためのPCカードです。デジタル携帯電話には「デジタル携帯電話接続カード」を、PIAFS対応のPHSには「PHS接続カード」をお使いください。

#### 接続カードのドライバ

接続カードによっては、フロッピーディスクやCDで添付されています。

#### 接続カードのマニュアル

接続カードによって設定方法が異なります。必ず接続カードのマニュアルもご覧ください。

### 携帯電話やPHSを接続する



PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

### 重要

携帯電話やPHSの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。

#### 初めて接続するとき

接続カードに、フロッピーディスクやCDなどでドライバが添付されている場合は、ドライバのインストールが必要です。接続カードをセットする前に、FDDユニットやCD-ROMドライブユニットを接続してください。

「ユニットを交換する」(P.24)

「FDDユニットを取り付ける」(P.27)

- 1 接続カードと、携帯電話やPHSを添付のケーブルで接続します。携帯電話やPHS、接続カードのマニュアルも、あわせてご覧ください。

## 2 接続カードを本パソコンのPCカードスロットにセットします。

「PCカードをセットする」(☞P.96)

接続した携帯電話やPHSで通信を行うには、接続カードや通信ソフトウェアの再設定が必要です。設定方法については、接続カードのマニュアルをご覧ください。


## USBコネクタに携帯電話やPHSを接続して通信する

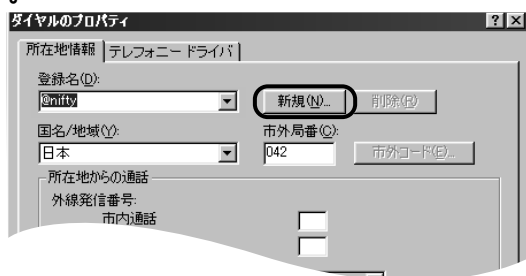
USBコネクタに携帯電話やPHSを接続して通信するには、次のような手順で行います。

1. 携帯電話またはPHS用の所在地情報を作る (☞P.102)
2. 外出先用のダイヤルアップ接続を作る (☞P.103)
3. 外出先で通信する (☞P.105)

### 携帯電話またはPHS用の所在地情報を作る

通信をするときには、パソコンを使う地域の市外局番を登録しておきます。携帯電話やPHSで通信するときは、携帯電話またはPHS用の所在地情報を登録する必要があります。ここでは、登録方法を説明します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (テレフォニー) をクリックします。
- 3 「新規」をクリックします。




「新しい場所が作成されました。」というウィンドウが表示されます。

- 4 「OK」をクリックします。
- 5 携帯電話またはPHS用の所在地情報を設定します。

「携帯用」など、携帯電話用であることがわかるような名前を入力します。

「000」のように普段使わない番号を入力します。

どちらも入力されていない状態になります。

「トーン」をクリックして  にします。





6 「OK」をクリックします。

7 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある **X**(閉じるボタン) をクリックします。

これで、携帯電話やPHSで通信するときを使う所在地情報が作成されました。

## 外出先用のダイヤルアップ接続を作る

通信をするときには、現在の場所からアクセスポイントまでの電話料金がかかります。外出先で通信をするときは、できるだけ外出先に近いアクセスポイントを指定したダイヤルアップ接続を作っておくことで、電話料金を節約できます。ここでは、@niftyに入会していることを前提に説明しています。

### アドバイス

他のプロバイダをご利用の場合

インターネット接続ウィザードでダイヤルアップ接続を作成してください。

☞☞『使いこなす本 インターネット編』

その後、次の手順に従って、使用するモデムを変更します。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「通信」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。

2 外出先用に作成したダイヤルアップ接続にマウスポインタを合わせ、右ボタンを1回押し、「プロパティ」をクリックします。

3 「全般」タブの「接続の方法」でお使いの機種に合わせてモデムを選択し、「OK」をクリックします。(☞P.104)

### FMモバイルスイッチャーとは

LANなどのネットワーク環境で通信を行っているときに、通信設定を簡単に切り替えることができるアプリケーションです。

「FMモバイルスイッチャー」について詳しくは、FMモバイルスイッチャーのヘルプをご覧ください。

1 USBコネクタに携帯電話やPHSを接続します。

「USBコネクタに接続する」(☞P.99)

2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「はじめよう！インターネット(@nifty)」の順にマウスポインタを合わせ、「通信設定」をクリックします。

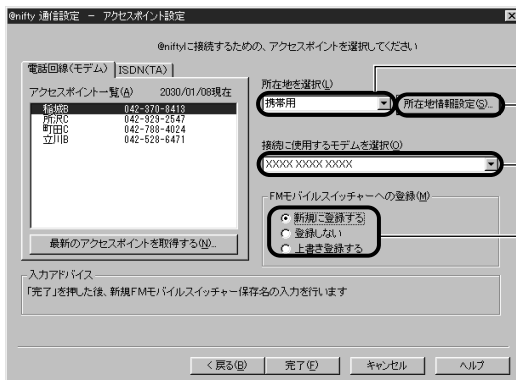
「@niftyへの入会はお済ですか？」というメッセージが表示されます。表示されないときは、手順4に進んでください。

3 「はい」をクリックします。

4 各項目を入力し、「次へ」をクリックします。



5 各項目を設定します。



▼をクリックして携帯用の所在地情報を選択します。

所在地情報の設定内容を確認するときをクリックします。

▼をクリックしてお使いの機種に合わせてモデムを選択します。(☞P.104)

「新規に登録する」をクリックして☑にします。

#### ▶ 携帯電話の場合

☞手順6へ

#### ▶ PHSの場合

「完了」をクリックします。

☞手順9へ

## アドバイス

すでにあるダイヤルアップ接続を更新するとき

接続したいアクセスポイントをクリック後、以下の操作を行います。

- 1 「FMモバイルスイッチャーへの登録」で「上書き登録」をクリックして☑にし、「完了」をクリックします。
- 2 更新するダイヤルアップ接続の名前をクリックし、「OK」をクリックします。
- 3 「通信設定は、正常に終了しました。」というウィンドウで「OK」をクリックします。
- 4 「設定の保存が完了しました。」というウィンドウで「OK」をクリックします。

Windows 98 を起動するとき

FMモバイルスイッチャーに複数の環境が登録されていると、Windows 98の起動時にメッセージが表示されます。その画面で通信環境を選んでください。そのまましばらく待つと、Windows 98 が起動します。

- 6 「最新のアクセスポイントを取得する」をクリックします。
- 7 「所在地付近のアクセスポイントを取得しますか?」というウィンドウで「いいえ」をクリックします。  
@nifty 入会受付センターに電話がかかり、全国のアクセスポイントの一覧がダウンロードされます。
- 8 接続したいアクセスポイントをクリックし、「完了」をクリックします。

外出先に一番近いアクセスポイントをクリックします。



- 9 「FMモバイルスイッチャー連携」ウィンドウで、ダイヤルアップ接続の名前を入力し、「OK」をクリックします。
- 10 「通信設定は、正常に終了しました。」というウィンドウで「OK」をクリックします。
- 11 「設定の保存が完了しました。」というウィンドウで「OK」をクリックします。

これで、携帯電話を使って通信するためのダイヤルアップ接続が作成されました。PHSを使っている場合は、アクセスポイントの設定を行う必要があります。詳しくはお使いのプロバイダにご確認ください。

@niftyについては、<http://www.nifty.com/ap/japan/piafs/piafs.htm>を参照してください。

## 携帯電話やPHS用のモデムを選択する

「接続に使用するモデム」の種類は、お使いの携帯電話またはPHSによって異なります。以下の表とお使いの携帯電話やPHSのマニュアルをご覧ください。お使いの機種に対応するモデムを選択してください。

- ・ 携帯電話接続用USBケーブル (FMV-CBL101) を使用する場合

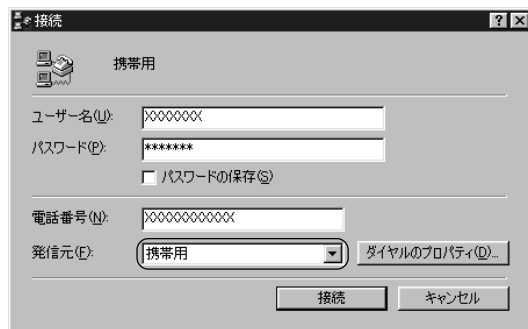
ケーブル	種類	モデム
FMV-CBL101	回線交換 9600bps	Fujitsu SOFT USB PDC
	パケット交換 28800bps	Fujitsu SOFT USB PDC-PACKET
	Doccimo 回線交換 9600bps	Fujitsu SOFT USB PDC-Doccimo
	Doccimo PHS 32K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K-Doccimo
	Doccimo PHS 64K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K-Doccimo

- ・ PHS 接続用USBケーブル (FMV-CBL102) を使用する場合

ケーブル	種類	モデム
FMV-CBL102	NTT DoCoMo PHS 32K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K
	NTT DoCoMo PHS 64K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K

## 外出先で通信する

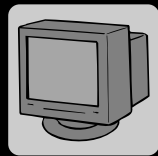
- 1 USB コネクタに、携帯電話または PHS を接続します。  
「USB コネクタに接続する」(P.99)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「通信」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。
- 3 外出先用に作成したダイヤルアップ接続をクリックします。
- 4 「パスワード」の右の欄にパスワードを入力します。
- 5 「発信元」の右の▼をクリックし、携帯電話または PHS 用に作成した所在地情報をクリックします。



- 6 「接続」をクリックします。
- 7 接続されたら、お使いになる通信用のアプリケーションを起動します。

4

オプション機器を活用しよう！(携帯電話やPHSを接続する)



## 7

## 外部ディスプレイを接続する

CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続すると、液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。また、マルチモニタ機能を使用することもできます。ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する ◀P.106
- ・外部ディスプレイを接続する ◀P.106
- ・ディスプレイの表示を切り替える ◀P.108
- ・外部ディスプレイの解像度と発色数について ◀P.110
- ・リフレッシュレートを変更する ◀P.111

外部ディスプレイの画面のちらつきを抑える方法を説明しています。必要に応じてお読みください。

- ・マルチモニタ機能を使う ◀P.113

## 必要なものを用意する



警告



感電

外部ディスプレイは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

## 外部ディスプレイ

「PC/AT 互換機」または「DOS/V パソコン」対応のものを用意してください。

## ディスプレイケーブル

外部ディスプレイとパソコンを接続するケーブルです。外部ディスプレイの背面につながっていたり添付されています。添付されていない場合や、コネクタの形状が異なって接続できない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」と表示されたもので、外部ディスプレイのコネクタの形状にあったものを用意してください。

## 外部ディスプレイのマニュアル

外部ディスプレイにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください。

## 外部ディスプレイを接続する

外部ディスプレイは、パソコン本体背面またはコネクタボックスに接続できます。



警告



感電

外部ディスプレイを接続するときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



注意



故障

ケーブル類は、間違えないように接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。


**アドバイス**  
 ディスプレイケーブル


## 重要

外部ディスプレイの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われずにおそれがあります。

外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください

接続方法は、外部ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイのマニュアルもあわせてご覧ください。

# 4

オプション機器を活用しよう！（外部ディスプレイを接続する）

## アドバイス

より鮮明な画質で表示したいときは

外部ディスプレイを、パソコン本体のCRTコネクタに接続してお使いください。コネクタボックスに接続した場合よりもパソコン本体に接続した場合のほうが、鮮明な画質を表示できます。

**CRTコネクタの向き**

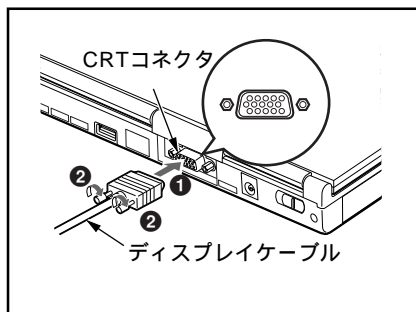
パソコン本体とコネクタボックスでは、CRTコネクタの向きが逆になっています。

- 1 **パソコン本体の電源を切ります。**  
「今日はおしまい。電源を切るには？」（☞P.62）をご覧ください、MAINスイッチを切って（側にスライドして）ください。
- 2 **オプション機器の電源を切り、取り外します。**
- 3 **ACアダプタを取り外します。**  
「ACアダプタを取り外す」（☞P.65）
- 4 **パソコン本体背面またはコネクタボックスのCRTコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。**

### パソコン本体に接続する場合

コネクタは正面から見ると台形になっています。

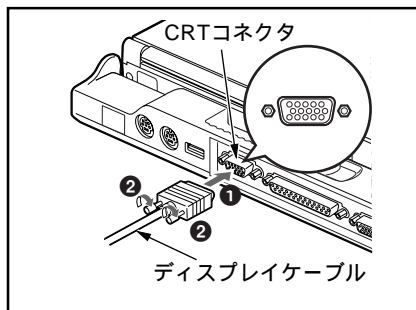
- 1 コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。
- 2 ディスプレイケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



### コネクタボックスに接続する場合

コネクタは正面から見ると台形になっています。

- 1 コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。
- 2 ディスプレイケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



- 5 **外部ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。**  
外部ディスプレイ背面にディスプレイケーブルがつながっている場合もあります。接続方法は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 6 **外部ディスプレイに電源ケーブルを接続します。**  
外部ディスプレイに電源ケーブルがつながっている場合もあります。外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 7 **外部ディスプレイの電源ケーブルを、コンセントに接続します。**

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

「ディスプレイの表示を切り替える」（☞P.108）

## ディスプレイの表示を切り替える

### アドバイス

外部ディスプレイを接続後パソコンの電源を入れると

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示することがあります。
  - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されることがあります。
- 画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。

ここでは、接続したCRTディスプレイなどの外部ディスプレイとパソコン本体の液晶ディスプレイで、表示を切り替える方法を説明します。

表示を切り替えるには、キーボードから切り替える方法と、画面のプロパティから切り替える方法の2つがあります。どちらの方法で切り替えてもかまいません。


ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイで表示する
- ・接続した外部ディスプレイで表示する
- ・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイで同時に表示する

### キーボードで切り替える

- 1 ACアダプタを取り付けます。  
「ACアダプタを取り付ける」(P.64)
- 2 外部ディスプレイの電源を入れます。  
外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 3 パソコン本体の電源を入れます。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(P.60)
- 4 **[Fn]** を押しながらか **[F10]** を押します。  
表示が切り替わります。  
2つのキーを押すごとに、「外部ディスプレイ表示 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示 液晶ディスプレイ表示 外部ディスプレイ表示…」の順でディスプレイ表示が切り替わります。

### 画面のプロパティで切り替える

- 1 ACアダプタを取り付けます。  
「ACアダプタを取り付ける」(P.64)
- 2 外部ディスプレイの電源を入れます。  
外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 3 パソコン本体の電源を入れます。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(P.60)
- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 5  (画面) をクリックします。
- 6 「設定」タブをクリックします。
- 7 「詳細」をクリックします。
- 8 「表示デバイス」タブをクリックします。

## アドバイス

「OK」をクリックしないと

手順12で「OK」をクリックしないとしばらくすると、元の画面表示に戻ります。手順9からやり直してください。

表示デバイスについて

「Trident Cyber9525 DVD PCI/AGP (W98.26) のプロパティ」ウィンドウでは、「外部ディスプレイ」を「CRT」、液晶ディスプレイを「LCD」と表示しています。

## アドバイス

BIOS セットアップの画面について

BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみで表示されることがあります。BIOS セットアップの画面も外部ディスプレイに表示したいときには、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「ディスプレイ設定」の「ディスプレイ」(P.125)で「外部ディスプレイ」または「同時表示」を選択してください。



表示されるディスプレイ

Windows 98 が起動すると、表示されるディスプレイは、前回Windows 98 で使用していた状態になります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。

マルチモニタ機能を使うとき

P.113

## 9 表示するディスプレイを選びます。

- 液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示する表示デバイスの「LCD/CRT」をクリックして、にします。
- 液晶ディスプレイのみ、または外部ディスプレイのみで表示する表示デバイスの「LCD」または「CRT」のいずれかをクリックして、にします。



(この画面は、機種により若干異なります)

## 10 「適用」をクリックします。

## 11 「表示デバイスが準備されているかどうかを確認してください」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

## 12 「確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

## 13 「Trident Cyber9525 DVD PCI/AGP (W98.26) のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。



## 14 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

### 重要

#### 外部ディスプレイ表示に切り替えたとき

外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、何も表示されなかったり、正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行ってください。

#### ・何も表示されないとき

何も操作しないでお待ちください。10秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、を押しながら  を押して、表示先を切り替えてください。

#### ・正常に表示されないとき

外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、リフレッシュレートを変更してください。

「リフレッシュレートを変更する」(P.111)

#### 別の外部ディスプレイに変更するとき

変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、本パソコンの電源を切ったあと、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更した際に、画面が表示できなくなる場合があります。

## 外部ディスプレイの解像度と発色数について



### アドバイス

High Color、True Colorとは

High Color(16ビット)は65536色、True Color(32ビット)は1677万色です。

外部ディスプレイを接続すると、本パソコンの液晶ディスプレイよりも高い解像度で表示することができます。

ここでは、外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数、および変更方法について説明します。

### 外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数

ディスプレイの解像度と発色数は次の表のとおりです。

以下の解像度や発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数	
	液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時表示	外部ディスプレイで表示
640×480ドット	256色 1 High Color(16ビット) 1 True Color(32ビット) 1 2	256色 High Color(16ビット) True Color(32ビット)
800×600ドット	256色 1 High Color(16ビット) 1 True Color(32ビット) 1 2	256色 High Color(16ビット) True Color(32ビット)
1024×768ドット 4	256色 3 High Color(16ビット) 3	256色 High Color(16ビット)
1280×1024ドット 5	256色 3	256色

1 MF3/500Xでは、640×480ドットまたは800×600ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。

MF3/45では、640×480ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。

2 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、1677万色で表示されます。

3 本パソコンでは仮想スクリーンモードでの表示となります。

MF3/500Xでは、1280×1024ドットに設定すると、液晶ディスプレイおよび外部ディスプレイに1024×768ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

MF3/45では、1024×768ドット以上に設定すると、液晶ディスプレイおよび外部ディスプレイに800×600ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

4 モニタをSuperVGA 1024×768以上にする必要があります。

「液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える」(P.52)

5 モニタをSuperVGA 1280×1024以上にする必要があります。

「液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える」(P.52)



### 重要

#### 外部ディスプレイで表示できる解像度について

表示できる解像度はお使いの外部ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイのマニュアルでご確認ください。

#### 同時表示をする場合のご注意

液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示では、外部ディスプレイは液晶ディスプレイの表示と同一になりますが、外部ディスプレイによっては正しく表示されないことがあります。外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。



## 外部ディスプレイの解像度と発色数を変更する

### アドバイス

解像度、発色数の設定により画面の調整が必要になることがあります

変更した解像度、発色数の設定によっては、画面の表示される位置、幅、高さの調節が必要になる場合があります。調節のしかたについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

外部ディスプレイの解像度を変更することができます。

変更する手順については、「液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える」(P.52)の操作と同じですが、以下の点にご注意ください。

- ・手順 1 の前に外部ディスプレイ表示に切り替えます。  
「ディスプレイの表示を切り替える」(P.108)
- ・手順 11 「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください」というウィンドウでは、お使いの外部ディスプレイに合ったモデルを選んでください。外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください。合うモデルがないときは、手順 11 の設定に従ってください。

## リフレッシュレートを変更する

外部ディスプレイに合ったリフレッシュレートに変更すると、画面のちらつきを抑えることができます。

### 重要

#### リフレッシュレートについて

リフレッシュレートは、外部ディスプレイ表示のときに変更できます。液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示のときは、「表示デバイス」タブの「デフォレント リフレッシュレート」をクリックして  にすると、「アダプタ」タブで外部ディスプレイのリフレッシュレートを変更できます。ただし、解像度によっては変更できない場合もあります。

### 用語


#### リフレッシュレート

1 秒間に画面を書き替える回数を周波数 (単位は Hz) で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります。

### アドバイス

外部ディスプレイにより対応しているリフレッシュレートは異なります

外部ディスプレイのマニュアルでご確認ください。

- 1 AC アダプタを取り付けます。  
「AC アダプタを取り付ける」(P.64)
- 2 外部ディスプレイの電源を入れます。  
外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 3 パソコン本体の電源を入れます。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(P.60)
- 4 外部ディスプレイ表示に切り替えます。  
「ディスプレイの表示を切り替える」(P.108)
- 5 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 6  (画面) をクリックします。
- 7 「設定」タブをクリックします。
- 8 「詳細」をクリックします。
- 9 「アダプタ」タブをクリックします。

- 10 「リフレッシュレート」の▼をクリックして、リフレッシュレートを選択し、「適用」をクリックします。



リフレッシュレートが変更されます。

- 11 「Trident Cyber9525DVD PCI/AGP(W98.26)のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

## マルチモニタ機能を使う

本パソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここではプライマリアダプタ（メイン画面）として液晶ディスプレイを、セカンダリアダプタ（拡張表示）として外部ディスプレイを使用する場合の手順を次のように説明します。

- ・セカンダリアダプタを設定する（☞P.113）
- ・マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数（☞P.114）
- ・アダプタの表示位置を変更する（☞P.114）

### セカンダリアダプタを設定する

#### 重要

##### マルチモニタ機能の注意

- ・マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のアプリケーションを終了してください。
- ・2つのディスプレイにまたがるウィンドウがあるときは、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
- ・セカンダリアダプタのみに表示されているアプリケーションを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了させないでください。アプリケーションおよびWindows98の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- ・以下の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
  - 液晶ディスプレイの全画面表示
  - 一部のスクリーンセーバー
  - 動画再生画面のフルスクリーン表示

##### アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows98の標準画面に切り替わります。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

##### 発色数についての注意

- ・プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の発色数を設定しないでください。
- ・High ColorまたはTrue Colorに設定してください。256色に設定すると、正しく表示されないことがあります。
- ・セカンダリアダプタは256色に設定できません。

##### 解像度についての注意

- ・プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイもしくは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- ・プラグアンドプレイ非対応のディスプレイの場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は、外部ディスプレイの最大解像度になります。



## アドバイス

### ディスプレイの切り替え

マルチモニター使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。

### プライマリアダプタについて

現在、画面が表示されているディスプレイがプライマリアダプタになります。ただし同時表示の場合は、液晶ディスプレイがプライマリアダプタになります。

### 「設定」タブの「1」と「2」について

「1」はプライマリアダプタ、「2」はセカンダリアダプタを示します。

- 1 「画面のプロパティ」ウィンドウを表示します。  
「画面のプロパティで切り替える」の手順 1 ~ 手順 6 (P.108)
- 2 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックします。  
「モニター #2」ウィンドウが表示されます。
- 3 「はい」をクリックします。
- 4 セカンダリアダプタの解像度と発色数を設定します。  
「液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える」の手順 16 (P.54)
- 5 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

## マルチモニター機能を使っているときに表示できる解像度と発色数


次の組み合わせで選択できます。

次の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

発色数	セカンダリの解像度	640	800	1024	1280
	プライマリの解像度	× 480	× 600	× 768	× 1024
High Color (16 ビット)	640 × 480				×
	800 × 600				×
	1024 × 768			×	×
True Color (32 ビット)	640 × 480		×	×	×

## アダプタの表示位置を変更する



ここでは使用する2つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 セカンダリアダプタを設定します。  
「セカンダリアダプタを設定する」(P.113)
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウの (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。
- 5 「OK」をクリックします。  
分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

## 8

## その他のオプション機器を使う

ここでは本パソコンに接続できるその他のオプション機器の一例として、「ハードディスク」と「MO（光磁気ディスク）ドライブ」をご紹介します。

- ・ハードディスクを使う  P.115
- ・MO（光磁気ディスク）ドライブを使う  P.115

## ハードディスクを使う

本パソコンには、SCSI規格の外付けハードディスクを増設することができます。外付けハードディスクを増設すると、より多くのデータを保存できるようになります。外付けハードディスクを増設するには、次のものがが必要です。

## 外付けハードディスク

## SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。終端抵抗は、外付けハードディスクに内蔵されている場合もあります。

## 外付けハードディスクとSCSIカードのマニュアル

外付けハードディスクやSCSIカードによっては、接続方法や設定方法が異なる場合があります。各マニュアルをご覧ください。

エムオー

## MO（光磁気ディスク）ドライブを使う

MO（光磁気ディスク）ドライブとは、レーザーと磁気で光磁気ディスクにデータを書き込み、レーザーで読み込みを行う記憶媒体です。MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

MOドライブを使うには、次のものがが必要です。

## MO（光磁気ディスク）ドライブ

本パソコンには、SCSI規格の外付けのMOドライブを取り付けられます。

## SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。終端抵抗は、MOドライブに内蔵されている場合もあります。

## MO（光磁気ディスク）ドライブとSCSIカードのマニュアル

MO（光磁気ディスク）ドライブやSCSIカードによっては、接続方法や設定方法が異なる場合があります。

各マニュアルをご覧ください。

## MO（光磁気ディスク）

128MB、230MB、540MB、640MB、1.3GBの容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになるMOドライブが対応している容量のMOをお買い求めください。



## 用語

## SCSI


オプション機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格のオプション機器には、ハードディスク、スキャナ、MO（光磁気ディスク）ドライブなどがあります。



## アドバイス

ハードディスクを増設するには

SCSIカードを本パソコンにセットします。

「PCカードをセットする」  
( P.96)


外付けハードディスクの接続や設定のしかたについては、ハードディスクとSCSIカードのマニュアルをご覧ください。



## アドバイス

MOドライブを使うには

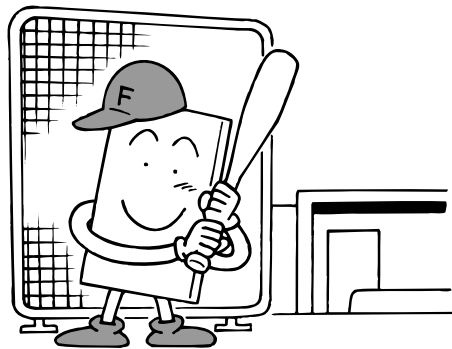
SCSIカードを本パソコンにセットします。

「PCカードをセットする」  
( P.96)

MOドライブの接続や設定のしかたについては、MOドライブとSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

## 4

オプション機器を活用しよう！（その他のオプション機器を使う）



## 第 5 章

# BIOS セットアップ

本章では、「BIOS セットアップ」を使って、ハードウェアの設定を変更する方法について説明しています。

本パソコンのハードウェアは、あらかじめ最適な状態に設定されています。通常お使いになる範囲では、変更する必要はありません。必要な場合のみご覧ください。

本章には、ある程度パソコンについての知識を必要とする記述があります。

1. BIOS セットアップとは .....	118
2. BIOS セットアップの操作のしかた .....	119
3. ご購入時の設定に戻す .....	122
4. BIOS セットアップのメニュー詳細 .....	123
5. BIOS のパスワード機能を使う .....	131
6. BIOS が表示するメッセージ一覧 .....	134



## 1

# BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。本パソコンをご購入になったときは、すでに最適なハードウェア環境が設定されています。通常お使いになる範囲では、これらの設定を変更する必要はありません。

BIOSとは、「Basic Input/Output System」の略で、ハードウェア環境の設定やOSの起動、基本的な入出力機能の制御などを行うためのプログラムです。

BIOS セットアップは、BIOSの機能についての各種の設定値を変更するためのプログラムです。BIOS セットアップの設定値を変更することによって、パソコン本体と周辺機器の機能や動作モードを、変更することができます。

通常は、以下の場合などに BIOS セットアップを利用します。

- ・ 特定の人だけが本パソコンを使えるように、パスワード（暗証番号）を設定したいとき
- ・ 起動時の自己診断テストで、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

## 重要

### BIOS セットアップの設定は、正確に行ってください

設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定値に戻して、本パソコンを起動し直してください。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(☞P.119)

「ご購入時の設定に戻す」(☞P.122)

## アドバイス

### BIOS セットアップの設定値の保存先

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリーによって記憶した内容を保存しています。パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご連絡ください。

### 起動時の自己診断テスト中に電源を切ると

本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は、4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

「メッセージ一覧」の 10 (☞P.136)

自己診断テスト中は、不用意に電源を切らないください。

## 用語

### 起動時の自己診断テスト (POST)

本パソコンの電源を入れたときや再起動したとき、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを、自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST: Power On Self Test) といいます。



## BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップの設定を変更するには、BIOS セットアップを起動して、設定値を変更し、設定内容を CMOS RAM に保存して終了します。

ここでは以下のことを説明します。

- ・ BIOS セットアップを起動する ◀P.119
- ・ 設定を変更する ◀P.120
- ・ 変更内容を取り消す ◀P.120
- ・ BIOS セットアップを終了する ◀P.121

**重要**

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。  
フラットポイントやマウスは使えません。

## BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、起動することができます。

**アドバイス**

Windows98 の画面が表示されたとき

Windows98 の起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。

起動時の自己診断画面を表示するには

手順 5 で、**[F2]** の代わりに **[Esc]** を押します。




「起動メニュー」画面を表示させるには

手順 5 で、**[F2]** の代わりに **[F12]** を押します。

項目名に「**▶**」が付いているとき

この項目にはサブメニューがあります。項目名にカーソルを移動して **[Enter]** を押すと、サブメニューの画面が表示されます。

元のメニュー画面に戻るには **[Esc]** を押します。

- 1 それまで行っていた作業を終了します。  
必要に応じて、作業中のデータを保存してください。
- 2 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。  
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 4 「再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。
- 5 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「< Esc > キー：自己診断画面 / < F12 > キー：起動メニュー / < F2 > キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、**[F2]** を押します。  
BIOS セットアップが起動し、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

メニューバー

メニューの名称が表示されます。

カーソル  
設定する項目に合わせます。

項目ヘルプ  
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド  
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧  
設定時に使うキーの一覧です。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
	システム時刻: [12:34:56]					項目ヘルプ
	システム日付: [1999/10/23]					現在の時刻を、時：分：秒で設定します。(24時間制)
	フロッピーディスクA: [1.44/1.2 MB 3.5"]					<Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。
	▶ プライマリマスター [XXXXXX XXXXXXXX]					<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。
	▶ プライマリスレーブ [なし]					
	言語 (Language): [日本語 (JP)]					
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space 値の変更	F9 標準設定			
Esc 終了	メニュー選択	Enter ▶サブメニュー選択	F10 保存して終了			

続いて、「設定を変更する」をご覧ください。

## 設定を変更する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードを使って行います。  
ここでは、一般的な操作方法を説明します。

- 1  または  でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。  
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2  または  でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
- 3  または  を押して、選択している項目の設定値を変更します。  
続けて他の設定項目を変更するときは、手順 1 ~ 3 を繰り返してください。
- 4 **設定を保存して終了します。**  
「BIOS セットアップを終了する」( P.121 )

### 設定時に使用するキー一覧

**[F1]**

「一般ヘルプ」画面が表示され、BIOS セットアップの操作で使用するキーについての説明を見ることができます。次のページを見るときは **[Pg Dn]** を、前のページに戻るときは **[Pg Up]** を押します。「一般ヘルプ」画面を閉じるには **[Enter]** を押します。

/

設定する項目にカーソルを移動します。

/

メニューを切り替えます。

**[Enter]**

「 」が付いている項目で押すと、サブメニューが表示されるか、その項目の処理が行われます。

設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。

/

設定値を変更します。

**[F9]**

すべての設定値を、本パソコンの標準設定値（ご購入時の設定）に戻します。

**[F10]**

設定した内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

**[Esc]**

「終了」メニューを表示します。

サブメニューが表示されているときは、1 つ前のメニュー画面に戻ります。

### 変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、CMOS RAM に保存してある変更前の設定値を読み込みます。

- 1 **[Esc]** を押します。  
「終了」メニューが表示されます。

#### アドバイス

設定内容を、変更前の値に戻すには

「変更内容を取り消す」  
( P.120 )

設定内容を、ご購入時の設定値に戻すには

「ご購入時の設定に戻す」  
( P.122 )

#### アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

- 2  または  を押して「変更前の値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更前の値を読み込みますか？	
[はい]	[いいえ]

- 3  または  で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

#### アドバイス

すべての変更を取り消して BIOS セットアップを終了するには

設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了します。

- 1 「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。  
設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。  
設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。
- 2  または  で「いいえ」を選択し、**[Enter]** を押します。  
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

## BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

- 1 **[Esc]** を押します。  
「終了」メニューが表示されます。
- 2  または  を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
[はい]	[いいえ]

- 3  または  で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

#### アドバイス

BIOS セットアップを終了せずに設定を保存するには

いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定できます。

- 1 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、**[Enter]** を押します。  
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
- 2  または  で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

#### アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

#### アドバイス

設定を変更しないで終了するには

「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください。  
「変更内容を取り消す」  
(P.120)

## 3

## ご購入時の設定に戻す

設定内容をご購入時の状態に戻すには、「標準設定値」を読み込み、読み込んだ設定値を CMOS RAM に保存します。

すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

## 1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」(P.119)

2 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

3  または  を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。

<p>セットアップ確認</p> <p>標準設定値を読み込みますか？</p> <p><b>[はい]</b>    [いいえ]</p>
---

4  または  で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

この状態では、まだ CMOS RAM には保存されていません。

5  または  を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。

<p>セットアップ確認</p> <p>変更した内容を保存して終了しますか？</p> <p><b>[はい]</b>    [いいえ]</p>
---

6  または  で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

読み込んだ標準設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了します。

**アドバイス**

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

**アドバイス**

保存後に設定操作を続けたいとき

「変更を保存して終了する」の代わりに「変更を保存する」を選択して、**[Enter]** を押します。

ここで使用しているマークは、次の意味です。

：項目名

：サブ項目名

ここでは以下のことを説明します。

- ・メインメニュー ➡ P.123
- ・詳細メニュー ➡ P.124
- ・セキュリティメニュー ➡ P.126
- ・省電力メニュー ➡ P.128
- ・起動メニュー ➡ P.129
- ・情報メニュー ➡ P.130
- ・終了メニュー ➡ P.130

## メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

システム時刻

システム日付

フロッピーディスク A (標準設定値：1.44/1.2MB 3.5 ")

フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。

プライマリマスター

内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。

設定項目については、「プライマリスレーブ」を参照してください。

プライマリスレーブ

CD-ROM ドライブユニットなどのモバイルマルチベイに取り付けられた IDE 規格の機器のタイプと動作モードを設定します。

タイプ (標準設定値：自動)

シリンダ数

ヘッド数

セクタ数

最大容量

マルチセクタ転送

LBA モード制御

PIO 転送モード

DMA 転送モード

言語 (Language) (標準設定値：日本語 (JP))

BIOS セットアップや起動時の自己診断テストで、画面に表示する言語を選択します。設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

### アドバイス

標準設定値を読み込んだとき

「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(➡ P.130) を実行した直後は、「プライマリマスター」、「プライマリスレーブ」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

タイプで「自動」以外を選択するとき

接続するドライブに合ったタイプを選択してください。誤ったドライブを選択すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定するとき

必ず正確に設定してください。誤った値を設定すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

## 詳細メニュー

### アドバイス

#### 周辺機器設定を行うとき

I/Oポートアドレス、割り込み番号(IRQ)、DMAチャネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てると、項目名の左に\*が表示されます。\*が表示されたときは、別の設定値を割り当ててください。ご購入時の設定値は、リソース一覧で確認できます。「リソース一覧」(P.145)現在の設定値は、「コンピュータのプロパティ」ウィンドウで確認できます。「現在のリソースを確認するには」(P.145)

「詳細」メニューでは、パソコン本体と周辺機器の機能やリソースなどの設定を行います。

プラグアンドプレイ対応 OS (標準設定値：はい)

デバイス設定の保護 (標準設定値：いいえ)

#### シリアル/パラレルポート設定

シリアルポート (標準設定値：使用する)

I/O アドレス (標準設定値：3F8-3FF)

割り込み番号 (標準設定値：IRQ 4)

赤外線通信ポート (標準設定値：使用する)

赤外線通信ポートを使用するかどうかを設定します。

モード (標準設定値：FIR)

高速モード用の「I/O アドレス」と「DMA チャネル」も設定してください。

I/O アドレス (標準設定値：2E8-2EF)

割り込み番号 (標準設定値：IRQ 3)

I/O アドレス (標準設定値：118-11F)

DMA チャネル (標準設定値：DMA 3)

パラレルポート (標準設定値：使用する)

モード (標準設定値：双方向)

「ECP」は、パラレルポートにECP対応の周辺機器を接続しているときに設定します。ECPモード用の「DMA チャネル」も設定してください。

I/O アドレス (標準設定値：378-37F)

割り込み番号 (標準設定値：IRQ 7)

DMA チャネル (標準設定値：DMA 1)

通常「DMA チャネル」は「DMA 1」に設定してください。「DMA 3」は、標準設定値では赤外線通信ポートのFIR用に割り当てられています。

#### キーボード/マウス設定

起動時の Numlock 設定 (標準設定値：自動)

ホットプラグ (標準設定値：使用する)

### アドバイス

#### 接続したキーボードやマウスが使えないとき

接続したキーボードやマウスがホットプラグに対応していない場合があります。

本パソコンの動作中に接続したキーボードやマウスが使えないときは、いったん取り外し、しばらく待ってからもう一度接続してください。それでも使えないときは、本パソコンの電源を切るか、サスペンドしてから接続してください。

#### 次のような場合には「使用しない」に設定してください

・「ホットプラグ」を「使用する」に設定したときに、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合

・拡張キーボードコネクタまたはマウスコネクタに、入力装置(バーコードリーダ：FMV-BCR101、バーコードタッチリーダ：FMV-BCR201、磁気カードリーダ：FMV-MCR101など)を接続している場合

また、この場合は「省電力モード」(P.128)も「使用しない」に設定してください。

内蔵ポインティングデバイス（標準設定値：自動）

### アドバイス

#### Microsoft 社製 IntelliMouse™ の利用について

Microsoft 社製 IntelliMouse™ は、「内蔵ポインティングデバイス」を「自動」に設定しているときのみお使いになれます。

#### ディスプレイ設定

ディスプレイ（標準設定値：液晶ディスプレイ）

全体表示（標準設定値：使用しない）

#### その他の内蔵デバイス設定

フロッピーディスクコントローラ（標準設定値：使用する）

IDE コントローラ（標準設定値：使用する）

#### PCI 設定

割り込み番号の予約

特定の割り込み番号を PC カードに割り当てたいとき、その割り込み番号を「予約する」に設定すると、内蔵デバイスに使用されないようになります。

IRQ 3 ~ IRQ 15（標準設定値：予約しない）

#### CPU 設定（MF3/500X のみ）

プロセッサシリアルナンバ（標準設定値：使用しない）

#### ACPI 設定

ACPI 管理機能（標準設定値：使用しない）

#### イベントログ設定

イベントログ領域の状態

イベントログ内容の状態

イベントログの表示

イベントログ（標準設定値：保存する）

システム起動（標準設定値：保存しない）

イベントログの消去（標準設定値：消去しない）

イベントログのマーク

### アドバイス

#### イベントログメッセージ

「イベントログメッセージ」  
(P.138)

## セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを不正使用から保護するための設定を行います。

「BIOS のパスワード機能を使う」(☞P.131)

### 管理者用パスワード

管理者(本パソコンをご購入になった方など)用のパスワードの設定状態が表示されます。

### ユーザー用パスワード

ユーザー(ご家族など、管理者以外の利用者)用のパスワードの設定状態が表示されます。

### 管理者用パスワード設定

#### ユーザー用パスワード設定

設定できる BIOS セットアップの項目が制限されます。

#### ユーザー用パスワード文字数(標準設定値:0)

#### 起動時のパスワード(標準設定値:使用しない)

「管理者用パスワード」が設定されている場合のみ設定できます。

#### レジューム時のパスワード(標準設定値:使用しない)

「管理者用パスワード」が設定され、「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合にのみ有効です。

Windows98 の「電源の管理」でも設定できます。

## アドバイス



### 「電源の管理」で設定を変更する

レジューム時のパスワードは、「電源の管理」でも設定できます。

「電源の管理」で設定を変更する」(☞P.79)

## 重要

### レジューム時のパスワード入力について

レジューム時は、パスワード入力を要求する画面は表示されません。フラットポイント(マウス)とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができなくなっているときは、状態表示 LCD に  と  が交互に点滅します。

キーボードとフラットポイント(マウス)を使用できるようにするには、本パソコン起動時に入力したパスワードをキーボードから入力してください。

### USB 規格のオプション機器について

「レジューム時のパスワード」によるセキュリティの対象外となります。

そのため、USBマウスなどの USB 規格のオプション機器は、パスワードを入力しなくても使用できます。

取り外し可能なディスクからの起動(標準設定値:常に可能)

フロッピーディスクアクセス(標準設定値:常に可能)

「管理者用パスワード」が設定されている場合のみ設定できます。

## 重要

### フロッピーディスクアクセスの設定についての注意

BIOS を経由しないで直接フロッピーディスクコントローラにアクセスする OS (Windows NT4.0 など) では、正しく動作しません。



## ハードディスクセキュリティ

ハードディスクドライブのパスワードロック機能を設定します。本パソコンの内蔵ハードディスクドライブのように、パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブのみ利用できます。

プライマリマスター (標準設定値: 使用しない)

プライマリスレーブ (標準設定値: 使用しない)

本パソコンでは設定できません。

## 所有者情報

所有者情報

所有者情報設定

文字色 (標準設定値: グレー)

背景色 (標準設定値: 黒)

ハードディスク起動セクタ (標準設定値: 通常動作)



### 重要

#### ハードディスク起動セクタの設定についての注意

- ・ OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- ・ この設定は、BIOS を経由しないで直接ハードディスクにアクセスする OS (Windows NT 4.0 など) では、正しく動作しません。



### アドバイス

#### 管理者用パスワードとユーザー用パスワード

管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

## 省電力メニュー

### アドバイス

Windows98 をお使いのとき

項目によっては無効になることがあります。詳しくは各項目の説明をご覧ください。

「省電力」メニューでは、本パソコンの省電力機能に関する設定を行います。省電力機能は、「PMSet98」やWindows98の「電源の管理」でも設定できます。「節電の設定を変更する」(P.79)

省電力モード (標準設定値: ユーザー設定)

ハードディスク省電力 (標準設定値: 使用しない)

ディスプレイ省電力 (標準設定値: 使用しない)

Windows98の「電源の管理」で、モニタの電源を切るまでの時間を設定しているときは、短い時間に設定しているほうが有効になります。

### 重要

別売のシリアルマウスをお使いのとき

「ディスプレイ省電力」で時間を設定したときは、「シリアルマウス」(P.129)を「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定していると、シリアルマウスを使用しているときでもディスプレイの表示が消えてしまいます。

スタンバイタイマー (標準設定値: 4分)

スタンバイは、Windows98の「システムスタンバイ」とは異なります。

Windows98が起動しているときは、本設定は無効です。

サスペンドタイマー (標準設定値: 15分)

Windows98が起動しているときは、「電源の管理」の「システムスタンバイ」の設定に従ってサスペンドします。

サスペンド動作 (標準設定値: サスペンド)

### アドバイス

「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定しているとき

サスペンドするときに、自動的にSave To Disk機能が働いて、本パソコンの電源が切れます。

「Save To Disk」に設定してもサスペンドすることがあります

次の場合には、Save To Disk機能が働かず、サスペンドします。

- ・ Save To Disk領域が作成されていないとき
- ・ 「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」を設定しているとき
- ・ 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウで、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左がになっているとき
- ・ LOWバッテリー状態で自動的にサスペンドするとき

自動 Save To Disk (標準設定値: 使用しない)

## アドバイス

### モデムの設定方法

⑧ 「アプリケーション CD2」のPDFマニュアル(¥Modem¥4661内蔵モデム取説)をご覧ください。PDFマニュアルの使いかたは、『使いこなす本ソフト編』の「付録3 PDFマニュアルの使いかた」をご覧ください。

モデム着信によるレジューム(標準設定値:使用しない)

「PMSet98」が起動しているときのみ有効です。また、「PMSet98」の「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の設定と連動します。

「PMSet98」で設定を変更する」(P.80)

## アドバイス

### モデム着信によるレジューム機能についての注意

- ・ USBコネクタに接続した携帯電話またはPHSからモデムに着信したときは、レジュームしません。
- ・ 本パソコンがレジュームしてからアプリケーションがモデムと通信できるようになるまでは、多少の時間が必要です。アプリケーションがモデムの着信信号を検出できるように、モデムの自動応答回数を設定してください。
- ・ 「使用する」に設定すると、サスペンド中でもモデムを動作させておくため、サスペンド中の電力消費が増加します。この場合には、ACアダプタを接続してください。

時刻によるレジューム(標準設定値:使用しない)

Windows98で「タスクスケジュール」を設定しているときは、Windows98とBIOSセットアップの両方とも有効になります。

レジューム時刻

「時刻によるレジューム」を「使用する」に設定したとき、レジュームする(サスペンドする前の状態に戻す)時刻を時:分:秒(24時間制)で設定します。

詳細設定

サスペンド/レジュームスイッチ(標準設定値:使用する)

カバークローズ サスペンド(標準設定値:使用する)

## 重要

### カバークローズサスペンドについての注意

- ・ ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PCカード使用中は、それらの作業を完了または中断してから、液晶ディスプレイを閉じてください。
- ・ Windows98の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

カバーオープン レジューム(標準設定値:使用する)

シリアルマウス(標準設定値:使用しない)

## 起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

高速起動(標準設定値:使用する)

起動時の自己診断画面(標準設定値:表示しない)

起動デバイスの優先順位(標準設定値:「フロッピーディスクドライブ」「ハードディスクドライブ」「ATAPI CD-ROMドライブ」の順番)

## アドバイス

### 優先順位を一時的に変更したいとき

起動時の自己診断テスト中に[F12]を押すと、「起動メニュー」という画面が表示されます。起動用のデバイスを[ ]または[ ]で選択し、[Enter]を押してください。

「<BIOSセットアップを起動>」を選択すると、BIOSセットアップを起動することもできます。

## 情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS やパソコン本体についての情報が表示されます。

BIOS 版数

BIOS 日付

BIOS 領域

CPU タイプ

CPU 速度

L1 キャッシュ

L2 キャッシュ

全メモリ容量

搭載しているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

メモリスロット

メモリスロットに取り付けられているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

## 終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

変更を保存せずに終了する

標準設定値を読み込む

変更前の値を読み込む

変更を保存する

## BIOS のパスワード機能を使う

 アドバイス

## パスワードの種類

BIOSでは、次の2つのパスワードが設定できます。パスワードによって制限できる機能が違います。

- ・ 管理者用パスワード  
本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使うときは、必ず設定してください。
- ・ ユーザー用パスワード  
「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方(ご家族など)が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定したときのみ設定できます。


## Windows98 のパスワード機能について

Windows98 のパスワード機能は、BIOS のパスワード機能とは異なります。

Windows98 のパスワード機能だけでは、ハードディスクデータの読み出しからデータを保護することはできません。




 アドバイス

設定を中止するには

 を押してください。

BIOSのパスワード機能を使うことによって、特定の人以外が本パソコンを使用できないように制限したり、ハードディスクのデータが盗用されないように保護したりできます。

ここでは以下のことを説明します。



- ・ パスワード機能を設定する  P.131
- ・ パスワードを入力する  P.132
- ・ パスワードを変更 / 削除する  P.133

## パスワード機能を設定する

## パスワードを設定する

管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを設定するときは、以下の操作を行ってください。

ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときのみ設定できません。

- 1 BIOS セットアップを起動します。  
「BIOS セットアップを起動する」( P.119)
- 2  を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3  または  でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、 を押します。  
パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

または

ユーザー用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

- 4 設定したいパスワード(半角英数字、8文字まで)を入力します。  
英字の大文字、小文字の区別はありません。  
入力した文字は、表示されません。

 重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

管理者用パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

## アドバイス

### 確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、**[Esc]**を押してください。

## アドバイス

### 誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示されピープ音が鳴りません。この場合は、キーボードやフラットポイント(マウス)が一切反応しなくなるので、いったんMAINスイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直してから、正しいパスワードを入力してください。

### 「ユーザー用パスワード」でBIOSセットアップを起動すると

設定できる項目が制限されます。

### Windows98で設定するには

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の左をにしても、サスペンドから復帰するときのパスワードを設定できます。この場合は、BIOSで設定したパスワードではなく、Windows98のパスワードを入力してください。

### 5 **[Enter]**を押します。

カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。

### 6 確認のため、設定したパスワードをもう一度入力します。

正しく入力してください。

### 7 **[Enter]**を押します。

「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

### 8 **[Enter]**を押します。

これでパスワードが設定されました。

## パスワードを入力する



パスワード機能を設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が要求されます。

- ・ BIOS セットアップを起動するとき
- ・ 本パソコンを起動するとき
- ・ サスペンドから復帰するとき

### BIOSセットアップや本パソコンの起動時のパスワード入力

「パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。設定してあるパスワードを入力して、**[Enter]**を押してください。

### レジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示LCDにとが交互に点滅します。この状態では、フラットポイント(マウス)とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力してください。

正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイント(マウス)は使えません。

### 重要

#### USB規格のオプション機器について

「レジューム時のパスワード」によるセキュリティの対象外となります。

そのため、USBマウスなどのUSB規格のオプション機器は、パスワードを入力しなくても使用できます。

## パスワードを変更 / 削除する

### パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、以下の操作を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。  
「BIOS セットアップを起動する」(☛P.119)
- 2  を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3  または  でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、 を押します。  
パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

または

ユーザー用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

- 4 設定してあるパスワードを入力し、 を押します。  
カーソルが、「新しいパスワードを入力して下さい。」の欄に移動します。
- 5 新しく設定したいパスワード(半角英数字、8文字まで)を入力し、 を押します。  
英字の大文字、小文字の区別はありません。  
カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。

#### 重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

- 6 確認のため、新しく設定したパスワードをもう一度入力し、 を押します。  
「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。
- 7  を押します。  
これで新しいパスワードが設定されました。

### パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」(☛P.133)の手順5と6で、何も入力せずに  を押してください。

#### アドバイス

入力したパスワードが間違っていたとき

「パスワードが正しくありません。」というメッセージが表示されます。 を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、 を押してください。

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示されビープ音が鳴ります。この場合は、キーボードやフラットポイント(マウス)が一切反応しなくなるので、いったんMAINスイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直してBIOSセットアップを起動し直してください。なお、BIOSセットアップの起動時にも、パスワードの入力が要求されます。

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。 を押して、もう一度手順5からやり直してください。設定を中止するときは、 を押してください。

「ユーザー用パスワード文字数」が設定されているとき



「ユーザー用パスワード文字数」(☛P.126)を設定している場合は、設定されている文字数よりも短い文字数のパスワードは設定できません。

## 6

## BIOS が表示するメッセージ一覧

本パソコンは、電源を入れたときや再起動したときなどに、ハードウェアに異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的にチェックし、その結果をメッセージとして黒い画面に表示します。

ここでは以下のことを説明します。

- ・メッセージ一覧  P.134
- ・メッセージが表示されたときは  P.139

## メッセージ一覧

メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

## 正常時のメッセージ

- ① <ESC> キー：自己診断画面 / <F12> キー：起動メニュー / <F2> キー：BIOS セットアップ

起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に **[Esc]** を押すと起動時の自己診断画面が表示されます。また、**[F2]** を押すと、BIOS セットアップが起動し、**[F12]** を押すと「起動メニュー」という画面が表示されます。この場合は起動するドライブを  または  で選択して、**[Enter]** を押してください。「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。

## 起動メニュー

- 1 . +フロッピーディスクドライブ
- 2 . +ハードディスクドライブ
- 3 . ATAPI CD-ROMドライブ

<BIOSセットアップを起動>

- ② <F12> キー：起動メニュー / <F2> キー：BIOS セットアップ  
起動時の自己診断画面の下に表示され、このメッセージが表示されている間に **[F12]** を押すと自己診断終了後に「起動メニュー」が表示され、**[F2]** を押すと、BIOS セットアップが起動します。
- ③ BIOS セットアップを起動しています ...  
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- ④ nnnnM システムメモリ テスト完了。  
システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ⑤ nnnnK メモリキャッシュ テスト完了。  
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ⑥ システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。  
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- ⑦ マウスが初期化されました。  
マウス機能が初期化され、フラットポイント(マウス)が使えるようになったことを示しています。

## アドバイス

正常時のメッセージを表示するには

「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、**[Esc]** を押します。

起動時に常に表示させたいときは、BIOS セットアップの「起動」メニューで、「起動時の自己診断画面」を「表示する」に設定します。





## エラーメッセージ

### アドバイス

これ以外のメッセージが表示されたとき

電源を入れ直しても同じメッセージが表示される場合は、「メッセージが表示されたときは」(P.139)をご覧ください。

それでも同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ① Invalid system disk  
Replace the disk, and then press any key  
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。  
フロッピーディスクを取り出して、などを押してください。
- ② Non-System disk or disk error  
Replace and press any key when ready  
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。  
フロッピーディスクを取り出して、などを押してください。
- ③ Operating system not found  
OSが見つからなかったことを示しています。  
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブにOSが正しくインストールされているかを確認してください。
- ④ システムメモリエラー。オフセットアドレス: xxxx  
誤りビット: zzzz zzzz  
システムメモリのテスト中に、アドレスxxxxでエラーが発見されたことを示しています。  
メモリを交換した場合などは、メモリの取り付けを確認して、もう一度電源を入れ直してください。  
「メモリを交換する」(P.90)  
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑤ 拡張メモリエラー。オフセットアドレス: xxxx  
誤りビット: zzzz zzzz  
拡張メモリのテスト中に、アドレスxxxxでエラーが発見されたことを示しています。  
メモリを交換した場合などは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。  
「メモリを交換する」(P.90)  
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑥ メモリキャッシュのエラーです。 - キャッシュは使用できません。  
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑦ キーボードコントローラのエラーです。  
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑧ キーボードエラーです。  
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。  
テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- 9 フロッピーディスク A のエラーです。  
フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。  
もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示される  
ときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、または  
ご購入元にご連絡ください。
- 10 ディスクエラーです。: ハードディスク n  
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。  
BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目  
が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが  
表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービ  
ス、またはご購入元にご連絡ください。
- 11 システムタイマーのエラーです。  
システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセン  
ター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- 12 リアルタイムクロックのエラーです。  
リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセン  
ター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- 13 システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定さ  
れました。  
CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定され  
たことを示しています。  
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保  
存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パー  
ソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡  
ください。
- 14 前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。  
前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定さ  
れたことを示しています。  
起動途中で電源を切ってしまったたり、または BIOS セットアップで誤った値を設定し  
て起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そ  
のまま起動する場合は [F1] を押してください。BIOS セットアップを起動して設定を  
確認する場合は [F2] を押してください。
- 15 <F1> キー：継続 / <F2> キー：BIOS セットアップ  
起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージ  
が表示されます。[F1] を押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、[F2]  
を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- 16 日付と時刻の設定を確認してください。  
日付と時刻の設定値が不正です。  
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- 17 パスワードで保護されています。: ハードディスク n  
取り付けられたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていること  
を示しています。  
そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パス  
ワード」(P.126) を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない  
場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。

- 18 サポートされないタイプのメモリが検出されました。  
本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。  
メモリを交換した場合は、元のメモリに戻して、もう一度電源を入れ直してください。  
「メモリを交換する」(☛P.90)  
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMイン  
フォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- 19 メモリタイプのエラーです。: SPDが66MHzのメモリを示しています。  
本システムには100MHzのメモリが必要です。電源を落としてください。  
本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。  
メモリを交換した場合は、元のメモリに戻して、もう一度電源を入れ直してください。  
「メモリを交換する」(☛P.90)  
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMイン  
フォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- 20 SPDが見つかりませんでした。-メモリ速度が不明です。  
システムを正しく動作させるためにはSPDが必要です。  
メモリ速度100MHzで起動しますか?  
<Y>を押すとこのまま起動し、<N>を押すとシステムを停止します。  
メモリのSPDデータを検出できなかったことを示しています。  
[N]を押して電源を切り、メモリを交換した場合は元のメモリに戻して、もう一度電  
源を入れ直してください。  
「メモリを交換する」(☛P.90)  
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMイン  
フォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- 21 SPDが見つかりませんでした。-メモリ速度が不明です。  
メモリ速度100MHzで起動します。  
メモリのSPDデータを検出できなかったことを示しています。  
メモリを交換した場合は元のメモリに戻して、もう一度電源を入れ直してください。  
「メモリを交換する」(☛P.90)  
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMイン  
フォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- 22 ハードディスク上のSave To Disk領域が見つかりませんでした。  
Save To Disk機能を使用するためには、Save To Disk領域を作成してく  
ださい。  
ハードディスク上に、Save To Disk領域が確保されていないことを示しています。  
「Save To Disk領域」(☛P.149)
- 23 ハードディスク上のSave To Disk領域が不足しています。  
Save To Disk機能を使用するためには、Save To Disk領域を作成し直し  
てください。  
ハードディスク上のSave To Disk領域の容量が不足しているため、Save To Disk  
機能を使用できないことを示しています。  
「Save To Disk領域」(☛P.149)
- 24 ハードディスクが検出されませんでした。  
Save To Disk機能は使用できません。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセン  
ター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ⑳ 不明な Save To Disk エラーが発生しました。  
Save To Disk 機能は使用できません。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ㉑ ハードディスクからの読み取りに失敗しました。  
Save To Disk 機能は使用できません。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ㉒ ハードディスクへの書き込みに失敗しました。  
Save To Disk 機能は使用できません。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ㉓ ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。  
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。  
「Save To Disk 領域」( P.149 )
- ㉔ Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかったため、システム状態を復元できませんでした。  
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。  
<F1> キーを押すと、このまま起動します。
- ㉕ Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。  
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。  
<F1> キーを押すと、このまま起動します。

## イベントログメッセージ

主なイベントログメッセージについて説明します。

- ・訂正不可能なメモリエラー：xxxx
- ・POST エラー：xxxxxxxx xxxxxxxx

上記のメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

## メッセージが表示されたときは

メッセージが表示された場合は、「メッセージ一覧」(P.134)をご覧になって対処してください。表示されたメッセージが一覧にない場合や、対処方法が分からない場合には、次の手順に従って処置を行ってください。

### 1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOSセットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOSセットアップの該当する項目の設定値を確認してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOSセットアップの設定値をご購入時の設定に戻して、起動し直してください。

「ご購入時の設定に戻す」(P.122)

### 2 オプション機器を取り外します。

オプション機器を取り付けている場合には、すべてのオプション機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

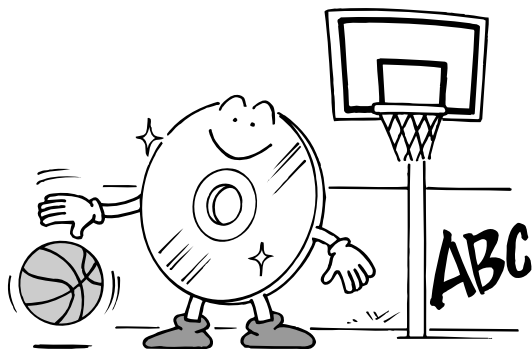
それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

### 3 取り外したオプション機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外したオプション機器を1 つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号 (IRQ) を使用するオプション機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処置を行っても、まだ同じメッセージが表示される場合には、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。



# 第 6 章

---

## 技術情報

本パソコンの仕様について説明しています。

1. 仕様一覧 .....	142
2. Save To Disk 領域 .....	149
3. 赤外線通信について .....	152
4. モデムについて .....	155
5. ドライバのインストール .....	158
6. その他の注意事項 .....	169

## 仕様一覧

- ・ 本体 ◀P.142
- ・ モデム ◀P.144
- ・ 携帯電話接続用 USB ケーブル ◀P.145
- ・ リソース一覧 ◀P.145
- ・ コネクタのピン配列と信号名 ◀P.146
- ・ CRT ディスプレイの走査周波数 ◀P.147

## 本体

製品名称	FMV-BIBLO MF3/500X 1	FMV-BIBLO MF3/45 1	
CPU 2	モバイル Pentium® III プロセッサ 500MHz	モバイル Intel®Celeron™ プロセッサ 450MHz	
キャッシュメモリ	32KB+256KB (CPU 内蔵)	32KB+128KB (CPU 内蔵)	
BIOS ROM	512KB (Boot block type flash ROM)		
メインメモリ	標準 64MB/最大 256MB (SDRAM) (拡張 RAM モジュール 64/128/256MB、スロット × 1)		
内蔵ハードディスクドライブ	2.5 インチ 12.0GB		
表示機能	画面制御	VGA (Trident Cyber9525DVD)	
	VRAM	2.5MB (Trident Cyber9525DVD に内蔵)	
	液晶ディスプレイ 3 12.1 インチ TFT カラー	1024 × 768 ドット (ドットピッチ 0.2402 mm)	800 × 600 ドット (ドットピッチ 0.3075 mm)
	色数	256 色 (仮想スクリーンモード) 65536 色 (MF3/45 のみ仮想スクリーンモード)	
	・ 1280 × 1024 ドット時	1677 万色 4	
	・ 800 × 600 ドット時	1677 万色 4	
	・ 640 × 480 ドット時	1677 万色 4	
CRT 表示	256 色 65536 色 1677 万色 1677 万色		
同時表示	256 色 (液晶: 仮想スクリーンモード) 65536 色 (MF3/45 のみ液晶: 仮想スクリーンモード) / 65536 色 (CRT) 1677 万色 (液晶 4) / 1677 万色 (CRT) 1677 万色 (液晶 4) / 1677 万色 (CRT)		
音源機能	PCM (16 ビットステレオ) 音源、FM エミュレーション音源 内蔵スピーカー (ステレオ) 内蔵マイク (モノラル) ラインイン・ジャック (ステレオ)、ヘッドホン・ジャック (ステレオ)、 マイクイン・ジャック (モノラル)		
キーボード	一体型 OADG 配列準拠 92 キー Windows キー・アプリケーションキー付き キーピッチ:18mm キーストローク:2.2mm		
内蔵ポインティングデバイス	フラットポイント (静電誘導式)		
内蔵モデム 5	データ:最大56Kbps (K56flex/V.90) / FAX:最大14.4Kbps		



## アドバイス

## ハードディスク容量の換算値

本書のハードディスク容量は、1MB=1000<sup>2</sup>byte、1GB=1000<sup>3</sup>byte 換算値です。1MB=1024<sup>2</sup>byte、1GB=1024<sup>3</sup>byte 換算のものとは表記上同容量でも、実容量は少なくなりま

ずるのでご注意ください。



製品名称	FMV-BIBLO MF3/500X 1	FMV-BIBLO MF3/45 1
インターフェース		
モバイルマルチベイ	専用 88 ピン + 68 ピン	
PC カード	PC Card Standard 準拠 TYPE / x 1 スロット CardBus/ZV ポート対応	
外部 CRT	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン	
USB 6	USB コネクタ 4 ピン x 1	
モデム	RJ-11	
赤外線ポート	IrDA1.1 準拠 x 1 (最大 4Mbps)	
ヘッドホン出力	3.5mm ステレオ・ミニジャック x 1	
ライン入力	3.5mm ステレオ・ミニジャック x 1	
マイク入力	3.5mm モノラル・ミニジャック x 1	
コネクタボックス	専用 100 ピン (コネクタボックス専用)	
コネクタボックス	インターフェース	
	外部 CRT	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン
	パラレル	ECP 対応 D-SUB 25 ピン
	シリアル	RS-232C D-SUB 9 ピン (16550A 互換)
	キーボード	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
	マウス	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
	外部 FDD	専用 26 ピン
	USB 5	USB コネクタ 4 ピン x 1
電源供給方式	AC アダプタまたはリチウムイオンバッテリー	
バッテリー稼働時間	約 2.7 時間 (本体のみ) / 約 6.0 時間 (本体 + 増設用内蔵バッテリーユニット)	
バッテリー	急速 7	約 4 時間 (バッテリー 1 個時) / 約 6 時間 (バッテリー 2 個時)
充電時間	標準 8	約 10 時間 (バッテリー 1 個時) / 約 16 時間 (バッテリー 2 個時)
消費電力	約 40W 以下 (AC 運用時)	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 (9)	S 区分 0.00092	S 区分 0.0010
動作環境	温度	+5 ~ 35
	湿度	20 ~ 80%
状態表示 LCD	反射型	
チルト	なし	
盗難防止用ロック	あり	
外形寸法	W288.0 x D225.0 x H23.5 ~ 31.0mm	W288.0 x D225.0 x H23.5 ~ 29.5mm
重量	約 1.7kg (モバイルマルチベイカバー挿入時)	
サポート OS	Windows98 および WindowsNT4.0 10	

(本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

- 以下、特に記述のない場合は、本機の代表的構成 (本体に内蔵バッテリーユニット、モバイルマルチベイに CD-ROM ドライブ、AC アダプタ運用) における仕様とする。
- アプリケーションによっては CPU 名表記が異なる場合があります。
- ・ TFT 液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上 (解像度 1024 x 768 の場合) または 144 万個以上 (解像度 800 x 600 の場合) の画素 (ドット) より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。  
・ 液晶ディスプレイは、その特性上、温度変化などで多少むらが発生することがあります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- ディザリング機能 (擬似的に色を表示する機能) によって、1677 万色で表示されます。
- 詳細仕様は後述 (P.144)。
- すべての USB 規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
- MAIN スイッチ OFF またはシャットダウン時またはサスペンド時。ただし、使用条件により充電時間は異なる。
- 装置動作中。ただし、使用条件により充電時間は異なる。
- サスペンドモード (充電なし。AC アダプタを含む)。  
エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- ・ Service Pack 5 以降  
・ WindowsNT4.0 をお使いになるときは、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp/>) をご覧ください。  
・ WindowsNT4.0 にした場合、以下の機能などをサポートしておりません。また、搭載アプリケーションの動作は保証できません。  
・ 携帯電話 / PHS 接続  
・ 赤外線通信  
・ 省電力機能  
・ CardBus 対応の PC カード  
・ ZV ポート対応の PC カード  
・ ワンタッチボタン  
・ USB  
・ MIDI 再生 / FM エミュレーション音源  
・ 動作中・サスペンド中の PC カードのセット / 取り出し

## モデム

品名	Fujitsu LB RWModem V.90 56K J		
通信方式	2線式 全二重 (FAXモードでは2線式 半二重)		
通信規格	データモード	K56flex ITU T V.90, V.34, V.32bis, V.32, V.22bis	
	FAXモード	ITU T V.17, V.29, V.27ter, V.21ch2	
通信速度	V.90モード	受信	56000, 54667, 53333, 52000, 50667, 49333, 48000, 46667, 45333, 44000, 42667, 41333, 40000, 38667, 37333, 36000, 34667, 33333, 32000, 30667, 29333, 28000bps
		送信	33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400bps
	K56flexモード	受信	56000, 54000, 52000, 50000, 48000, 46000, 44000, 42000, 40000, 38000, 36000, 34000, 32000bps
		送信	31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400bps
	データモード	33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 1200bps	
	FAXモード	14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 300bps	
同期方式	調歩同期		
データ転送プロトコル	MNP class 4 / 5 ITU T (CCITT) V.42 / V.42bis		
FAX インターフェース	TIA/EIA578 (class1)		
最大端末速度	115200bps		
バスインターフェース	PCI		
使用環境条件	パソコン本体による (温度: 5 ~ 35 (結露がないこと))		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動速度検出</li> <li>・ 発信音、呼出し音、話中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状態を示す応答音の検出</li> <li>・ トーン式 / パルス式ダイヤルの自動選択</li> <li>・ ナンバーディスプレイ対応 (Windows98のみサポート)</li> </ul>		

- ・ 本モデムはWindows98、WindowsNT4.0以外のOSでの動作はサポートしていません。
- ・ K56flexはLucent Technologies社、Conexant Systems Inc.が提唱している通信規格です。
- ・ V.90およびK56flexでの接続においては、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- ・ 56000bpsはV.90およびK56flexの理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90による33600bps (K56flexは31200bps) を超える通信速度は受信時のみで、V.90送信時は33600bps (K56flexは31200bps) が最高速度になります。  
日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては、同規格での通信が行えない場合があります。
- ・ MS-DOSモードではお使いになれません。

## 携帯電話接続用 USB ケーブル

適用回線	デジタル携帯・自動車電話
伝送方式	RCR 標準規格 27D 準拠 (携帯電話) RCR 標準規格 28 準拠 (PHS)
同期方式	調歩同期
通信速度	データモード: 9600bps (無線圧縮効果により変動) FAX モード: 4800bps (ECM 時、9600bps) パケット: 28800bps Doccimo PHS: 32K: 64K (PIAFS2.0 対応)
エラー訂正	MNP Class4, 10, ITU-T V.42
データ圧縮	MNP Class5, ITU-T V.42bis
FAX インターフェース	EIA / TIA578 (Class1)

## リソース一覧

### アドバイス

現在のリソースを確認するには

オプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 𠄎(システム)をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が回転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。リソースの値の一覧が表示されます。

本パソコンの割り込み番号 (IRQ)、DMA チャンネルをどのハードウェアが使っているかの一覧です。

本パソコンご購入時の割り込み番号 (IRQ)、DMA チャンネルは、次のように設定されています。ご使用の状態によっては、異なることがあります。

### 割り込み番号 (IRQ)

IRQ	使用状況
0	システムタイマー
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	赤外線シリアルポート
4	通信ポート (COM1)
5	空き
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート
8	システム CMOS / リアルタイムクロック
9	CardBus Controller / 内蔵モデム / USB ホストコントローラ / サウンド / ディスプレイ
10	空き
11	空き
12	ポインティングデバイス
13	数値データプロセッサ
14	IDE コントローラ
15	空き

### DMA チャンネル

DMA	使用状況
0	空き
1	空き
2	フロッピーディスクコントローラ
3	赤外線シリアルポート
4	DMA コントローラ
5	空き

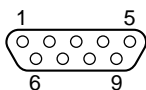
6

技術情報 (仕様一覧)

# コネクタのピン配列と信号名

## シリアルコネクタ

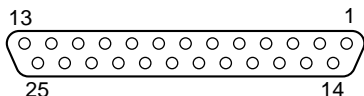
(D-SUB9 ピン、オス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケータ

## パラレルコネクタ

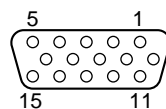
(D-SUB25 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	選択
18	GND	-	グラウンド
19	GND	-	グラウンド
20	GND	-	グラウンド
21	GND	-	グラウンド
22	GND	-	グラウンド
23	GND	-	グラウンド
24	GND	-	グラウンド
25	GND	-	グラウンド

## CRTコネクタ

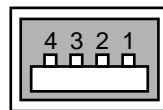
(ミニ D-SUB15 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5	GND	-	グラウンド
6	GND	-	グラウンド
7	GND	-	グラウンド
8	GND	-	グラウンド
9	+ 5V	-	電源 1
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

1 : MAX 300mA

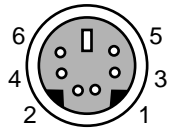
## USBコネクタ



ピン信号	信号名	方向	説明
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

## 拡張キーボード/マウスコネクタ

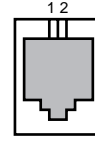
(ミニ DIN6 ピン)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	KDATA	入出力	データ
2	MDATA	入出力	データ
3	GND	-	グラウンド
4	+ 5V	-	電源
5	KCLK	入出力	クロック
6	MCLK	入出力	クロック

## モジュラーコネクタ (モデム)

(RJ-11)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

## CRT ディスプレイの走査周波数

### CRT 表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数を選ぶことができます。

ただし、CRT ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示に切り替えて、選び直してください。

切り替えかたは「ディスプレイの表示を切り替える」(P.108)をご覧ください。

解像度 (ドット)	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	31.5	60
	37.5	75
	43.3	85
800 × 600	37.9	60
	46.9	75
	53.6	85
1024 × 768	48.4	60
	60.0	75
	68.7	85
1280 × 1024	64.0	60

## 同時表示の場合

「表示デバイス」タブで、「デフォルトリフレッシュレート」をにした場合

CRT ディスプレイの走査周波数は以下のように設定できます。

解像度 (ドット)	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	31.5	60
	37.5	75
	43.3	85
800 × 600	37.9	60
	46.9	75
	53.6	85
1024 × 768	48.4	60
	60.0	75
	68.7	85
1280 × 1024	64.0	60

「表示デバイス」タブで、「デフォルトリフレッシュレート」をにした場合

CRT ディスプレイの走査周波数は解像度や色数に関係なく一定です。

機種名	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
MF3/500X	48.4	60
MF3/45	37.9	

### 重要

CRT ディスプレイ表示に切り替えて正常に表示されないとき

CRT ディスプレイによってサポートする走査周波数が異なるため、正常に表示されない場合があります。

正常に表示するには、CRT ディスプレイのマニュアルでCRT ディスプレイがサポートする走査周波数を確認し、リフレッシュレートを変更してください。

「リフレッシュレートを変更する」(P.111)

ここでは以下のことを説明します。

- ・ Save To Disk 領域について ←P.149
- ・ Save To Disk 領域の容量 ←P.149
- ・ Save To Disk 領域を変更する ←P.150

## Save To Disk 領域について

Save To Disk 機能では、作業状態（メモリの内容）をそのままハードディスクに保存します。本パソコンご購入時のハードディスクの中には、あらかじめ Save To Disk 機能用の保存場所が確保されています。この Save To Disk 機能用の保存場所を「Save To Disk 領域」といいます。

Save To Disk 領域は PHDISK コーティリティで変更することができますが、通常は変更する必要はありません。Save To Disk 領域を削除、または変更するときにお読みください。

Save To Disk 領域を削除、または変更して Save To Disk 領域が足りなくなったときは、Save To Disk 機能が使えなくなります。

## Save To Disk 領域の容量

Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量 = メインメモリ容量 + (ビデオメモリ容量 / その他)

本パソコンでは、メモリ容量を最大に拡張したときを想定して、ご購入時は、次の容量の Save To Disk 領域が設定されています。

Save To Disk 領域の容量	最大メインメモリの容量（増設時）	ビデオメモリ容量 / その他
約 266MB	256MB	約 10MB

### アドバイス

#### 「ファイル形式」と「区画設定」

Save To Disk 領域には「ファイル形式」と「区画設定」があります。本パソコンご購入時は、あらかじめ、Save To Disk 領域が「区画設定」で作成されています。

#### ファイル形式で使うときの注意

「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮プログラムで圧縮されたドライブ上では、Save To Disk 領域をファイル形式で使うことはできません。Save To Disk 領域をファイル形式で作成しているときは、「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮機能は使用しないでください。

#### Save To Disk 領域に必要な容量

Save To Disk 領域には、メインメモリ容量とビデオメモリ容量以外に若干の作業容量が必要です。そのため、Save To Disk 領域の容量は、メインメモリ容量とビデオメモリ容量の合計よりも多くなっています。

## Save To Disk 領域を変更する

### アドバイス

#### Save To Disk 領域を作成するとき

Save To Disk 領域は、「ファイル形式」または「区画設定」のどちらか一方で作成できます。

#### 区画として Save To Disk 領域を作成するとき

- ・区画として Save To Disk 領域を作成するときは、FDISKユーティリティで MS-DOS 領域を作成する前に作成してください。
- ・「区画設定」で Save To Disk 領域を作成する場合は、「ファイル形式」で作成する場合よりも、大きな容量が必要になります。

#### Save To Disk 領域を作成したあとは再起動してください


Save To Disk 領域を作成した場合は、作成後に必ず再起動してください。

再起動せずに Save To Disk 機能を使うと、正しく動作しない場合があります。

#### 区画として作成した Save To Disk 領域を増やすとき







区画として作成した Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量を FDISK ユティリティを使って減らす必要があります。ただし、FDISK によって MS-DOS 領域の容量を変更すると、それまでの MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。

作業の前には、必要なデータのバックアップを行ってください。

Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行うには、PHDISKユーティリティを使用します。PHDISKユーティリティ (PHDISK.EXE) は、「リカバリ CD-ROM 1/2」の¥PHDISK フォルダに入っています。

また、Windows 98 の場合、PHDISK ユティリティは、Windows モードが起動されていると正しく動作しません。

### PHDISK ユティリティを起動する

- 1 パソコンの電源が入っている場合は、電源を切ります。
- 2 キーボードの  の位置を確認します。  
パソコンの電源を入れたあと、すぐこのキーを押せるようにしてください。
- 3 パソコンの電源を入れ、Fujitsu のロゴマークが表示されている間に、 を押します。  
しばらくすると、「起動メニュー」が表示されます。
- 4  「リカバリ CD-ROM 1/2」をセットします。
- 5  または  で「3. ATAPI CD-ROM ドライブ」を選択し、 を押します。  
しばらくすると画面に「Windows 98 リカバリメニュー」が表示されます。
- 6  (終了) を押します。
- 7 「Z:¥COMMAND >」のあとに、phdisk とオプションを入力し、 を押します。

#### コマンド

PHDISK { オプション }

└── /CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)  
    /INFO  
    /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)  
    /REFORMAT /PARTITION

PHDISK をオプションなしで起動すると、簡単な使いかた、現在作成されている領域などが表示されます。

なお、Save To Disk 領域の変更を行ったあとは、メッセージに従って操作をしてください。本パソコンが再起動します。

#### オプション

それぞれのオプションは、先頭の 1 文字だけでも有効です。たとえば、「/CREATE」と「/C」は同じことです。また、「/PARTITION」と「/P」も同じです。

/の前は、 を 1 回押してください。

それぞれのオプションの詳細は以下のとおりです。

作成 : /CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)  
Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使います。  
/CREATE /FILE と指定すると、Save To Disk 領域をファイル形式で作成します。  
/CREATE /PARTITION と指定すると、Save To Disk 領域を区画設定で作成します。  
Save To Disk 領域の容量は、現在のシステム構成に最適な容量の領域を作成します。



区画設定で Save To Disk 領域を作成したときは、作成が終わると、その領域のフォーマットを開始します。フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。

**削除** : /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)  
すでに作成している Save To Disk 領域を削除する場合に使用します。  
/DELETE /FILE と指定すると、ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。  
/DELETE /PARTITION と指定すると、区画設定で作成された Save To Disk 領域を削除します。  
Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、/DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、/CREATE によって現在搭載されているメモリ容量の Save To Disk 領域を作成します。

**再フォーマット** : /REFORMAT /PARTITION  
区画として作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。  
このオプションは、Save To Disk 機能を使っていて、読み出しエラーや書き込みエラーが起こった場合に使ってください。すでに作成している Save To Disk 領域を再フォーマットします。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。

**詳細情報** : /INFO  
すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。

表示例 :

・区画設定で作成した場合

Save To Disk 領域詳細情報:

開始セクタ:XXXXXX (ヘッド X、シリンダ XXX、セクタ X)  
全容量:XXXXXX バイト

現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

・ファイル形式で作成した場合

Save To Disk 領域詳細情報:

現在の Save To Disk 領域は、ファイル名が C : ¥SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、及び読取専用です。




現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

## 3

## 赤外線通信について

ここでは、赤外線通信についてと、赤外線通信用のアプリケーション「Intellisync」(インテリシンク)について説明しています。赤外線通信を行う前にお読みください。

- ・赤外線通信の概要  P.152
- ・Intellisync  P.152
- ・制限事項  P.154

## 赤外線通信の概要

赤外線通信とは、本パソコンの赤外線通信ポートを使用して、赤外線通信機能をもった他のパソコンと、ケーブルを接続することなく通信できる機能です。

赤外線通信を行う場合は、互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能に設定し、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。距離は20～50cmの範囲内での使用をお勧めします。

## 赤外線通信をするときの注意

- ・赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。
- ・互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。
- ・データの転送中に互いのパソコンを動かすと、データ転送が失敗する場合があります。
- ・次のようなときは、正常に通信ができない場合があります。
  - 互いの赤外線通信ポートが、真正面に向き合っていない場合
  - 互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎたり、間に遮断物があるとき
  - テレビ、ラジオなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作している場合
  - 直射日光や蛍光灯・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートにあたっている場合
  - 赤外線通信ポートが汚れている場合

## Intellisync

本パソコンには、赤外線通信用のアプリケーションとして、「Intellisync」(インテリシンク)がインストールされています。「Intellisync」を使うことにより、2台のパソコンを赤外線通信アダプタやケーブルで接続し、ファイルの転送などを簡単に行うことができます。

なお、「Intellisync」を使った通信について詳しくは、「Intellisync」のマニュアルをご覧ください。

  『Intellisync for Notebooks クイック・リファレンス・ガイド』

## 転送速度について

「Intellisync」を使用すると、最大4Mbpsの速度で通信できます。

転送速度は、通信相手のパソコンにより異なります。

- ・115Kbpsのパソコンと通信する場合  
自動的に115Kbpsモードで接続されます。
- ・4Mbpsのパソコンと通信する場合  
自動的に4Mbpsモードで接続されます。

 **アドバイス**  
ZAURUSとの通信  
について


「Intellisync」では、ZAURUSとの通信はサポートされていません。

## 本パソコンで Intellisync を使う前に

Intellisync をお使いになる前に、次の項目の設定を確認してください。

Windows 98 の標準の赤外線デバイスを使用不可の状態にする

次の手順で Windows 98 の標準の赤外線デバイスの設定を確認し、必要であれば変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (赤外線モニタ) をクリックします。  
「赤外線モニタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「オプション」タブをクリックします。
- 4 「赤外線通信を使用可能にする」が  になっていることを確認します。  
 になっているときはクリックして  にします。
- 5 「OK」をクリックします。

BIOS セットアップの設定を確認する

本パソコンご購入時は、BIOS セットアップは以下のように設定されています。うまく通信できない場合は、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「シリアル/パラレルポート設定」で、「赤外線通信ポート」の各項目が以下の設定になっているか確認してください。

- ・赤外線通信ポート : 使用する
- ・モード : FIR
- ・I/O アドレス : 2E8-2EF
- ・割り込み番号 : IRQ 3
- ・I/O アドレス : 118-11F
- ・DMA チャンネル : DMA 3

「BIOS セットアップの操作のしかた」(P.119)

コンピュータ名を変更する

「Intellisync」では、同じコンピュータ名どうしで通信を行うことができません。次の手順で通信相手のコンピュータ名を確認し、必要であればコンピュータ名を変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」の「Intellisync」の順にマウスポインタを合わせ、「接続設定マネージャ」をクリックします。  
「使用許諾同意書」が表示されます。  
表示されないときは、手順 3 へ進んでください。
- 2 「承諾する」をクリックします。  
「はじめに - 接続設定マネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「閉じる」をクリックします。  
「接続設定マネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「識別」タブの「コンピュータ名」を確認し、必要であれば変更します。
- 5 「OK」をクリックします。

## 制限事項

- ・ Windows98 を終了する前に、必ず「Intellisync」を先に終了させてください。
  - ・ データの通信中に赤外線通信ポートをふさぐなどして通信エラーが発生した場合は、次のようにしてください。そのままお使いになると、正常に通信できないことがあります。
    1. パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(☛P.62)をご覧ください、MAIN スイッチを切って( | 側にスライドして)ください。
    2. 10 秒ほど待ってから、MAIN スイッチを入れ、( | 側にスライドして)ます。
    3. Intellisync を起動します。
  - ・ 「Intellisync」のシンクロナイズ機能では、ファイル名に全角文字が含まれたファイルを指定すると、正しく動作しない場合があります。
  - ・ 「ファイル転送」機能のツールバーにある「一覧」ボタンのバルーンヘルプは表示できません。
  - ・ 赤外線通信中は、接続設定マネージャの「ローカルデバイス」タブの赤外線のプロパティを開いて「IR ウィザード」を行わないでください。
  - ・ 「TranXit」がインストールされている機種に「Intellisync」を上書きインストールした場合、表示されるウィンドウ内に「Transit」と誤記表示されます。
  - ・ ドライブとして割り当てられたネットワークコンピュータ名やボリュームラベルに全角の文字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
  - ・ 「ファイル転送」で接続先が表示されない場合は、次のように設定を変更してください。
    1. 「ファイル転送」の「オプション」メニューから「設定」をクリックします。
    2. 「セキュリティ」タブをクリックします。
    3. 「リソースアクセス」の「ドライブの詳細」を選択します。
- これで設定は終了です。

# モデムについて

ここでは以下のことを説明します。

- ・内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意 ←P.155
- ・電話回線の接続口の形状 ←P.156
- ・電話回線に電話機を取り付けているとき ←P.157
- ・認証番号の表示 ←P.157

## 内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意



**感電** 近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。



**感電** モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。

- ・モデムが使用可能な回線  
本モデムは、接続する電話回線の仕様がNTTの一般公衆電話回線と電氣的に同じでないいと正常に動作しません。
- ・ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません  
本モデムが接続できる回線は、一般のNTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTTの電話回線と電氣的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカーや保守業者にお問い合わせください。
- ・デジタル回線に接続する場合  
本モデムはデジタル網（ISDN等）やデジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続することはできません。本モデムが故障する恐れがありますので、ターミナルアダプタなどを經由して、アナログポートに接続してお使いください。
- ・PBXに接続する場合  
PBXに接続される通信回線の仕様がNTTの電話回線と電氣的に異なる場合、本モデムがお使いになれないことがあります。例えば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについてはNTT回線の仕様に準拠しています。接続する前に、お使いのPBXの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。  
ただし、“0”発信によって外線に接続するPBX内線電話の場合、ご使用のアプリケーションの設定で初期化コマンドに「ATX3」を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できることがあります。
- ・キャッチホン1契約をしている場合  
キャッチホン1契約をしている場合は、パソコン通信やFAX送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その際、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン2に変更するか、またはキャッチホン1をご使用にならないでください。
- ・通信アプリケーションご使用時の注意  
通信アプリケーションでデータのアップロード・ダウンロードを行う際には、パソコンをサスペンド状態にならないように設定してください。アップロード・ダウンロードの途中でサスペンド状態になると、データ転送が中断することがあります。

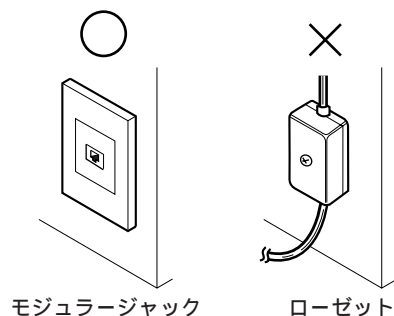
- ・国内でご使用ください  
本モデムは、日本国内での規格に基づいて設計されていますので、海外では使用できません。
- ・電源ケーブルなどは離してご使用ください  
電源ケーブルなどは、ノイズを発生して電話回線に影響をおよぼす場合があります。モデムをお使いになる際は、これらのノイズ源と回線を影響のない程度に離してお使いください。
- ・ナンバーディスプレイ対応の電話番号で接続する場合  
「184」「186」の電話番号をつけてダイヤルする場合、正常に接続できないことがあります。その場合は「184」「186」の電話番号と接続先の電話番号の間に「,」（半角のカンマ）を入れてダイヤルしてください。
- ・本モデムのATコマンドについて  
④「アプリケーションCD2」のPDFマニュアル（¥Modem¥4661 内蔵モデム取説）をご覧ください。PDFマニュアルの使いかたは、④『使いこなす本 ソフト編』の「付録3 PDFマニュアルの使いかた」をご覧ください。

## 電話回線の接続口の形状

一般的に電話回線の接続口には、「モジュラージャック」と「ローゼット」と呼ばれる2種類があります。モジュラーケーブルは、接続口がモジュラージャックの場合のみ接続できます。

ローゼットなどをモジュラージャックに取り替える場合は、認定を受けた工事担当者またはその監督の下で作業を行ってください。

また、最寄りのNTTの営業所または支店へ取り替え工事を依頼することもできます。



## 電話回線に電話機を取り付けているとき

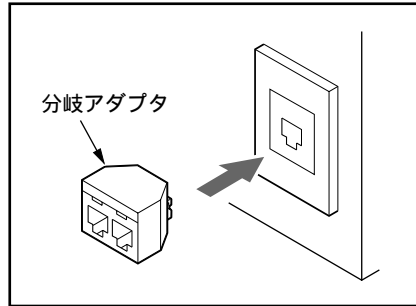
電話回線と本パソコンを接続するときは、電話機のモジュラーケーブルは取り外してください。

### アドバイス

#### 電話機のモジュラーケーブルを取り外したくないとき

市販の分岐アダプタを利用すると、本パソコンと電話機の両方をモジュラージャックに接続できます。分岐アダプタを利用するときは、以下のことに注意してください。

- ・パソコンと電話機で同時に電話回線を使うことはできません。
- ・インターネットやパソコン通信をしているときは、電話機の受話器をはずさないようにしてください。受話器がはずれると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。
- ・分岐アダプタの2つのモジュラージャックに、接続区別はありません。電話機、または本パソコンをどちらのモジュラージャックに接続してもかまいません。
- ・分岐アダプタを使用するときは、なるべく2分岐以内にしてお使いください。



#### モジュラーケーブルの長さが足りないとき

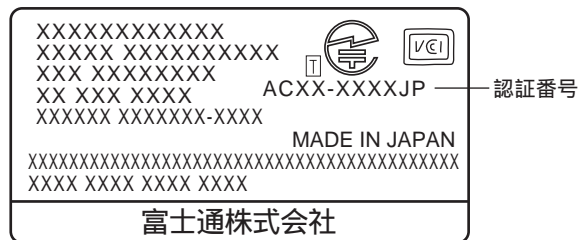
添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をお買い求めください。

#### 携帯電話やPHSで通信する場合

「携帯電話やPHSを接続する」(P.99)




## 認証番号の表示

本モデムの技術基準適合認証番号は、パソコン本体下面に表記されています。



# ドライバのインストール

ゲームなどをインストールすると、本パソコンに合わないドライバが自動的にインストールされてしまい、本パソコンが正しく動作しなくなることがあります。この場合、ドライバをインストールする必要があります。

- ・インストールのときに気をつけること  P.158
- ・ディスプレイドライバをインストールする  P.159
- ・サウンドドライバをインストールする  P.164

## インストールのときに気をつけること

### アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何も無いところで、右ボタンを1回押し、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。


「FM 便利ツール」を終了するには

「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」。「FM 便利ツール」の順にマウスポインタを合わせ、「5. 終わる」をクリックします。

「Virus Scan」や「PMSet98」を終了するには

タスクバーのアイコンにマウスポインタを合わせて右ボタンを1回押し、表示されたメニューの「終了」をクリックします。

スクリーンセーバーを「なし」に設定するには

 画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決! Q&A」

### アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしてチェックマークを外すと、アクティブデスクトップが解除されて Windows98 の標準画面に切り替わります。

インストール終了後、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

### アプリケーションやウィンドウの終了


「Windows98 へようこそ」画面など、開いているウィンドウや、実行中のアプリケーションをすべて終了させてください。タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。

また、何度もパソコンが再起動するので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

### スクリーンセーバーの解除

スクリーンセーバーを「なし」に設定してください。

### 「バージョンの競合」ウィンドウ

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず  「アプリケーション CD2」に入っているファイルがインストールされるように、「いいえ」を選んでください。



## ディスプレイドライバをインストールする

画面が正しく表示されないときは、ディスプレイドライバをインストールします。ディスプレイドライバのインストールは、⑥「アプリケーションCD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

「インストールのときに気をつけること」(☞P.158)

Windows98が起動しないときは、SafeモードでWindows98を起動してください。Windows98のセットアップ直後など、Windows98が起動しているときは、ディスプレイドライバをインストールします。

「ディスプレイドライバのインストール」(☞P.161)

### アドバイス

「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されないとき

**[Ctrl]**を押すタイミングが合わなかったことが考えられます。本パソコンを再起動して、手順3からやり直してください。

画面に何も表示されていない場合は、一度本パソコンの電源を切り、手順2から操作し直してください。それでも「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されるときは、本パソコンをSafeモードで起動できません。弊社パーソナルエコーセンター、またはFMインフォメーションサービスにご連絡ください。

#### Safeモードとは

Windows98を必要最低限の状態起動する方法です。ディスプレイなどの設定に問題が起きた場合、一時的に使用します。

#### Windows98が起動してしまったとき

手順4の操作を行わないまま30秒経過すると、自動的にWindows98が起動してしまいます。その場合は、本パソコンを再起動して、手順3からやり直してください。

#### エラーメッセージについて

Windows98が起動してから、いろいろなエラーメッセージが表示される場合があります。すべて「OK」をクリックしてください。


### SafeモードでWindows98を起動する


インストールする前に内蔵CD-ROMドライブユニットを取り付けてください。

「ユニットを交換する」(☞P.24)



けが CDをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

- 1 キーボードの **[Ctrl]** の位置を確認します。
- 2 パソコン本体の電源を入れます。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.60)
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示されたら、**[Ctrl]** を押し続けます。  
「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。
- 4  または  を押して「3. Safe mode」を反転表示させ、**[Enter]** を押します。  
しばらくすると、SafeモードでWindows98が起動し、Safeモードの説明が表示されます。
- 5 「デスクトップ」ウィンドウの「OK」をクリックします。
- 6 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 7  (画面) をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 8 「設定」タブをクリックします。
- 9 「詳細」をクリックします。  
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 10 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。  
「アダプタ」タブが表示されていないときは、「OK」をクリックし、もう一度「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしてください。「アダプタ」タブが表示されます。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11 「次へ」をクリックします。  
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 12 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックして  にします。
- 13 「次へ」をクリックします。
- 14 一覧から「ディスプレイアダプタ」を選び、「次へ」をクリックします。
- 15 製造元とモデルを以下のように選びます。  
製造元：「(標準ディスプレイ)」  
モデル：「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」
- 16 「次へ」をクリックします。  
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順18へ進んでください。
- 17 「はい」をクリックします。  
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 18 「次へ」をクリックします。  
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
- 19 「完了」をクリックします。  
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 20 「閉じる」をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 21 「閉じる」をクリックします。  
「続行しますか？」というウィンドウが表示されます。
- 22 「はい」をクリックします。  
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

## アドバイス

「コントロールパネル」ウィンドウに説明を表示させるには

再起動後に「コントロールパネル」ウィンドウを表示すると、左端に説明が表示されないことがあります。このときは、「コントロールパネル」ウィンドウで「表示」メニューをクリックし、「Web ページ」をクリックし、「Web ページ」をクリックして✓(チェックマーク)を付けてください。説明が表示されるようになります。

## 23 「はい」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

このあとは、次の「ディスプレイドライバのインストール」をご覧になり、正しいディスプレイドライバをインストールしてください。

### 重要

#### メッセージが表示されたとき

再起動後に「ディスプレイ設定に問題があります。」というメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックし、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「色」を「16色」に設定します。そのあと「OK」をクリックして「画面のプロパティ」ウィンドウを閉じ、本パソコンを再起動してください。

#### ハードウェアウィザードが始まるメッセージが表示されたとき



ドライバを削除したり、間違ったドライバをインストールしたりすると、「OKをクリックするとハードウェアウィザードが始まります。」というメッセージが表示されることがあります。その場合は、必ず「キャンセル」をクリックしてください。

## ディスプレイドライバのインストール

インストールする前に内蔵 CD-ROM ドライブユニットを取り付けてください。  
「ユニットを交換する」(☛P.24)



けが CDをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。  
けがの原因となることがあります。

- 1  「アプリケーション CD2」を CD-ROM ドライブにセットします。  
「セットする」(☛P.33)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3  (画面) をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「設定」タブをクリックします。
- 5 「詳細」をクリックします。  
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 6 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。  
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。

## アドバイス

「アダプタ」タブが表示されていないときは

「OK」をクリックして、「画面のプロパティ」ウィンドウに戻り、もう一度手順5からやり直してください。



## アドバイス

「続行しますか?」というメッセージが表示されたとき

「はい」をクリックしてください。

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき




1 「OK」をクリックします。

「この設定を保存しますか?」というメッセージが表示されます。

2 「はい」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。



3 手順 16 に進みます。

- 8 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックしてにします。
- 9 「次へ」をクリックします。  
「モデル」の一覧が表示されます。
- 10 「ディスク使用」をクリックします。  
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 11 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に e:¥trident と入力し、「OK」をクリックします。  
(e:には、お客様がお使いのCD-ROM ドライブ名を入力してください。)  
「ドライバ情報データベースの作成」ウィンドウが表示される場合があります。このウィンドウは、データベース作成後、自動的に表示されなくなります。
- 12 「Trident Cyber9525DVD PCI/AGP(W98.26)」が選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。  
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 14 へ進んでください。
- 13 「はい」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 14 「次へ」をクリックします。  
ファイルがコピーされます。
- 15 「完了」をクリックします。
- 16 「モニタ」タブをクリックします。
- 17 以下のように表示されているか、確認します。
  - ・ MF3/500X をお使いの方  
「ラップトップディスプレイパネル(1024 x 768)」
  - ・ MF3/45 をお使いの方  
「ラップトップディスプレイパネル(800 x 600)」表示されているときは、手順 27 へ進んでください。表示されていないときは、手順 18 へ進んでください。
- 18 「変更」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 19 「次へ」をクリックします。
- 20 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックしてにし、「次へ」をクリックします。
- 21 「すべてのハードウェアを表示」をクリックしてにします。
- 22 「製造元」に「標準モニタの種類」を選びます。
- 23 「モデル」を以下のように選び、「次へ」をクリックします。
  - ・ MF3/500X をお使いの方  
「ラップトップディスプレイパネル(1024 x 768)」
  - ・ MF3/45 をお使いの方  
「ラップトップディスプレイパネル(800 x 600)」「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 25 へ進んでください。

## アドバイス

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき

- 1 「OK」をクリックします。  
「この設定を保存しますか？」というメッセージが表示されず。
- 2 「はい」をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 3 手順 28 へ進みます。

- 24 「はい」をクリックします。  
ファイルがコピーされます。  
コピーが終わると、「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 25 「次へ」をクリックします。
- 26 「完了」をクリックします。
- 27 「閉じる」をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 28 「閉じる」をクリックします。  
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 29 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。  
再起動しない場合は、「スタート」メニューから、「Windows の終了」を実行し、本パソコンを再起動してください。
- 30 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 31 「名前」の右の欄に `e:¥trident¥setup.exe` と入力し、「OK」をクリックします。  
(e:には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。)  
「Welcome」ウィンドウが表示されます。
- 32 「Next」をクリックします。  
「User Information」ウィンドウが表示されます。
- 33 「Name」が表示されていることを確認し、「Company」に「FMV」と入力して、「Next」をクリックします。  
「Start Copying Files」ウィンドウが表示されます。
- 34 「Next」をクリックします。  
ファイルがコピーされます。コピーが終わると、「Setup Complete」ウィンドウが表示されます。
- 35 「Finish」をクリックします。
- 36 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。  
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 37 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 38 「アプリケーション CD2」を CD-ROM ドライブから取り出します。  
「取り出す」(  P.35 )
- 39 「コントロールパネル」ウィンドウの  (画面) をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 40 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
- 41 「アダプタ」タブをクリックします。

- 42 「アダプタとドライバの情報」の「ソフトウェアのバージョン」に「6.45.5441-121.98.26」と表示されていることを確認します。  
表示されていないときは、もう一度手順 1 からやり直してください。
- 43 「OK」を 2 回クリックします。
- 44 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。


お使いの状況に合わせて、画面の解像度と発色数を変更してください。

「画面の解像度や発色数を変える」( P.52 )

ご購入時は、MF3/500Xの解像度が1024×768ドット、MF3/45の解像度が800×600ドット、発色数はHigh Color(16ビット)です。

## サウンドドライバをインストールする

ゲームなどをインストールして音が正しく出なくなったときは、サウンドドライバをインストールします。

サウンドドライバのインストールは、「アプリケーションCD2」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。


「インストールのときに気をつけること」( P.158 )



### サウンドドライバのインストール




インストールする前に内蔵 CD-ROM ドライブユニットを取り付けてください。

「ユニットを交換する」( P.24 )



 け が CDをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。  
けがの原因となることがあります。

- 1  「アプリケーションCD2」を CD-ROM ドライブにセットします。  
「セットする」( P.33 )
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3  (システム) をクリックします。  
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 5 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の左の **+** をクリックします。  
一覧が表示されます。すでに表示されている場合は、クリックする必要はありません。

- 6 「Intel(r) 82440MX AC '97 Audio Controller-SigmaTel Codec」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。  
「Intel(r) 82440MX AC '97 Audio Controller-SigmaTel Codecのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 7 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 8 「次へ」をクリックします。  
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 9 「特定の場所にあるすべての……」をクリックしてにします。
- 10 「次へ」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11 「ディスク使用」をクリックします。  
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 12 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に e:¥sigma と入力し、「OK」をクリックします。  
(e:にはお客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)  
「デバイスの選択」ウィンドウが表示されます。
- 13 「Intel(r) 82440MX AC '97 Audio Controller-SigmaTel Codec」をクリックし、「OK」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 14 「Intel(r) 82440MX AC '97 Audio Controller-SigmaTel Codec」が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。  
ファイルがコピーされます。コピーが終わると「ハードウェアデバイス用に選択したドライブがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
- 15 「完了」をクリックします。  
「Intel(r) 82440MX AC '97 Audio Controller-SigmaTel Codecのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 16 「閉じる」をクリックします。  
「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 17 「閉じる」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。
- 18 CD-ROM ドライブから「アプリケーション CD2」を取り出します。
- 19 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。  
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 20 「再起動する」をクリックしてにし、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動されます。

続けて「ボリュームコントロール」の設定を行います。

### アドバイス

「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されたときは



「はい」をクリックします。

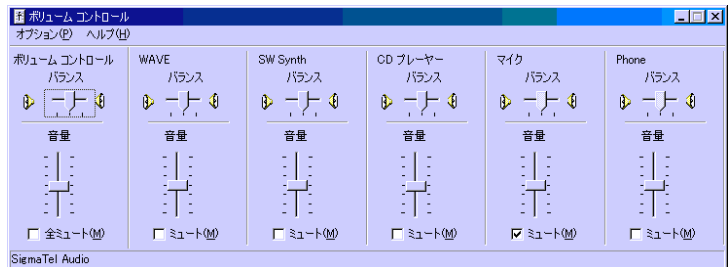
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されたときは

「e:¥sigma」と入力し、「OK」をクリックします。

## ボリュームコントロールの設定

以下の手順でご購入時の設定に戻してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテインメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。  
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。
- 2 「オプション」メニューをクリックし、「プロパティ」をクリックします。  
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「音量の調整」の「再生」をクリックして  にします。
- 4 「表示するコントロール」の以下の項目をクリックして  にし、それ以外はすべて  にして、「OK」をクリックします。
  - ・ 3D Depth
  - ・ ZV
  - ・ ライン入力
- 5 「ボリュームコントロール」ウィンドウで「ライン入力」の「ミュート」をクリックして  に、他の項目の「ミュート」をクリックして  にします。
- 6 「オプション」メニューをクリックし、「プロパティ」をクリックします。  
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 7 「音量の調整」の「再生」が  になっていることを確認します。
- 8 「表示するコントロール」の以下の項目をクリックして  にし、それ以外はすべて  にして、「OK」をクリックします。
  - ・ ボリューム コントロール
  - ・ WAVE
  - ・ SW Synth
  - ・ CD プレーヤー
  - ・ マイク
  - ・ Phone
- 9 「ボリュームコントロール」ウィンドウで「マイク」の「ミュート」をクリックして  にし、その他の項目の「ミュート」をクリックして  にします。
- 10 各音量のつまみを次のように設定します。




続けて「録音コントロール」の設定を行います。



## 録音コントロールの設定

以下の手順でご購入時の設定に戻してください。


- 1 「オプション」メニューをクリックし、「プロパティ」をクリックします。  
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「音量の調整」の「録音」をクリックしてにします。
- 3 「表示するコントロール」の以下の項目だけをにし、それ以外はすべてにして、「OK」をクリックします。
  - ・ CD プレーヤー
  - ・ ライン入力
  - ・ マイク
- 4 「マイク」の「選択」をクリックしてにします。
- 5 「オプション」メニューをクリックし、「トーン調整」をクリックしてチェックマークを付けます。
- 6 「マイク」の「トーン」をクリックします。  
「マイクの詳細設定」ウィンドウが表示されます。
- 7 「そのほかの調整」の項目の「1 マイクブースト(1)」をクリックしてにし、「閉じる」をクリックします。
- 8 「オプション」メニューの「トーン調整」をクリックしてチェックマークを外します。
- 9 各音量のつまみを次のように設定します。




続けて「モノラル出力」の設定を行います。

## モノラル出力の設定

以下の手順で、ご購入時の設定に戻してください。

- 1 「オプション」メニューをクリックし、「プロパティ」をクリックします。  
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「音量の調節」で「その他」をクリックしてにします。
- 3 「表示するコントロール」の以下の項目だけをにし、それ以外はすべてにし、「OK」をクリックします。
  - ・ マイク
- 4 「マイク」の「選択」をクリックしてにします。
- 5 マイクの音量のつまみを次のように設定します。



- 6 「ボリュームコントロール」ウィンドウ右上の (閉じるボタン) をクリックします。

## その他の注意事項

- ・ ACPIについて ←P.169
- ・ フラットポイントについて ←P.176
- ・ インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバについて (MF3/500Xのみ) ←P.177

### ACPI について

本パソコンご購入時は、省電力機能としてAPM (Advanced Power Management) モードに設定されています。本パソコンにはWindows98がインストールされているので、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) モードに変更することもできます。

#### 重要

必要のない方は設定を変更しないでください

本パソコンをACPIモードでお使いになるには、注意事項がたくさんあります。特に必要のない方は、APMモードの設定のままお使いになることを、強くお勧めします。

注意事項をご確認ください

ACPIモードでお使いになるときは、注意していただきたいことがあります。ここに記載している注意事項を十分確認してから、設定を変更してください。

操作手順を間違えないでください

設定を変更するときは、必ず手順どおりに行ってください。操作を間違えると、Windows98が起動できなくなる場合があります。

### ACPI モード使用時の注意事項

#### 作成されたデータに関する注意

ACPIモードを有効にする前に、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻します。

☞ 『トラブル解決Q&A』の「第3章 パソコンをふりだしにもどす」

ご購入時の状態に戻すと、本パソコンご購入後に作成されたファイルは、すべて消えてしまいます。大切なファイルは、必ずバックアップをとっておいてください。

また、本パソコンご購入後にインストールしたアプリケーションは、ACPIモードが有効になったあとに、インストールし直す必要があります。

#### オプション機器に関する注意

本パソコンで使用するPCカードなどのオプション機器が、ACPIモードに対応している必要があります。

ACPIモードを有効にしたあとで、ACPIモードに対応していないPCカードなどのオプション機器を接続すると、オプション機器が使えなかったり、サスペンド(一時停止)などの省電力モードから復帰できなくなる場合があります。事前にお使いになるPCカードなどのオプション機器が、ACPIモードに対応しているかどうかをご確認ください。なお、ご使用になるPCカードなどのオプション機器によっては、ドライバでACPIモードに対応できるものもあります。

#### アドバイス

CCDカメラについて  
本パソコンに添付のCCDカメラは、ACPIモードには対応していません。

### APMモードに戻すときの注意

ACPIモードに設定を変更後に、再びAPMモードへ戻すときにも、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻す必要があります。

### ネットワーク環境の使用時の注意

ネットワーク環境をご使用の場合、省電力モードへ移行すると通信先との接続が切れてしまい、レジューム（サスペンドする前の状態に戻す）時に、正常に通信を継続できなかったり、Windows98が正常に動作しなくなる場合があります。

### お使いになれない機能

#### BIOS セットアップの省電力メニュー

ACPIモードでは、Windows98がすべての省電力機能を制御します。そのため、BIOS セットアップの省電力メニューの設定は、すべて無効になります。

#### モデム着信によるレジューム

スタンバイ状態（サスペンド）で内蔵モデム着信をすると、常にレジュームします。レジュームさせたくない場合は、モジュラーコネクタからモジュラーケーブルを抜いておいてください。

## ACPIモードに設定する

### 必要なものを用意する

- ・『トラブル解決 Q&A』
- ・『リカバリ CD-ROM』
- ・『アプリケーション CD2』

### 重要

#### もう一度注意事項を確認してください

- ・ Windows 98のACPIモードを有効にしたあとに再びAPMモードに戻すときは、ハードディスク(Cドライブ)の内容をご購入時の状態に戻す必要があります。注意事項を再度ご確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、以下の操作を行ってください。「ACPIモード使用時の注意事項」(P.169)
- ・ 操作手順は間違えないように十分注意してください。手順を間違えると、Windows 98が起動できなくなる場合があります。

### ACPIモードの設定を始める前に

PCカードなどのオプション機器を接続していたり、アプリケーションをインストールされている場合には、以下の操作を行う必要があります。

#### オプション機器を取り外す

オプション機器を接続されている場合は、すべて取り外してください。また、すべての作業が完了するまでは、取り付けないでください。

#### BIOS セットアップの設定を戻す

BIOSセットアップの設定を変更している場合は、ご購入時の設定に戻してください。「ご購入時の設定に戻す」(P.122)

#### バックアップをとる

ご購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションは、すべて削除されます。必要なデータはあらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。また、インストールしたアプリケーションは、すべての作業が完了してからインストールし直してください。

## ACPIモードに設定する


### アドバイス

CD-ROM ドライブ  
ユニットを取り付け  
ておいてください

「ユニットを交換する」  
(P.24)

アクティブデスクトップ  
の解除を行います






「アクティブデスクトップ  
の解除」(P.158)

- 1 ハードディスクの内容を、ご購入時の状態に戻します。  
 『トラブル解決 Q&A』の「第3章 パソコンをふりだしにもどす」
- 2 パソコンの電源を入れ、スタートアップのアプリケーション登録をすべて削除します。

### 重要

スタートアップには何も登録しないでください

スタートアップにアプリケーションが登録されていると、ACPIモードに正しく設定されない場合があります。スタートアップへの登録は、ACPIモードを有効にしてから行ってください。

- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 4  (システム) をクリックし、表示されるウィンドウで「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 5 「マウス」の左の  をクリックし、「Alps GlidePoint」をクリックして「プロパティ」をクリックします。
- 6 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
- 7 「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウで「次へ」をクリックします。
- 8 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
- 9 「すべてのハードウェアを表示」をクリックして  にし、「製造元」に「(標準マウス)」、「モデル」に「標準 PS/2 ポートマウス」を選び、「次へ」をクリックします。  
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順11へ進んでください。
- 10 「はい」をクリックします。
- 11 「次へ」をクリックします。  
ファイルがコピーされます。
- 12 「完了」をクリックします。
- 13 「閉じる」をクリックし、「コントロールパネル」ウィンドウの右上の  (閉じるボタン) をクリックします。
- 14 本パソコンを再起動します。  
「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。「Windowsの終了」ウィンドウが表示されたら、「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。



## アドバイス

メッセージが表示されたとき

新しいハードウェアを検出している途中で、メッセージやウィンドウが表示されたときは、次の操作を行ってください。

・「Windows98 Second Edition CD-ROM ラベルの付いたディスクを挿入して「OK」をクリックしてください。」というメッセージが表示されたとき

「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで「c:¥windows¥options¥cabs」と入力して「OK」をクリックしてください。

・「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合

「はい」をクリックしてください。

・「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合


「OK」をクリックし、次に表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。

・「不明なデバイス」ウィンドウが表示された場合「キャンセル」をクリックして、次に進んでください。

すべてのハードウェアの検出と設定が完了すると、再起動を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って本パソコンを再起動してください。

メッセージが表示されない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」ウィンドウで「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

15 タスクバーの「McAfee VirusScan スケジューラ」および「McAfee Vshield」にマウスポインタを合わせ、フラットポイントの右ボタンをクリックして表示されるメニューで、「終了」をクリックします。

16 CD-ROM ドライブに「アプリケーションCD2」をセットします。

17 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイルを指定して実行」をクリックします。

18 「名前」の右の欄に e:¥chgacpi¥chgacpi.exe と入力し、「OK」をクリックします。

(e:にはお客様がお使いのCD-ROM ドライブ名を入力してください)

「FUJITSU ChgACPI」ウィンドウが表示されます。表示される内容をよくお読みください。

19 「次へ」をクリックします。

20 「ACPIモードに設定する」をクリックしてをにし、「次へ」をクリックします。

21 「完了」をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

画面の表示に従って、ハードウェアの検索を行ってください。検索には数分かかります。

検索が完了したら、画面の表示に従って Windows98 を再起動してください。

Windows98 を再起動すると、新しいハードウェアの検出が行われます。


22 「新しいハードウェアの検出」ウィンドウが表示されたら、画面の表示に従って、Windows98 を再起動してください。






## アドバイス

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに不明なデバイスが表示されたとき

Windows98の再起動中に「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに不明なデバイスが表示されたときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。






- 1 「キャンセル」をクリックします。  
しばらくすると、もう一度「不明なデバイス」が表示されます。
- 2 「キャンセル」をクリックし、再起動します。
- 3 「次へ」をクリックします。  
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 4 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックしてにし、「次へ」をクリックします。
- 5 デバイスの種類の一覧で「システムデバイス」をクリックして反転表示させ、「次へ」をクリックします。
- 6 「ディスク使用」をクリックします。
- 7 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、e:¥pmset と入力し、「OK」をクリックします。  
(e:にはお客様がお使いのCD-ROM ドライブ名を入力してください)
- 8 「モデル」欄に「Fujitsu FUJ02B1 Device Driver [x-xx-1999]」と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。  
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します」というウィンドウが表示されます。
- 9 「次へ」をクリックします。  
ファイルのコピーがはじまります。
- 10 「完了」をクリックします。

- 23 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 24 「名前」の右の欄に `e:\¥fixacpi¥fixacpi.exe` と入力し、「OK」をクリックします。  
(e:にはお客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)  
「FixACPI」ウィンドウが表示されます。表示される内容をよくお読みください。
- 25 「OK」をクリックします。  
再起動を確認するメッセージが表示されます。
- 26 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動されます。
- 27  「アプリケーションCD2」をCD-ROMドライブから取り出します。
- 28 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 29  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブで「接続別に表示」をクリックして  にします。  
「Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) BIOS」と表示されていることを確認します。  
ACPIモードが有効になりました。
- 30 「OK」をクリックします。

続いて、3モードフロッピードライブを再インストールしてください。




### 3 モードフロッピードライブを再インストールする

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 2 「種類別に表示」をクリックして  にし、「フロッピーディスクコントローラ」の左の  をクリックします。
- 3 「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)」をクリックし、「削除」をクリックします。  
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「閉じる」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの  (ハードウェアの追加) をクリックします。  
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というウィンドウが表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 9 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というウィンドウで「いいえ」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。  
「インストールするハードウェアの種類を選んでください。」というウィンドウが表示されます。
- 10 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 11 「製造元」に「FUJITSU」を、「モデル」に「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series) [FUJITSU] xx-xx-1998」を選び、「次へ」をクリックします。
- 12 「完了」をクリックします。  
インストールが完了すると、再起動を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って本パソコンを再起動してください。  
メッセージが表示されない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」ウィンドウで「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。


## Windows98の再設定を行う

ACPIモードを有効にすると、Windows98の設定の一部が変更されます。次の手順で再設定を行ってください。


### SUS/RES スイッチを押したときの動作設定

ACPIモードを有効にすると、SUS/RES スイッチを押したときの動作設定が、「シャットダウン(電源断)」になります。「コントロールパネル」ウィンドウの (電源の管理)の「詳細」タブの「電源ボタン」で、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を設定して、サスペンドするように設定を変更してください。

### 液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定

ACPIモードを有効にすると、液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定が、「何もしない」になります。「コントロールパネル」ウィンドウの (電源の管理)の「詳細」タブの「電源ボタン」で、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を設定してください。液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定が「何もしない」のときは、電源が入っている状態で液晶ディスプレイを閉じないでください。キーボードからの放熱効果が失われ、本パソコンが故障する原因となることがあります。

### オーディオの設定


ACPIモードを有効にすると、再生時のオーディオの詳細設定が「デスクトップステレオスピーカー」になります。「コントロールパネル」ウィンドウの (マルチメディア)の「オーディオ」タブの「再生」の一覧で「詳細プロパティ」をクリックし、「スピーカーの種類」を「ラップトップステレオスピーカー」に設定してください。

## ACPIモードで使う際のヒント

Windows98をACPIモードで使うときには、APMモードで使うときとは違った現象が発生します。ここではそのことについて説明します。

### レジューム時の画面表示

「モデム着信によるレジューム」機能でレジューム(サスペンドする前の状態に戻す)時に画面が表示されません。

フラットポイント(マウス)を操作すると画面が表示されます。表示されない場合はなどのキーを押してください。

この操作をしても画面が表示されない場合には、状態表示LCDの①が点滅していないか確認してください。点滅している場合にはサスペンドになっています。SUS/RES スイッチを押して、レジュームさせてください。

## フラットポイントについて

- ・ PS/2規格以外のマウスを接続すると、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。
- ・ スクロール機能付マウスをマウスコネクタに接続しているときは、本パソコンの動作中にマウスを抜かないでください。

## インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバについて(MF3/500Xのみ)

### インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバ

モバイルPentium® IIIプロセッサに組み込まれた電氣的に読み取り可能なシリアル番号で、ウェブ上でのセキュリティ向上や情報管理・資産管理などに利用することができます。

プロセッサ・シリアル・ナンバはソフトウェアアプリケーションを使用して読み取りが可能です。また、BIOS セットアップを使用して読み取り機能の「有効」/「無効」を設定することができます。

### BIOS セットアップについて

BIOS セットアップの「詳細」メニューの「CPU 設定」(P.125)でもプロセッサ・シリアル・ナンバの読み取り機能の設定をすることができます。

### プロセッサ・シリアル・ナンバについての詳細情報

プロセッサ・シリアル・ナンバの詳細については、<http://www.intel.com/jp/pentiumiii>を参照してください。

## 索引

## 記号

2DD フロッピーディスク .....	29
2HD フロッピーディスク .....	29
3.5 インチ FDD ユニット .....	85

## A

ACPI .....	169
AC アダプタ .....	64
- を取り付ける .....	64
- を取り外す .....	65
AC アダプタ表示 .....	12
Alt キー .....	16
APM .....	169
Application キー .....	16
A ボタン .....	17

## B

Back Space キー .....	15
BIOS	
- メッセージ一覧 .....	134
- メッセージが表示されたとき .....	139
BIOS セットアップ .....	118
- 購入時の設定に戻す .....	122
- の操作のしかた .....	119
- を起動する .....	119
- を終了する .....	121
BIOS のパスワード機能を使う .....	131
B ボタン .....	17

## C

Caps Lock 英数キー .....	15
Caps Lock 表示 .....	13
CCD カメラ .....	18, 25, 39, 85
- を取り付ける .....	39
- を取り外す .....	49
CD-R/RW ドライブユニット .....	25, 85
CD .....	32
- が取り出せなくなったとき .....	36
- の注意 .....	32
CD-ROM .....	32, 33
CD-ROM ドライブユニット .....	25, 85
CD アクセス表示 .....	12
CMOS RAM .....	118

CRT コネクタ .....	7, 11, 146
CRT ディスプレイ .....	106
- 解像度を変更する .....	111
- の走査周波数 .....	147
- 発色数を変更する .....	111
Ctrl キー .....	16

## D

DC-IN コネクタ .....	7, 11
Delete キー .....	15
DMA チャンネル .....	145
DVD-ROM ドライブユニット .....	25, 85

## E

E-mail ボタン .....	17
End キー .....	15
Enter キー .....	15
Esc キー .....	14

## F

FDD ユニット .....	17
- を接続する .....	27
- を取り外す .....	28
FDD ユニットコネクタ .....	11
FJV 形式 .....	47
FM キャプチャ .....	42
FM キャプチャの留意事項 .....	48
Fn キー .....	16

## H

High Color .....	52, 110
Home キー .....	15

## I

Insert キー .....	14
Intellisync .....	152
Internet ボタン .....	17
IRQ .....	145

## L

LAN カード .....	95
LOW バッテリー状態 .....	70

## M

MAIN スイッチ .....	7
MB .....	29
MO ドライブ .....	115
MPEG1 形式 .....	47

## N

Num Lock キー .....	14
Num Lock 表示 .....	13

## P

Page Down キー .....	15
Page Up キー .....	15
PC カード .....	85, 95, 101
- をセットする .....	96
- を取り出す .....	97
PC カードアクセス表示 .....	13
PC カードスロット .....	5
PC カード取り出し / ロックボタン .....	5
PC カードユニット .....	25, 85
PHS .....	85, 99
PHS 接続カード .....	95
PHS で通信する .....	102
PHS に接続する .....	99, 101
PIAFS .....	99, 101
PMSet98 .....	80
POST .....	118
Print Screen キー .....	14

## S

Save To Disk 機能 .....	73, 77
Save To Disk 領域 .....	149
Scroll Lock 表示 .....	13
SCSI .....	115
SCSI カード .....	95
Shift キー .....	15
SUS/RES スイッチ .....	3
SUS/RES 表示 .....	12

## T

True Color .....	52, 110
------------------	---------

## U

USB .....	7, 11
USB コネクタ .....	7, 11, 146
USB マウス .....	94

## W

Windows キー .....	16
------------------	----

## ア

アクセラランプ .....	17
---------------	----

## イ

イベントログメッセージ .....	138
インストール .....	86
- サウンドドライバ .....	164
- ディスプレイドライバ .....	159
インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバ .....	177

## エ

液晶ディスプレイ .....	3
- 明るさを変更する .....	55
- 解像度を変更する .....	52
- 発色数を変更する .....	52
液晶ディスプレイの特性 .....	19
エラーメッセージ (BIOS) .....	135

## オ

お手入れ .....	56
オプション機器 .....	84
音楽 CD .....	33
音量つまみ .....	50
音量の設定 .....	51
音量ボリューム .....	5, 50
音量を調節する .....	50

## カ

カーソルキー .....	15
解除ボタン .....	8
解像度 .....	52, 110
外部ディスプレイ .....	85, 106
- 解像度を変更する .....	111
- 発色数を変更する .....	111

- を接続する .....	106
- リフレッシュレートを変更する .....	111
書き込み可能 .....	31
書き込み禁止 .....	31
拡張 RAM モジュール .....	90
拡張 RAM モジュールスロット .....	8
拡張キーボードコネクタ .....	11, 147
拡張キーボード/マウスコネクタ .....	147
各部の名称と働き .....	2
稼動時間 .....	68
カバークローズスイッチ .....	3
カメラ調整ボタン .....	44
管理者用パスワード .....	131

## キ

キーボード .....	3, 14
- のお手入れ .....	56
- を接続する .....	94
起動時の自己診断テスト (POST) .....	118
起動メニュー .....	129

## ク

空冷用ファン .....	7
--------------	---

## ケ

携帯電話 .....	85, 99
携帯電話で通信する .....	102
携帯電話に接続する .....	99, 101

## コ

コネクタの信号名 .....	146
コネクタのピン配列 .....	146
コネクタボックス .....	22
- を取り外す .....	23
- を取り付ける .....	22
コネクタボックス接続コネクタ .....	8
コネクタボックス取り外しレバー .....	11
コンパクトディスク .....	32

## サ

サウンドドライバをインストールする .....	164
サスペンド/レジュームスイッチ .....	3

サスペンド機能 .....	73, 74
再生時の音量設定 .....	51

## シ

写真の画質を設定する .....	44
シャッターボタン .....	18
充電 .....	66
充電時間 .....	67
終了メニュー .....	130
仕様	
- 携帯電話接続用 USB ケーブル .....	145
- パソコン本体 .....	142
- モデム .....	144
仕様一覧 .....	142
詳細メニュー .....	124
状態表示 LCD .....	3, 12
省電力メニュー .....	128
情報メニュー .....	130
シリアルコネクタ .....	11, 146

## ス

スピーカー .....	3
スーパーディスクドライブユニット .....	25, 85

## セ

セカンダリアダプタ .....	113
赤外線通信 .....	152
赤外線通信ポート .....	7
セキュリティメニュー .....	126
接続・セット	
- AC アダプタ .....	64
- CCD カメラ .....	39
- CD .....	33
- CRT ディスプレイ .....	106
- FDD ユニット .....	27
- PC カード .....	96
- PHS .....	99, 101
- 外部ディスプレイ .....	106
- 携帯電話 .....	99, 101
- コネクタボックス .....	22
- テンキーボード .....	94
- バッテリー .....	71
- プリンタ .....	87

- フロッピーディスク .....	30
- マウス .....	94
- メモリ .....	90
接続コネクタ .....	11, 17, 18
節電 .....	73
節電機能 .....	78
節電の設定を変更する .....	79

## ソ

増設用内蔵バッテリーユニット .....	25, 85
外付けハードディスク .....	115

## テ

ディスプレイドライバをインストールする ...	159
ディスプレイの表示を切り替える .....	108
ディスプレイのお手入れ .....	56
デジタル携帯電話接続カード .....	95
デジタル写真	
- を送る .....	45
- を加工する .....	45
- を壁紙にする .....	45
- を撮る .....	42
- を保存する .....	45
デジタルビデオを撮る .....	45
テンキーボード .....	85, 94
- を接続する .....	94
テンキーモード .....	16
電源 .....	60
- の管理 .....	79
- を入れる .....	60
- を切る .....	62

## ト

盗難防止用ロック .....	6
ドライバ .....	86
ドライバのインストール .....	158
- 注意事項 .....	158
取り出しボタン .....	18
取り出す・取り外す	
- AC アダプタ .....	65
- CCD カメラ .....	49
- CD .....	35
- FDD ユニット .....	28

- PC カード .....	97
- コネクタボックス .....	23
- バッテリ .....	71
- フロッピーディスク .....	30
- メモリ .....	90
取り付け	
- AC アダプタ .....	64
- CCD カメラ .....	39
- CRT ディスプレイ .....	106
- FDD ユニット .....	27
- PC カード .....	96
- PHS .....	99, 101
- 外部ディスプレイ .....	106
- コネクタボックス .....	22
- 携帯電話 .....	99, 101
- テンキーボード .....	94
- バッテリ .....	71
- プリンタ .....	87
- マウス .....	94
- メモリ .....	90

## ナ

内蔵 CD-R/RW ドライブユニット .....	25, 85
内蔵 CD-ROM ドライブユニット .....	25, 85
内蔵 DVD-ROM ドライブユニット .....	25, 85
内蔵 PC カードユニット .....	25, 85
内蔵スーパーディスクドライブユニット ..	25, 85
内蔵バッテリーパック .....	85
内蔵バッテリーパックスロット .....	8
内蔵バッテリーパックロック .....	8
内蔵マイク .....	3
内蔵モデム .....	155

## ハ

ハードディスク .....	115
ハードディスクアクセス表示 .....	12
廃棄 .....	20
パスワード	
- を削除する .....	133
- を設定する .....	131
- を入力する .....	132
- を変更する .....	133
パソコンのお手入れ .....	56

発色数 .....	52, 110
バッテリー .....	66
- で使う .....	66
- の異常表示 .....	70
- の稼働時間 .....	68
- の残量を確認する .....	69
- の充電時間 .....	67
- の注意 .....	71
バッテリー残量表示 .....	12, 69
バッテリー充電表示 .....	12
バッテリーチャージャ .....	85
バッテリーパック .....	85
バッテリー装着表示 .....	12
バッテリーパックを交換する .....	71
バッテリーを充電する .....	66
パラレルコネクタ .....	11, 146
半角 / 全角キー .....	15

## ヒ

光磁気ディスクドライブ .....	115
ビデオ CD .....	33

## フ

ファンクションキー .....	14
フォーカスダイヤル .....	18
フォト CD .....	33
プライマリアダプタ .....	113
フラットポイント .....	3, 176
- スクロール機能 .....	3
プリンタ .....	85, 87
フロッピーディスク .....	27
- の注意 .....	29
- のデータを守る .....	31
- をセットする .....	30
- を取り出す .....	30
フロッピーディスクアクセス表示 .....	12
フロッピーディスクドライブ .....	17
フロッピーディスクドライブのお手入れ .....	56
フロッピーディスク取り出しボタン .....	17

## へ

ヘッドホン・ジャック .....	5
------------------	---

## ホ

ボタン .....	17
-----------	----

## マ

マイクイン・ジャック .....	5
マウス .....	85, 94
マウスコネクタ .....	11, 147
マウスを接続する .....	94
マルチモニタ機能 .....	113, 114
- 解像度 .....	114
- 発色数 .....	114

## メ

メール着信ランプ .....	17
メインメニュー .....	123
メモリ .....	85, 90
メモリを増やす .....	90

## モ

モジュラーコネクタ .....	5, 147
モジュラージャック .....	156
モデム .....	155
モデムの認証番号 .....	157
モバイルマルチベイ .....	6
モバイルマルチベイカバー .....	25
モバイルマルチベイユニット取り外しレバー .....	6

## ユ

ユーザー用パスワード .....	131
ユニット .....	24
ユニットを交換する .....	26

## ラ

ラインイン・ジャック .....	5
ラッチ .....	3

## リ

リソース一覧 .....	145
リフレッシュレート .....	111
リフレッシュレートを変更する .....	111



**レ**

レジューム ..... 76, 77  
レンズ ..... 18

**ロ**

ローゼット ..... 156  
録音時の音量設定 ..... 51

**ワ**

割り込み番号 (IRQ) ..... 145  
ワンタッチボタン ..... 3, 17, 37  
- アプリケーションの起動 ..... 37  
- 割り当ての変更 ..... 38

# MEMO

# MEMO

# MEMO

Microsoft および Windows、MS、MS-DOS、WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

K56flex は、Lucent Technologies 社、Conexant Systems Inc. の商標です。

MNP は、Microcom 社の登録商標です。

ZAURUS は、シャープ株式会社の登録商標です。

GlidePoint® は、米国 Cirque 社の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright® 富士通株式会社 2000

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

---

FMV-BIBLO MF3/500X, MF3/45

使いこなす本 ハード編

B3FH-5861-03-00

発行日 2000年2月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

---

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

Ⓜ 0002-1



# 箱を開けたら...

箱の中身を確認してください。  
ご購入後、できるだけ早く添付品を確認  
しましょう。

## はじめに読む本

まず最初に...

### 1 取扱説明書



ビデオを見てから  
本を見よう!



パソコンが初めてなら...

### 2 かるがるパソコン入門



CD-ROMが  
付いています!



FMVを知ろう!

### 3 FMV総合案内



## 使いこなす本



### インターネット編

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



### ソフト編

- ・デジタル写真を利用する
- ・はがきを作る
- ・電車の経路を調べる
- ・地図で調べる



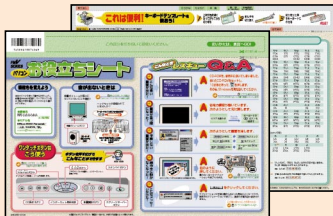
### ハード編

- ・各部の名称を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす

## 困ったときの本

### お役立ちシート

お手元に置いてお使いください  
・ありがちなトラブルの解決  
・文字入力早わかり



### トラブル解決Q&A

- ・パソコンが動かない!
- ・サポート情報
- ・パソコンをふりだしにもどす



### 画面で見る パソコン情報ランド

今すぐ役立つ情報がいっぱいです!  
・豊富なQ&A情報 ・マニュアル検索  
・パソコン用語集 ・トラブル解決のヒント



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。



T4988618875752